

Oracle® Business Intelligence Discoverer Viewer

ユーザーズ・ガイド

10g リリース 2 (10.1.2.1)

部品番号 : B25071-01

2005 年 9 月

Oracle Business Intelligence Discoverer Viewer ユーザーズ・ガイド, 10g リリース 2 (10.1.2.1)

部品番号 : B25071-01

原本名 : Oracle Business Intelligence Discoverer Viewer User's Guide, 10g Release 2 (10.1.2.1)

原本部品番号 : B13987-04

Copyright © 1996, 2005 Oracle. All rights reserved.

制限付権利の説明

このプログラム（ソフトウェアおよびドキュメントを含む）には、オラクル社およびその関連会社に所有権のある情報が含まれています。このプログラムの使用または開示は、オラクル社およびその関連会社との契約に記載された制約条件に従うものとします。著作権、特許権およびその他の知的財産権と工業所有権に関する法律により保護されています。

独立して作成された他のソフトウェアとの互換性を得るために必要な場合、もしくは法律によって規定される場合を除き、このプログラムのリバース・エンジニアリング、逆アセンブル、逆コンパイル等は禁止されています。

このドキュメントの情報は、予告なしに変更される場合があります。オラクル社およびその関連会社は、このドキュメントに誤りが無いことの保証は致し兼ねます。これらのプログラムのライセンス契約で許諾されている場合を除き、プログラムを形式、手段（電子的または機械的）、目的に関係なく、複製または転用することはできません。

このプログラムが米国政府機関、もしくは米国政府機関に代わってこのプログラムをライセンスまたは使用する者に提供される場合は、次の注意が適用されます。

U.S. GOVERNMENT RIGHTS

Programs, software, databases, and related documentation and technical data delivered to U.S. Government customers are "commercial computer software" or "commercial technical data" pursuant to the applicable Federal Acquisition Regulation and agency-specific supplemental regulations. As such, use, duplication, disclosure, modification, and adaptation of the Programs, including documentation and technical data, shall be subject to the licensing restrictions set forth in the applicable Oracle license agreement, and, to the extent applicable, the additional rights set forth in FAR 52.227-19, Commercial Computer Software--Restricted Rights (June 1987). Oracle Corporation, 500 Oracle Parkway, Redwood City, CA 94065.

このプログラムは、核、航空産業、大量輸送、医療あるいはその他の危険が伴うアプリケーションへの用途を目的としておりません。このプログラムをかかるとの目的で使用する際、上述のアプリケーションを安全に使用するために、適切な安全装置、バックアップ、冗長性（redundancy）、その他の対策を講じることは使用者の責任となります。万一かかるプログラムの使用に起因して損害が発生いたしましても、オラクル社およびその関連会社は一切責任を負いかねます。

Oracle、JD Edwards、PeopleSoft、Retek は米国 Oracle Corporation およびその子会社、関連会社の登録商標です。その他の名称は、他社の商標の可能性ががあります。

このプログラムは、第三者の Web サイトへリンクし、第三者のコンテンツ、製品、サービスへアクセスすることがあります。オラクル社およびその関連会社は第三者の Web サイトで提供されるコンテンツについては、一切の責任を負いかねます。当該コンテンツの利用は、お客様の責任になります。第三者の製品またはサービスを購入する場合は、第三者と直接の取引となります。オラクル社およびその関連会社は、第三者の製品およびサービスの品質、契約の履行（製品またはサービスの提供、保証義務を含む）に関しては責任を負いかねます。また、第三者との取引により損失や損害が発生いたしましても、オラクル社およびその関連会社は一切の責任を負いかねます。

目次

はじめに	v
対象読者	vi
ドキュメントのアクセシビリティについて	vi
関連ドキュメント	vi
表記規則	vii
Jgoodies のライセンス契約	vii
サポートおよびサービス	viii

第 I 部 概念およびタスク情報

1 Oracle Business Intelligence Discoverer Viewer の概要

Oracle Business Intelligence Discoverer とは	1-2
Discoverer Viewer を使用する理由	1-3
使用しやすいインタフェース	1-3
Discoverer Plus および Discoverer Desktop との一貫性	1-3
使い慣れたブラウザ機能と Discoverer Viewer	1-3
データベース・セキュリティ	1-4
統合とカスタマイズ	1-4
JavaScript 拡張ユーザー・インタフェース	1-4
各国語サポート	1-4
Oracle Portal への公開	1-4
Oracle Business Intelligence Discoverer Viewer 10g リリース 2 (10.1.2) の新機能	1-5
ワークブックとは	1-6
ワークシートとは	1-6
Discoverer ワークシート・タイプについて	1-6
テーブル・ワークシートについて	1-6
クロス集計ワークシートについて	1-7
キューブのコンポーネントについて	1-7
メジャーとは	1-7
ディメンションとディメンション・メンバーとは	1-7
ディメンション階層とは	1-8
ディメンション属性とは	1-8

2 Discoverer Viewer の起動

Discoverer 接続とは	2-2
Discoverer Viewer の起動について	2-2
「Discoverer Viewer」接続ページの表示方法	2-3
既存の接続を使用した Discoverer Viewer の起動方法	2-4
直接接続による Discoverer の起動方法	2-7
Discoverer Viewer の終了方法	2-9
よくある質問	2-10
End User Layer (EUL) とは	2-10
データベース・アカウントとは	2-10
Discoverer 接続でのログイン情報の作成および保存方法	2-11
Discoverer 接続の編集方法	2-13
Discoverer 接続の削除方法	2-13
パブリック接続とは	2-14
ユーザー定義接続とは	2-14
パスワードの変更が必要な時期と理由	2-14
接続用パスワードの変更方法	2-14
Discoverer 接続用 End User Layer の変更方法	2-15
シングル・サインオンとは	2-15
シングル・サインオン・パスワードと Discoverer パスワードの違い	2-15

3 Discoverer Viewer を使用したデータの分析

Discoverer ワークシートを開く方法	3-2
ワークシートの保存方法	3-3
印刷前のワークシートのプレビュー方法	3-4
ワークシートの印刷方法	3-4
Discoverer ワークシートのエクスポート	3-5
Discoverer ワークシートのエクスポート方法	3-5
異なるエクスポート・フォーマットの使用について	3-5
エクスポートした Excel ファイルを自動的に開くためのクライアント・マシンの構成方法	3-7
電子メールを使用した Discoverer ワークシートの送信方法	3-8
ワークシート・アイテムおよびセルのフォーマット方法	3-8
Discoverer を使用した条件付フォーマット設定の使用	3-9
条件付フォーマットとは	3-9
ストップライト・フォーマットとは	3-10
条件付ヘッダー・フォーマットとは	3-10
条件付フォーマットの起動および停止方法	3-11
条件付フォーマットの優先順位の変更方法	3-11
条件付フォーマットの作成方法	3-12
ストップライト・フォーマットの作成方法	3-12
条件付ヘッダー・フォーマットの作成方法	3-13
条件付フォーマットの編集方法	3-13
条件付フォーマットの削除方法	3-14

Discoverer Viewer でのグラフの使用	3-14
グラフの使用	3-14
グラフの編集方法	3-15
グラフの表示または非表示方法	3-15
Discoverer Viewer でのパラメータの使用	3-16
パラメータでの索引および値の使用	3-16
ワークシートへの異なるパラメータの適用方法	3-16
値リスト使用時のエラーについて	3-16
ワークシートでのアイテムおよびメジャーのソート方法	3-17
Discoverer Viewer を使用したドリル	3-17
ワークシートでのドリル・ダウン方法	3-18
ワークシートでのドリル・アップ方法	3-18
ワークシートのレイアウトの変更方法	3-19
保存済選択の適用方法	3-19

第 II 部 参照情報

4 ダイアログ参照

「Viewer」 ページについて	4-3
添付タイプの選択（電子メール添付ファイルで送信）	4-4
「エクスポート・タイプの選択」 ページ	4-5
「コンポーネントは無効です」 ページ	4-6
「条件付フォーマット（テーブル/クロス集計）」 ページ	4-7
「条件付セル・フォーマットの作成」 ページ	4-9
「条件付ヘッダー・フォーマットの作成」 ページ	4-13
「ストップライト・フォーマットの作成」 ページ	4-15
「ドリル」 ページ	4-17
「パラメータの編集」 ページ	4-18
「エラー」 ページ	4-20
「エクスポートが用意できています」 ページ	4-21
「セルのフォーマット」 ページ	4-22
ワークシート・データのフォーマット・リンク・ページ	4-25
「ログアウト」 ページ	4-26
「複合ソート」 ページ	4-27
「PDF が用意できています」 ページ	4-28
「PDF サンプルが用意できています」 ページ	4-29
「プリファレンス」 ページ	4-30
「印刷可能ページ・オプション」 ページ: 「内容」 タブ	4-33
「印刷可能ページ・オプション」 ページ: 「ページ設定」 タブ	4-36
「クエリーは取り消されました」 ページ	4-38
「クエリーの確認が必要です」 ページ	4-39
「クエリーの進行状況」 ページ	4-40
警告の保存ページ	4-41
「ワークブックに名前を付けて保存」 ページ	4-42
「検索と選択」 ページ	4-43
「電子メールの送信」 ページ	4-44
「テーブル・レイアウト/クロス集計レイアウト」 ページ	4-45
ワークシートの表示ページ	4-46
ワークシートの表示ページ: (「操作」 および「ワークシート」 リンク)	4-47

ワークシートの表示ページ: (グラフ・ツール)	4-49
ワークシートの表示ページ: (ページ・レベルのツールおよびコントロール)	4-52
ワークシートの表示ページ: (テーブル/クロス集計ツール)	4-54
「ワークシート・リスト」 ページ	4-58
「ワークシート・オプション」 ページ	4-60

索引

はじめに

ビジネス・データの分析を可能にするツール Oracle Business Intelligence Discoverer Viewer へようこそ。

対象読者

このガイドは、Discoverer を使用して業務での意思決定に役立つデータを表示する場合や、次の作業の方法を知りたい場合に使用してください。

- 既存のワークブックを使用した関心のある情報の検索
- 要件に合わせた情報の構成
- 様々な方法での情報の分析
- 他のユーザーとの情報の共有

ドキュメントのアクセシビリティについて

オラクル社は、障害のあるお客様にもオラクル社の製品、サービスおよびサポート・ドキュメントを簡単にご利用いただけることを目標としています。オラクル社のドキュメントには、ユーザーが障害支援技術を使用して情報を利用できる機能が組み込まれています。HTML 形式のドキュメントで用意されており、障害のあるお客様が簡単にアクセスできるようにマークアップされています。アクセシビリティの標準規格は改善されつつあります。オラクル社はドキュメントをすべてのお客様がご利用できるように、市場をリードする他の技術ベンダーと積極的に連携して技術的な問題に対応しています。オラクル社のアクセシビリティについての詳細情報は、Oracle Accessibility Program の Web サイト <http://www.oracle.com/accessibility/> を参照してください。

ドキュメント内のサンプル・コードのアクセシビリティについて

スクリーン・リーダーは、ドキュメント内のサンプル・コードを正確に読めない場合があります。コード表記規則では閉じ括弧だけを行に記述する必要があります。しかし一部のスクリーン・リーダーは括弧だけの行を読まない場合があります。

外部 Web サイトのドキュメントのアクセシビリティについて

このドキュメントにはオラクル社およびその関連会社が所有または管理しない Web サイトへのリンクが含まれている場合があります。オラクル社およびその関連会社は、それらの Web サイトのアクセシビリティに関しての評価や言及は行っておりません。

関連ドキュメント

このマニュアルで参照されているドキュメントおよび Oracle Business Intelligence に関するその他の情報（ホワイト・ペーパー、ベスト・プラクティス、最新版ドキュメントなどの資料）は、OTN-J（Oracle Technology Network Japan）の次のサイトからアクセスできます。

<http://otn.oracle.co.jp/>

表記規則

次の表に、このマニュアルで使用する表記規則を示します。

規則	意味
太字	太字は、操作に関連するグラフィカル・ユーザー・インタフェース要素、または本文中や用語集で定義されている用語を示します。
イタリック	イタリックは、特定の値を指定するプレースホルダ変数を示します。
固定幅フォント	固定幅フォントは、段落内のコマンド、URL、サンプル・コード、画面上に表示されるテキスト、またはユーザーが入力するテキストを示します。
<>	山カッコ内は、ユーザーが指定する名前または値を表します。
[]	大カッコは、カッコ内の項目を任意に選択することを表します。

Jgoodies のライセンス契約

Oracle Business Intelligence には、次のライセンス契約に従い、JGoodies 社のソフトウェアが含まれています。

Copyright© 2003 JGoodies Karsten Lentzsch.All rights reserved.

Redistribution and use in source and binary forms, with or without modification, are permitted provided that the following conditions are met:

- Redistributions of source code must retain the above copyright notice, this list of conditions and the following disclaimer.
- Redistributions in binary form must reproduce the above copyright notice, this list of conditions and the following disclaimer in the documentation and/or other materials provided with the distribution.
- Neither the name of JGoodies nor the names of its contributors may be used to endorse or promote products derived from this software without specific prior written permission.

THIS SOFTWARE IS PROVIDED BY THE COPYRIGHT HOLDERS AND CONTRIBUTORS "AS IS" AND ANY EXPRESS OR IMPLIED WARRANTIES, INCLUDING, BUT NOT LIMITED TO, THE IMPLIED WARRANTIES OF MERCHANTABILITY AND FITNESS FOR A PARTICULAR PURPOSE ARE DISCLAIMED. IN NO EVENT SHALL THE COPYRIGHT OWNER OR CONTRIBUTORS BE LIABLE FOR ANY DIRECT, INDIRECT, INCIDENTAL, SPECIAL, EXEMPLARY, OR CONSEQUENTIAL DAMAGES (INCLUDING, BUT NOT LIMITED TO, PROCUREMENT OF SUBSTITUTE GOODS OR SERVICES; LOSS OF USE, DATA, OR PROFITS; OR BUSINESS INTERRUPTION) HOWEVER CAUSED AND ON ANY THEORY OF LIABILITY, WHETHER IN CONTRACT, STRICT LIABILITY, OR TORT (INCLUDING NEGLIGENCE OR OTHERWISE) ARISING IN ANY WAY OUT OF THE USE OF THIS SOFTWARE, EVEN IF ADVISED OF THE POSSIBILITY OF SUCH DAMAGE.

サポートおよびサービス

次の各項に、各サービスに接続するための URL を記載します。

オラクル社カスタマ・サポート・センター

オラクル製品サポートの購入方法、およびオラクル社カスタマ・サポート・センターへの連絡方法の詳細は、次の URL を参照してください。

<http://www.oracle.co.jp/support/>

製品マニュアル

製品のマニュアルは、次の URL にあります。

<http://otn.oracle.co.jp/document/>

研修およびトレーニング

研修に関する情報とスケジュールは、次の URL で入手できます。

<http://www.oracle.co.jp/education/>

その他の情報

オラクル製品やサービスに関するその他の情報については、次の URL から参照してください。

<http://www.oracle.co.jp>

<http://otn.oracle.co.jp>

注意： ドキュメント内に記載されている URL や参照ドキュメントには、Oracle Corporation が提供する英語の情報も含まれています。日本語版の情報については、前述の URL を参照してください。

第 I 部

概念およびタスク情報

ここでは、Oracle Business Intelligence Discoverer Viewer の概念およびタスク情報について説明します。

Oracle Business Intelligence Discoverer Viewer の概要

この章では、Oracle Business Intelligence Discoverer Viewer について説明します。次のトピックがあります。

- Oracle Business Intelligence Discoverer とは
- Discoverer Viewer を使用する理由
- Oracle Business Intelligence Discoverer Viewer 10g リリース 2 (10.1.2) の新機能
- ワークブックとは
- ワークシートとは
- Discoverer ワークシート・タイプについて
- キューブのコンポーネントについて

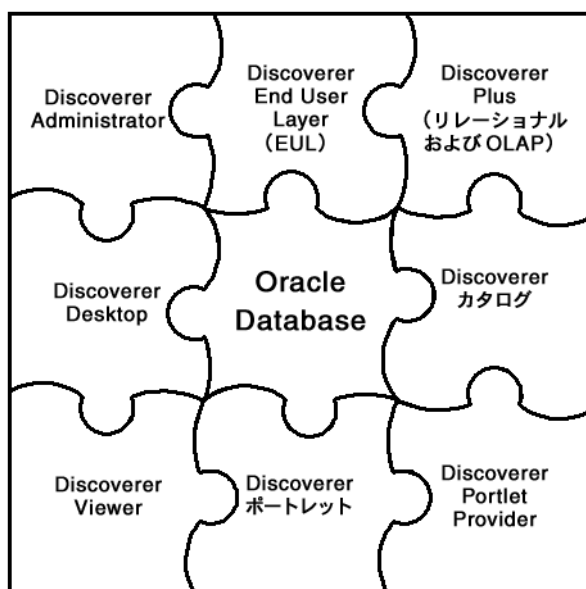
Oracle Business Intelligence Discoverer とは

Oracle Business Intelligence Discoverer は、直観的で非定型のクエリー、レポート作成、分析および Web パブリッシングのツールセットであり、これによってビジネス・ユーザーは、データベースの情報に即時にアクセスできます。

Oracle Business Intelligence Discoverer を使用することによって、組織のすべてのレベルのビジネス・ユーザーが、業務での意思決定をより迅速に、また豊富な情報に基づいて行うことができます。標準の Web ブラウザを使用し、リレーショナルとマルチディメンショナル両方のデータ・ソースにセキュアかつ即時にアクセスできます。Oracle Business Intelligence Discoverer では、基礎となるデータ構造の複雑さを表示しないビジネス・ビューが提供されるため、業務上の問題の解決にのみ集中できます。

Oracle Business Intelligence Discoverer は、統合された複数のコンポーネントで構成されています。これらのコンポーネントが Oracle データベースと連携して機能することによって、完成された統合ビジネス・インテリジェンス・ソリューションが提供されます。

図 1-1 Discoverer BI ツールセット



Oracle Business Intelligence Discoverer のどのコンポーネントを使用するかは、次の例のように目的によって異なります。

- 新しいワークシートを作成し、Web 上からリレーショナルとマルチディメンショナル両方のデータ・ソースのデータを分析する場合は、Discoverer Plus (リレーショナルおよび OLAP) を使用します。
- 新しいワークシートを作成し、PC 上の Windows アプリケーションを使用してリレーショナル・データ・ソースを分析する場合は、Discoverer Desktop を使用します。
- 既存のワークシートのデータを分析する場合は、Discoverer Viewer または Discoverer ポートレット (Discoverer Portlet Provider を使用して Oracle Portal ページに追加されたもの) を使用します。
- Discoverer ワークシートをダッシュボード・スタイルのポータルでゲージとして表示する場合は、Discoverer Portlet Provider と Discoverer ポートレットを使用します。
- リレーショナル・データのエンド・ユーザー・ビューを管理する場合は、Discoverer Administrator を使用します。

Oracle Business Intelligence Discoverer コンポーネントでは、Discoverer End User Layer または Discoverer カタログに格納された Discoverer オブジェクトの定義を使用します。

Discoverer Viewer を使用する理由

今日の意思決定担当者は、最新の企業情報と主要な達成標識を追跡するビジネス・インテリジェンス・ソリューションを必要としています。Oracle Business Intelligence の一部である Oracle Business Intelligence Discoverer Viewer は、直観的で非定型のクエリー、レポート作成および分析のツールです。このツールによってビジネス・ユーザーが、データ・ウェアハウス、データマートおよびオンライン・トランザクション処理システムの情報に即時にアクセスできます。

Discoverer Viewer を使用することによって、ビジネス・ユーザーはデータを容易に情報に変え、使い慣れた直観的なユーザー・インタフェースである Web ブラウザを使用して社内全体にシームレスに公開できます。

Discoverer Viewer を使用する利点は次のとおりです。

- 使用しやすいインタフェース
- Discoverer Plus および Discoverer Desktop との一貫性
- 使い慣れたブラウザ機能と Discoverer Viewer
- データベース・セキュリティ
- 統合とカスタマイズ
- JavaScript 拡張ユーザー・インタフェース
- 各国語サポート
- Oracle Portal への公開

使用しやすいインタフェース

Discoverer Viewer は容易に使用できます。馴染みのある用語と Web ブラウザを使用してデータを直接操作することができます。ブラウザをよく理解しているユーザーは、Discoverer Viewer をすぐに使用できるようになります。

Discoverer Plus および Discoverer Desktop との一貫性

Discoverer Viewer のユーザーは、データベースの既存のビジネス・ビューをすぐに使用できます。Discoverer Plus または Discoverer Desktop を使用して作成されたすべてのレポート（ワークブック）は、Discoverer からただちに実行できます。

使い慣れたブラウザ機能と Discoverer Viewer

次のような Web ブラウザの通常の機能はすべて使用できます。

- お気に入りレポートのブックマークへの登録
- 「戻る」ボタンと「進む」ボタンを使用したナビゲート
- ブラウザの印刷機能を使用した印刷出力
- 登録済アプリケーションの起動による、Discoverer Viewer を使用してエクスポートしたデータの処理

データベース・セキュリティ

Discoverer Viewer では、既存のデータベース・セキュリティを Discoverer Administrator での定義として使用します。追加設定は不要です。どのユーザーも、表示権限のないデータは見ることはできません。Discoverer Viewer を Oracle Applications とともに使用すると、ロールと職責の使用も含めて、Oracle Applications のセキュリティ・モデルが使用されます。Discoverer Viewer は、Oracle Applications のセキュリティ・モデルと直接統合された唯一のビジネス・インテリジェンス製品です。

統合とカスタマイズ

Discoverer Viewer は、スタンドアロンのビジネス・インテリジェンス・ツールとして使用することも、Web サイトやポータルの中へデータベース出力を統合するために使用することもできます。これに加えて、Discoverer Viewer は Web サイトのルック・アンド・フィールにあわせて容易にカスタマイズできるため、会社のロゴなどの画像を取り込んだり、Web 用のカスタム Discoverer アプリケーションを作成することができます。詳細は、『Oracle Business Intelligence Discoverer 構成ガイド』を参照してください。

JavaScript 拡張ユーザー・インタフェース

Discoverer Viewer では、JavaScript を使用してユーザー・インタフェースを拡張しています。この拡張ユーザー・インタフェースを利用するためには、ブラウザで JavaScript と Cookie のサポートを有効にする必要があります。JavaScript と Cookie のサポートの情報は、ブラウザのドキュメントを参照してください。

各国語サポート

Discoverer Viewer では多数の言語がサポートされています。「接続」ページまたは「オプション」ページのドロップダウン・リストから選択することによって、優先言語を指定できます。「接続」ページのドロップダウン・リストでは、ユーザーの優先言語（ブラウザで設定した言語）がデフォルトの言語になっています。優先言語の設定の詳細は、ブラウザのドキュメントを参照してください。

Oracle Portal への公開

Oracle Portal を使用することによって、Discoverer のワークブックおよびワークシートを企業情報ポータルに迅速かつ容易に公開できます。公開プロセスは Oracle Portal の直観的なユーザー・インタフェースで順を追って説明されるため、専門知識が豊富でないユーザーも、強力なビジネス・インテリジェンス・ポータルを簡単に作成できます。

Oracle Business Intelligence Discoverer Viewer 10g リリース 2 (10.1.2) の新機能

Oracle Business Intelligence Discoverer Viewer 10g リリース 2 (10.1.2) で新たに追加および改良された機能は次のとおりです。

- データベース OLAP オプションのネイティブ・サポート: Discoverer Viewer でマルチディメンショナル・データベースを分析できるようになりました。
- VPD での Single Sign-On サポート: Single Sign-On ID (使用する場合は、使用中の Virtual Private Database ポリシーに伝播されます (詳細は、『Oracle Business Intelligence Discoverer 構成ガイド』を参照してください))。
- 電子メールのサポート: ワークシートを電子メール・メッセージの添付ファイルとして送信します (詳細は、「[電子メールを使用した Discoverer ワークシートの送信方法](#)」を参照してください)。
- データベースへの保存: ワークシートをデータベースに保存します (詳細は、「[ワークシートの保存方法](#)」を参照してください)。
- カスタマイズ: Viewer のルック・アンド・フィールとレイアウトを Oracle Application Server Control を使用してカスタマイズできます (詳細は、『Oracle Business Intelligence Discoverer 構成ガイド』を参照してください)。
- ドリルの拡張: 関連データへのドリルおよびグラフ・データへの直接ドリルによって、他の Discoverer ワークシートまたはインターネットの URL を表示します (詳細は、「[Discoverer Viewer を使用したドリル](#)」を参照してください)。
- 印刷機能の拡張: 詳細ページ設定の定義、印刷のプレビュー、サンプルの生成および PDF 形式による印刷を実行します (詳細は、「[印刷前のワークシートのプレビュー方法](#)」および「[ワークシートの印刷方法](#)」を参照してください)。
- 新規エクスポート・フォーマット: Microsoft Excel シートからクエリーを実行する Excel の Web クエリー (*.Iqy) 形式、および PDF 形式へのエクスポート (詳細は、「[Discoverer ワークシートのエクスポート](#)」を参照してください)。
- ワークシート・フォーマットの拡張: 条件付フォーマットおよびストップライトのフォーマットを定義します (詳細は、「[Discoverer を使用した条件付フォーマット設定の使用](#)」を参照してください)。
- パラメータ処理の拡張: 値リストのパラメータの検索および選択、必須パラメータまたはオプション・パラメータの追加、索引および値の使用が可能です (詳細は、「[Discoverer Viewer でのパラメータの使用](#)」を参照してください)。
- グラフ機能の拡張: 新規グラフ・タイプ、事前定義済グラフ・スタイル、グラフでのドリルが可能です (詳細は、「[Discoverer Viewer でのグラフの使用](#)」を参照してください)。
- Oracle Applications ユーザー用シングル・サインオン・サポート: プライベート接続を作成して使用し、認証済の OracleAS シングル・サインオン・ユーザーを使用して Oracle Applications 環境に直接接続します (詳細は、「[Discoverer Viewer の起動について](#)」を参照)。

ワークブックとは

ワークブックは、データベースから取得したデータを表示するワークシートが格納された Discoverer ファイルです。スプレッドシート・アプリケーション（Microsoft Excel など）をよく理解している場合は、ワークブックをスプレッドシート・ファイルと考えてください。Discoverer ワークブックは、データベース（リレーショナル・データの場合）または Discoverer カタログ（マルチディメンショナル・データの場合）に格納されます。

ワークブックには通常、なんらかの関連性を持ったデータが格納されますが、これらのデータは様々な観点を提供するように構成されています。

ワークシートとは

ワークシートには、分析対象のデータが、データの分析に役立つ複数の Discoverer 構成要素とともに含まれます。たとえば、パラメータ、合計、パーセンテージ、例外およびユーザー定義アイテムをワークシートに含めることができます。

スプレッドシート・アプリケーション（Microsoft Excel など）をよく理解している場合は、ワークブックをスプレッドシート・ファイル、ワークシートをそのスプレッドシート・ファイルの中のそれぞれのシートと考えてください。

Discoverer ワークシート・タイプについて

Discoverer では、次の 2 通りの方法でデータを表示できます。

- テーブル・ワークシートへの表示：「[テーブル・ワークシートについて](#)」を参照してください。
- クロス集計（複数の表の集計）ワークシートへの表示：「[クロス集計ワークシートについて](#)」を参照してください。

テーブル・ワークシートについて

テーブル・ワークシートでは、データが行と列にリストされます。次の図は、地域内の各都市の収益額を分析するテーブル・ワークシートの例です。

図 1-2 テーブル・ワークシート

Region	City	Department	Profit SUM
East	Atlanta	Video Rental	¥6,968
East	Atlanta	Video Sale	¥23,072
East	Boston	Video Rental	¥16,706
East	Boston	Video Sale	¥34,858
Central	Chicago	Video Rental	¥7,948
Central	Chicago	Video Sale	¥20,699
Central	Cincinnati	Video Rental	¥31,112
Central	Cincinnati	Video Sale	¥69,472
Central	Dallas	Video Rental	¥8,733
Central	Dallas	Video Sale	¥13,142
West	Denver	Video Rental	¥16,898
West	Denver	Video Sale	¥33,595

注意：テーブル・ワークシート・スタイルは、リレーショナル・データの分析にのみ使用します。

クロス集計ワークシートについて

クロス集計ワークシート（複数の表の集計）は、2つのデータ・セットを関連付け、両者の相互関係を第3のデータ・セットの観点から要約します。次の図は、各地域の収益額を部署別に分析するテーブル・ワークシートの例です。

図 1-3 クロス集計ワークシート

	Region	Central	East	West
a		Profit SUM	Profit SUM	Profit SUM
b	Department			
	Video Rental	¥116,174	¥179,417	¥100,694
c	Video Sale	¥234,498	¥363,657	¥196,360
	合計値	¥350,672	¥543,073	¥297,054

数値のキー：

- a. 上軸は、「Region」アイテムを表示します。
- b. 左軸は、「Department」アイテムを表示します。
- c. データ・ポイントには、各地域の部署ごとの収益総額が表示されます。

地域と部署のアイテムは、クロス集計の行と列に表示されます。行と列の交差箇所はそれぞれデータ・ポイントを示しています。この例の場合、データ・ポイントは特定地域の特定部署の収益総額です。

キューブのコンポーネントについて

マルチディメンショナル・データ・ソース中のキューブには、次のコンポーネントがあります。

- メジャー。データ自体に指定された名前です。
- 1つ以上のディメンション。ディメンションは、データを分類するキューブの各部分に指定された名前です。製品、地理、時間などがその例です。ディメンションは、ディメンション・メンバー、ディメンション階層および属性を持っています。

キューブには、異なるディメンション間で可能な組合せごとにメジャー値が格納されます。したがって、Discoverer Plus OLAP などのアプリケーションでは、特定の年の特定の都市における特定商品の売上額を、きわめて迅速に検索できます。

メジャーとは

OLAP メタデータでは、メジャーはクロス集計とグラフで調査および分析できるデータを表します。たとえば、売上、コスト、収益などです。

ディメンションとディメンション・メンバーとは

メジャーには、そのメジャー内のデータを分類するディメンションがあります。たとえば、売上メジャーのディメンションとしては、製品、時間および地理が考えられます。あるメジャーが特定のディメンションを持つ場合、そのメジャーはそのディメンションによって次元化されていることとなります。たとえば、売上は製品によって次元化されます。あるメジャーのディメンションのグループは、そのメジャーのディメンショナルリティを構成します。たとえば、売上のディメンショナルリティは製品、時間および地理です。

ディメンション内の各要素は、ディメンション・メンバーです。たとえば、2001年1月、2001年2月、2001年3月、2001年第1四半期および2001年度は、時間ディメンションのメンバーといえます。

ディメンション階層とは

ディメンション階層は、2つ以上のディメンション・メンバー間の階層関係を記述します。

個々のディメンション・メンバー間には、階層関係が存在する可能性があります。たとえば、特定の日は特定の月に属し、その月は特定の年内にあります。このような関係を反映するために、ディメンション・メンバーはディメンション階層に組み込まれます。

ディメンション階層は論理構造であり、データを編成および集計する手段として順序付けレベルが使用されます。たとえば、時間ディメンションは、月レベルから四半期レベル、年度レベルへとデータを集計するための階層を持つ可能性があります。

1つのディメンションで複数の階層を持つことができます。たとえば、時間ディメンションは、月 - 四半期 - 年度のディメンション階層に加えて、日 - 月 - 年度のディメンション階層を持つことがあります。ただし、同じディメンションに複数の階層が存在する場合は、1つの階層をデフォルト階層として指定する必要があります。

ディメンション属性とは

ディメンション属性は、複数のディメンション・メンバーによって共有される特性を記述します。ディメンション属性を使用すると、類似した特定に基づいてデータを選択できます。たとえば、製品ディメンションに色属性がある場合は、色の赤い製品をすべて検索することが可能です。

Discoverer Viewer の起動

この章では、Discoverer Viewer の起動方法について説明します。次のトピックがあります。

- Discoverer 接続とは
- Discoverer Viewer の起動について
- 「Discoverer Viewer」接続ページの表示方法
- 既存の接続を使用した Discoverer Viewer の起動方法
- 直接接続による Discoverer の起動方法
- Discoverer Viewer の終了方法
- よくある質問

Discoverer 接続とは

Discoverer 接続にはログインの詳細が保存され、これにより Discoverer Viewer への接続が可能になります。各接続に保存される情報は次のとおりです。

- データベース・ユーザー名
- データベース・パスワード
- データベース名
- Oracle Applications の職責（オプション）
- 言語
- EUL（リレーショナル・データのみ）

Discoverer へのログインの詳細は、接続を作成すると自動保存されます。以後、Discoverer Viewer を実行すると表示される Discoverer 接続のリストで接続名をクリックするだけで、Discoverer Viewer を起動できるようになります。

Discoverer マネージャは、パブリック接続も作成できます。パブリック接続を使用すると、ユーザー固有の接続を作成せずに、Discoverer を起動してワークブックにアクセスできます。ユーザーはパブリック接続を編集または削除できません。パブリック接続を作成、編集および削除できるのは、Discoverer マネージャのみです。

注意

- 接続を作成せず、直接接続することによって Discoverer Viewer を起動することもできます（詳細は、「[直接接続による Discoverer の起動方法](#)」を参照してください）。
- プライベート接続でのログイン情報の保存方法の詳細は、「[Discoverer 接続でのログイン情報の作成および保存方法](#)」を参照してください。
- ユーザー固有の Discoverer Viewer 接続を作成するためにログインの詳細が必要な場合は、Discoverer マネージャに連絡してください。

Discoverer Viewer の起動について

次の表に示すように、Discoverer Viewer には複数の起動方法があります。

Discoverer Viewer の起動方法	使用する状況
Discoverer マネージャが作成した既存の事前定義済接続（パブリック接続）を使用	Discoverer マネージャがユーザーのログインの詳細をすでに作成しているため、ユーザーが自分でログインの詳細を入力する必要がない場合（詳細は、「 既存の接続を使用した Discoverer Viewer の起動方法 」を参照）
ユーザーが自分で作成した既存のユーザー定義接続（プライベート接続）を使用	ユーザーが以前に保存したログインの詳細を使用して Discoverer Viewer に接続する場合（詳細は、「 既存の接続を使用した Discoverer Viewer の起動方法 」を参照）
ユーザー定義接続（プライベート接続）を新規に作成	新規ログインを使用して Discoverer Viewer に接続する場合（詳細は、「 Discoverer 接続でのログイン情報の作成および保存方法 」を参照）
ログインの詳細を入力して直接接続（ログインの詳細は接続に保存されない）	Discoverer Viewer に接続しても、ログインの詳細を後で使用するために保存しない場合（詳細は、「 直接接続による Discoverer の起動方法 」を参照）

使用しているインターネット・ブラウザとネットワーク・サーバーの構成によっては、最初に Discoverer Viewer を起動したときにセキュリティに関するダイアログが表示される場合があります。このセキュリティ・ダイアログが表示されるのは、Discoverer Viewer が Discoverer

サーバーまたはローカル・デバイス（プリンタなど）にアクセスするために追加権限をリクエストした場合です。このダイアログが接続のたびに表示されないようにするには、オラクル社からの内容を常に信頼オプションを選択します。「はい」（ブラウザによっては「OK」または「権限付与」）をクリックし、Discoverer Viewer の起動を続行します。

Discoverer Viewer を起動する際に、複数のブラウザ・ウィンドウを開き（Internet Explorer の場合など）、新しいブラウザ・ウィンドウで続けて Discoverer Viewer を使用することはできません。Web ブラウザの多くは、複数のブラウザ・ウィンドウを同時に開けます（たとえば、[Ctrl] キーを押しながら [N] キーを押す）。Discoverer Viewer を複数のブラウザ・ウィンドウで使用するには、新しいブラウザ・ウィンドウごとに新しい接続を使用する必要があります。

「Discoverer Viewer」 接続ページの表示方法

Discoverer Viewer を起動する接続（保存されたデータベース・ログイン詳細のセット）を選択、または Discoverer Viewer に直接接続するために、「Discoverer Viewer」 接続ページを表示します。「Discoverer Viewer」 接続ページは、Discoverer 接続の編集および削除にも使用できます。

「Discoverer Viewer」 接続ページを表示する手順は、次のとおりです。

1. Web ブラウザを起動します。
2. Discoverer マネージャによって割り当てられた Discoverer の Web アドレスに移動します。

ヒント: Discoverer の Web アドレスには、次のようなものがあります。

- ユーザーがブラウザを起動したときにアクセスするデフォルトの Web ページ
- ブラウザのアドレス・フィールドに入力するインターネット・アドレス（URL）（典型的な URL は、<http://machinename.myorganization.com:7777/discoverer/viewer> などです。）
- ユーザーが使用しているポータルなどのインターネットまたはイントラネットのサイトからのリンク

「OracleBI Discoverer に接続」 ページが表示されます。



「接続」列に既存の Discoverer 接続のリストが表示されます。

注意

- プライベート Discoverer 接続の作成および保存方法は、「[Discoverer 接続でのログイン情報の作成および保存方法](#)」を参照してください。
- このページに接続や「接続の作成」ボタンが表示されない場合は、次のいずれかに該当します。
 - 「直接接続」領域に接続の詳細を入力することにより、Discoverer に接続できます（詳細は、「[直接接続による Discoverer の起動方法](#)」を参照してください）。
 - Discoverer が Infrastructure と関連付けられていません（詳細は、Discoverer マネージャにお問い合わせください）。

既存の接続を使用した Discoverer Viewer の起動方法

既存の接続を使用して Discoverer Viewer を起動する場合は、次のいずれかの接続が使用できます。

- Discoverer マネージャが作成した既存のパブリック接続
- ユーザーが以前に作成した既存のプライベート接続

既存の接続を使用して Discoverer Viewer を起動する手順は、次のとおりです。

1. 「Discoverer Viewer」接続ページを表示します（詳細は、「[「Discoverer Viewer」接続ページの表示方法](#)」を参照してください）。
2. 「接続」列で接続名を選択し、Discoverer Viewer を起動します。

ヒント: 適切な接続を使用しているかどうかを確認するには、「詳細」列の「表示」をクリックし、接続についての詳細情報を表示します。追加情報を非表示にするには、「非表示」をクリックします。

注意: すでに Oracle のシングル・サインオン機能を使用してデータベースに接続している場合は、Discoverer Viewer の起動時にパスワード情報の入力を求められません。

Discoverer Viewer が起動して「ワークシート・リスト」ページが表示されます。ここで、開くワークシートを特定して選択できます。



現在の接続で使用されているデータベース・ユーザー名でアクセス可能な任意のワークシートを開くことができます。開くワークシートを表示できない場合は、別の接続を使用する必要がある場合があります。

3. ワークブックの横にあるプラス (+) アイコンを使用し、そのワークブックに含まれるワークシートを表示します（または、ワークブックの横の「フォーカス」列にあるアイコンを選択します）。
4. 「名前」列から分析するワークシートの名前を選択します。
選択したワークシートが表示されます。

ORACLE Discoverer Viewer Business Intelligence プリファレンス 終了 ヘルプ

接続 > ワークブック > 接続先 Video Store - Analytics

Analytic Function Examples - Rank of Sales

前回の実行 2005/02/08 12:39:03 JST

操作

クエリーの再実行
保存
別名保存
保存されている内容に戻す
印刷可能ページ
エクスポート
電子メールで送信
ワークシート・オプション

ワークシート

Rank of Sales
[Top N Bottom N](#)
[Sales as percentage of pr...](#)
[Sales This Yr Last Yr](#)
[Sales This Qtr Last Qtr](#)
[3 Month Mvg Avg Sales](#)

Sales Analysis by Year, Region and City

This report uses the rank function to show the rank of cities based on sales figures

▼クロス集計

▶ ツール レイアウト フォーマット ストップライト 行と列

ページ・アイテム Year 1998

		Sales SUM	Rank Sales
▶ Region	▶ City		
	▶ Central	¥230,418.30	1
	▶ Chicago	¥16,432.74	5
	▶ Cincinnati	¥69,637.26	1
	▶ Dallas	¥15,331.05	6
	▶ Louisville	¥61,235.80	2
	▶ Minneapolis	¥17,385.87	4
	▶ Nashville	¥14,576.83	7
	▶ St. Louis	¥35,818.75	3
	▶ East	¥368,346.57	1
	▶ Atlanta	¥32,399.73	5
	▶ Boston	¥33,475.06	4
	▶ Miami	¥16,116.56	7

ページが表示されました イントラネット

Discoverer Viewer の強力な分析ツールを使用してデータの分析を開始できます。

注意

- プライベート Discoverer 接続の作成および保存方法は、「Discoverer 接続でのログイン情報の作成および保存方法」を参照してください。

直接接続による Discoverer の起動方法

Discoverer に接続する際に、ログインの詳細を後で使用するために保存する必要がない場合は、Discoverer を直接接続して開始します。

Discoverer を直接接続により起動する手順は、次のとおりです。

1. 「Discoverer Viewer」接続ページを表示します（詳細は、「[「Discoverer Viewer」接続ページの表示方法](#)」を参照してください）。
2. 「直接接続」リンクを選択して「直接接続」領域を表示します。

3. 表示されるフィールド（「ユーザー名」、「パスワード」、「データベース」など）にログインの詳細を入力します。
4. 「実行」をクリックして Discoverer を起動します。

Discoverer Viewer が起動して「[ワークシート・リスト](#)」ページが表示されます。ここで、開くワークシートを特定して選択できます。



5. ワークブックの横にあるプラス (+) アイコンを使用し、そのワークブックに含まれるワークシートを表示します (または、ワークブックの横の「フォーカス」列にあるアイコンを選択します)。
6. 「名前」列から分析するワークシートの名前を選択します。
選択したワークシートが表示されます。

ORACLE Discoverer Viewer
Business Intelligence

接続 > ワークブック > Analytic Function Examples - Rank of Sales

前回の実行 2005/02/08 12:39:03 JST

操作
クエリーの再実行
保存
別名保存
保存されている内容に戻す
印刷可能ページ
エクスポート
電子メールで送信
ワークシート・オプション

ワークシート
Rank of Sales
Top N Bottom N
Sales as percentage of pr...
Sales This Yr Last Yr
Sales This Qtr Last Qtr
3 Month Mvg Avg Sales

Sales Analysis by Year, Region and City
This report uses the rank function to show the rank of cities based on sales figures

▼クロス集計
▶ツール レイアウト フォーマット ストップライト 行と列

ページ・アイテム Year 1998

Region	City	Sales SUM	Rank Sales
▶Central		¥230,418.30	1
▶Chicago		¥16,432.74	5
▶Cincinnati		¥69,637.26	1
▶Dallas		¥15,331.05	6
▶Louisville		¥61,235.80	2
▶Minneapolis		¥17,385.87	4
▶Nashville		¥14,576.83	7
▶St. Louis		¥35,818.75	3
▶East		¥368,346.57	1
▶Atlanta		¥32,399.73	5
▶Boston		¥33,475.06	4
▶Miami		¥16,116.56	7

ページが表示されました

イントラネット

Discoverer Viewer の強力な分析ツールを使用してデータの分析を開始できます。

Discoverer Viewer の終了方法

Discoverer Viewer でのデータ分析が終了した後、Discoverer Viewer を終了します。

Discoverer Viewer を終了する手順は、次のとおりです。

1. Discoverer Viewer のページのヘッダー領域またはフッター領域で「終了」リンクを選択します。

よくある質問

この項は、Discoverer Viewer の起動に関するよくある質問への回答です。次のトピックがあります。

- [End User Layer \(EUL\) とは](#)
- [データベース・アカウントとは](#)
- [Discoverer 接続でのログイン情報の作成および保存方法](#)
- [Discoverer 接続の編集方法](#)
- [Discoverer 接続の削除方法](#)
- [パブリック接続とは](#)
- [ユーザー定義接続とは](#)
- [パスワードの変更が必要な時期と理由](#)
- [接続用パスワードの変更方法](#)
- [Discoverer 接続用 End User Layer の変更方法](#)
- [シングル・サインオンとは](#)
- [シングル・サインオン・パスワードと Discoverer パスワードの違い](#)

End User Layer (EUL) とは

EUL は、業務に焦点を当てた、リレーショナル・データベースの直観的なビューであり、ユーザーに親しみのあるわかりやすい用語が使用されています。EUL は、データベースにありがちな複雑さからユーザーを遮断します。この結果、ユーザーはデータ・アクセスの問題に煩わされることなく、業務上の問題に集中できます。

Discoverer マネージャは、ユーザーが Discoverer を起動したときにデータベースのユーザー・フレンドリなビューが表示されるように、EUL を作成します。

パブリック接続を使用して Discoverer を起動する場合は、Discoverer マネージャがユーザーのために EUL を指定します。ユーザー固有の接続を作成する場合は、ユーザーが自分で EUL を選択するか、または割り当てられたデフォルトの EUL を受け入れます（詳細は、「[Discoverer 接続でのログイン情報の作成および保存方法](#)」を参照してください）。

データベース・アカウントとは

Discoverer を使用するには、Discoverer への接続を可能にするデータベース・アカウントが必要です。データベース・アカウントの詳細は、EUL および言語設定とともに Discoverer 接続に保存します。

注意：組織でシングル・サインオン（ユーザーが1回ログインするだけで多くの異なるアプリケーションにアクセスできる仕組み）を使用している場合は、シングル・サインオン・アカウントも必要になります。シングル・サインオンを使用しているかどうか不明の場合は、Discoverer マネージャに問い合わせてください。詳細は、「[シングル・サインオンとは](#)」を参照してください。

データベース・アカウントは、次の2つの情報で構成されています。

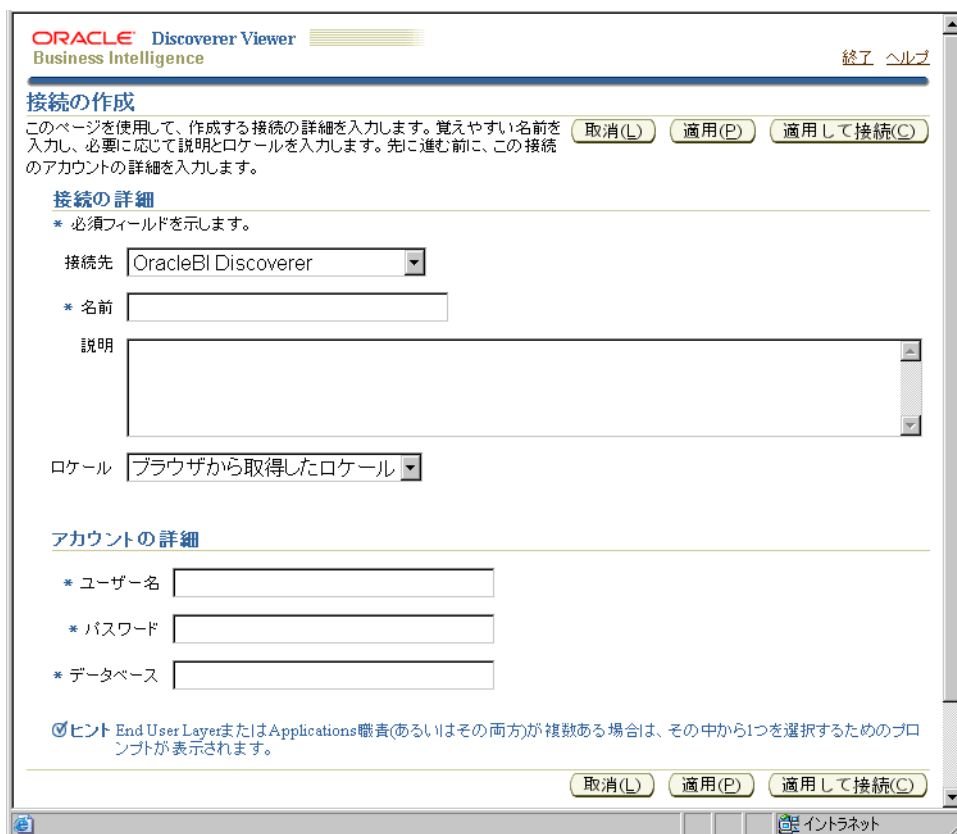
- ユーザー名：データベースがユーザーを識別するための短い名前。video5、marketingなどがその例です。
- パスワード：ユーザーがユーザー名の認証に使用するシークレット・キー。データベース管理者がユーザーの初期パスワードを作成します。組織のデータをセキュアな状態に保つために、パスワードを他人に教えたり、パスワードを書き留めて他人が読めるようにしないでください（詳細は、「[パスワードの変更が必要な時期と理由](#)」を参照してください）。

Discoverer 接続でのログイン情報の作成および保存方法

以前に保存しなかったログインの詳細を使用して Discoverer を起動する場合は、新規プライベート接続でログイン情報を作成し、保存してください。

Discoverer 接続でログイン情報を作成および保存する手順は、次のとおりです。

1. 「Discoverer」接続ページを表示します（詳細は、「[「Discoverer Viewer」接続ページの表示方法](#)」を参照してください）。
2. 「接続の作成」をクリックし、「接続の作成:接続の詳細」ページを表示します。



3. 接続するユーザーのタイプを次のように選択します。
 - リレーショナル接続を作成するには、「**接続先**」ドロップダウン・リストから「OracleBI Discoverer」を選択します。
 - マルチディメンショナル接続を作成するには、「**接続先**」ドロップダウン・リストから「OracleBI Discoverer for OLAP」を選択します。
 - Oracle Applications 環境のデータにアクセスする接続を作成するには、「**接続先**」ドロップダウン・リストから「Oracle Applications」を選択します。
4. 「**接続名**」フィールドに、新しい接続を識別する接続名を入力します。
この接続名は、「OracleBI Discoverer に接続」ページの「接続」列に表示されます。
5. (オプション)「**接続の説明**」フィールドに、この接続の説明を入力します。
たとえば、この接続を使用してアクセスするワークブックの名前を追加できます。
6. 「**ロケール**」ドロップダウン・リストから、使用する言語を選択します。

7. 作成する接続のユーザー名、パスワードおよびデータベースの詳細を指定します。
ヒント: 入力するユーザー名、パスワードおよびデータベースの詳細が不明の場合は、Discoverer マネージャに問い合せてください。
注意: 「**接続先**」ドロップダウン・リストで「Oracle Applications」を選択（かつシングル・サインオン・ユーザーとしてログイン）した場合は、「**データベース**」フィールドのみが表示されます。（必要に応じて）後続のページでユーザー名とパスワードを指定します。
8. 次のいずれかの方法で詳細を保存します。
 - 「適用」をクリックして指定した詳細を保存し、「接続」リストに戻る。
 - 「適用して接続」をクリックして指定した詳細を保存し、指定したログインの詳細を使用して Discoverer Viewer を起動する。**注意:** 「**接続先**」ドロップダウン・リストで「Oracle Applications」を選択（かつシングル・サインオン・ユーザーとしてログイン）した場合は、「ユーザーの選択」ページまたはユーザー名とパスワードの入力ページが表示されます。
9. 「**接続先**」ドロップダウン・リストで「Oracle Applications」を選択した場合は、次の作業を行ってください。
 - a. （懐中電灯のアイコンが表示されている場合は）ユーザー名を選択するか「**ユーザー名**」フィールドにユーザー名を入力します。
注意: 「**ユーザー名**」フィールドは、SSO ユーザーが複数の関連付けられた Oracle Applications ユーザー名を所有している場合、または SSO 以外の Oracle Applications ユーザーの場合のみ表示されます。
 - b. 「**パスワード**」フィールドにパスワードを入力します（このフィールドは、懐中電灯のアイコンを使用してユーザー名を選択した場合、SSO ユーザーには表示されません）。
 - c. 「適用」をクリックし、指定した詳細を保存します。
10. 「**接続先**」ドロップダウン・リストで「Oracle Applications」を選択し、複数の Oracle Applications 職責を所有している場合は、「Oracle Applications 職責の選択」ページが表示されます。次の作業を行ってください。
 - a. 「**Oracle Applications**」ドロップダウン・リストから職責を選択します。
 - b. 「適用」をクリックし、指定した詳細を保存します。
11. （リレーショナル・データのみ）このユーザー名で複数の End User Layer にアクセスできる場合は、「接続の作成 : End User Layer」ページが表示されます。次の作業を行ってください。
 - a. 「**End User Layer**」ドロップダウン・リストから End User Layer を選択します。
 - b. 「適用」をクリックし、指定した詳細を保存します。

「適用」をクリックすると「OracleBI Discoverer に接続」ページが表示されます。新しく作成した接続が接続のリストに追加されます。作成した接続を使用して Discoverer Viewer を起動するには、「**接続**」リストでその新しい接続名をクリックします。

「適用して接続」をクリックした場合は Discoverer Viewer が起動し、開くワークブックとワークシートを選択するように求めるプロンプトが表示されます。

Discoverer 接続の編集方法

Discoverer 接続に保存されているログインの詳細を変更する場合に、接続を編集します。たとえば、Discoverer Viewer の起動に使用するユーザー名を変更する場合などです。

Discoverer 接続を編集する手順は、次のとおりです。

1. 「Discoverer Viewer」接続ページを表示します（詳細は、「[「Discoverer Viewer」接続ページの表示方法](#)」を参照してください）。
2. 編集する接続名の横にある「更新」列の鉛筆アイコンを選択します。

ヒント: 適切な接続を使用しているかどうかを確認するには、「詳細」列の「表示」をクリックし、接続についての詳細情報を表示します。追加情報を非表示にするには、「非表示」をクリックします。

「接続の更新」ページが表示されます。
3. 必要に応じて、接続の詳細を変更します。
4. 次のいずれかの方法で詳細を保存します。
 - 「適用」をクリックして入力した詳細を保存し、「接続」リストに戻る。
 - 「適用して接続」をクリックして入力した詳細を保存し、指定したログインの詳細を使用して Discoverer Viewer を起動する。
5. このユーザー名で複数の End User Layer にアクセスできる場合は、「接続の作成: End User Layer」ページが表示されます。次の作業を行ってください。
 - a. 「End User Layer」ドロップダウン・リストから End User Layer を選択します。
 - b. 「適用」をクリックし、指定した詳細を保存します。

「適用」をクリックすると「OracleBI Discoverer Viewer に接続」ページが表示されます。新しく作成した接続が接続のリストに追加されます。作成した接続を使用して Discoverer Viewer を起動するには、「接続」リストでその新しい接続名をクリックします。

「適用して接続」をクリックした場合は Discoverer Viewer が起動し、開くワークブックとワークシートを選択するように求めるプロンプトが表示されます。

注意

- ユーザーは、自分で作成したプライベート接続のみを編集できます。Discoverer マネージャが作成したパブリック接続は編集できません。

Discoverer 接続の削除方法

ログインの詳細を永久に削除する場合は、Discoverer 接続を削除します。たとえば、不要になった接続を削除できます。

Discoverer 接続を削除する手順は、次のとおりです。

1. 「Discoverer Viewer」接続ページを表示します（詳細は、「[「Discoverer Viewer」接続ページの表示方法](#)」を参照してください）。
2. 削除する接続名の横にある「削除」列のごみ箱アイコンを選択します。「確認」ダイアログが表示されます。

ヒント: 適切な接続を削除しているかどうかを確認するには、「詳細」列の「表示」をクリックし、接続についての詳細情報を表示します。追加情報を非表示にするには、「非表示」をクリックします。
3. 「確認」ページで「はい」をクリックして接続を削除し、「OracleBI Discoverer に接続」ページに戻ります。

注意

- ユーザーは、自分で作成したプライベート接続のみを削除できます。Discoverer マネージャが作成したパブリック接続は削除できません。

パブリック接続とは

パブリック接続は、Discoverer マネージャが作成する Discoverer ログインです。パブリック接続を使用すると、ユーザー固有の接続を作成せずに、Discoverer Viewer を起動してワークブックにアクセスできます。

ユーザーはパブリック接続を編集または削除できません。パブリック接続を作成、編集および削除できるのは、Discoverer マネージャのみです。

ユーザー定義接続とは

ユーザー定義接続（プライベート接続とも呼びます）は、ユーザーが自分で作成する Discoverer ログインです。プライベート接続は、ユーザーが編集および削除できます。アクセス、編集、追加および削除できるのは、自分で作成したプライベート接続のみです。

パスワードの変更が必要な時期と理由

データのセキュリティを保つために、パスワードは通常、定期的に変更する必要があります。

同じパスワードを期限切れになるまで使用できる期間は、システム管理者が指定します。これは、変更が必要になるまでそのパスワードを使用できる期間の長さです。

パスワードの期限切れは、Discoverer を起動したときに新しいパスワードの入力を求めるプロンプトが表示されることでわかります。Discoverer Viewer に接続すると、何日後にパスワードが切れるという警告が表示される場合があります。この期間内にパスワードを変更しなかった場合にパスワードが期限切れになると、新しいパスワードを入力するように求めるプロンプトが表示されます。

また、他人にパスワードを知られた危険性がある場合にも、パスワードを変更することが重要です。

接続用パスワードの変更方法

接続用のパスワードが次の状態になった場合は、パスワードを変更します。

- 期限切れ
- 期限切れが近い
- 他のユーザーに知られた

接続用のパスワードを変更する手順は、次のとおりです。

1. 「Discoverer Viewer」接続ページを表示します（詳細は、「[「Discoverer Viewer」接続ページの表示方法](#)」を参照してください）。
2. パスワードを変更する接続の横にある「更新」アイコンを選択します。
3. 「データベースのパスワードを変更」をクリックします。
4. 「パスワード」フィールドに、現在のユーザー名の現行データベース・パスワードを入力します。
5. 「新規パスワード」フィールドに、現在のユーザー名の新規データベース・パスワードを入力します。
6. 「新規パスワードの確認」フィールドに、現在のユーザー名の新規データベース・パスワードを再入力します。
7. 「終了」をクリックします。

「OracleBI Discoverer に接続」ページが表示されます。この接続を使用して Discoverer Viewer を起動できます。

注意

- 入力したパスワードの詳細に無効な値があった場合は、エラー・メッセージと変更が必要な値に関するアドバイスが表示されます。

Discoverer 接続用 End User Layer の変更方法

Discoverer 接続で別の End User Layer (EUL) を使用して Discoverer を起動する場合は、その接続の EUL を変更します (詳細は、「[End User Layer \(EUL\) とは](#)」を参照してください)。

Discoverer 用の EUL を変更する手順は、次のとおりです。

1. 「Discoverer Viewer」接続ページを表示します (詳細は、「[Discoverer Viewer 接続ページの表示方法](#)」を参照してください)。
2. End User Layer を変更する接続の横にある「更新」アイコンを選択します。
3. 「パスワード」フィールドに、Discoverer 接続用の有効なパスワードを入力します。
4. 「続行」をクリックします。
5. 現在の Discoverer 接続のユーザー名で複数の End User Layer にアクセスできる場合は、「Discoverer 接続の End User Layer の選択」ページが表示されます。次の作業を行ってください。
 - a. 「End User Layer」ドロップダウン・リストから End User Layer を選択します。
 - b. 「終了」をクリックします。

「OracleBI Discoverer に接続」ページが表示されます。この接続を使用して Discoverer を起動できます。

注意

- このユーザー名で複数の End User Layer にアクセスしない場合は、デフォルトの End User Layer を変更できません。
- 入力したパスワードが無効だった場合は、エラー・メッセージと変更が必要な値に関するアドバイスが表示されます。

シングル・サインオンとは

シングル・サインオンは、1 回のログインで多くの異なるアプリケーションにアクセスできる機能です。

シングル・サインオン・パスワードと Discoverer パスワードの違い

組織でシングル・サインオンを使用している場合、Discoverer パスワードとシングル・サインオン・パスワードは異なります。

- シングル・サインオン・パスワードがシングル・サインオン・ユーザー名を認証します。
- Discoverer パスワードが Discoverer ユーザー名を認証します。
- シングル・サインオンを使用すると、多くの異なる Discoverer 接続を使用した接続が可能になります。

Discoverer Viewer を使用したデータの分析

この章では、Discoverer Viewer を使用するデータの分析方法を説明します。次のトピックがあります。

- Discoverer ワークシートを開く方法
- ワークシートの保存方法
- 印刷前のワークシートのプレビュー方法
- ワークシートの印刷方法
- Discoverer ワークシートのエクスポート
- 電子メールを使用した Discoverer ワークシートの送信方法
- ワークシート・アイテムおよびセルのフォーマット方法
- Discoverer を使用した条件付フォーマット設定の使用
- Discoverer Viewer でのグラフの使用
- Discoverer Viewer でのパラメータの使用
- ワークシートでのアイテムおよびメジャーのソート方法
- Discoverer Viewer を使用したドリル
- ワークシートでのドリル・ダウン方法
- ワークシートでのドリル・アップ方法
- ワークシートのレイアウトの変更方法
- 保存済選択の適用方法
- パラメータでの索引および値の使用

Discoverer ワークシートを開く方法

ワークシートのデータを分析するには、Discoverer ワークシートを開きます。一度に表示できるワークシートは1つです（Discoverer Viewer ブラウザのセッションは、複数作成できます）。

Discoverer ワークシートを開く手順は、次のとおりです。

1. Discoverer Viewer を起動します（詳細は、第2章「Discoverer Viewer の起動」を参照してください）。

Discoverer が起動し、「ワークシート・リスト」ページが表示されます。ここで、開くワークシートを特定して選択できます。

2. 開くワークシートを含むワークブックの横のプラス (+) アイコンを選択し、ワークブックのワークシートを表示します（または、ワークブックの横の「フォーカス」列のアイコンを選択します）。



3. 「名前」列から分析するワークシートの名前を選択します。
選択したワークシートが表示されます。

ORACLE Discoverer Viewer
Business Intelligence

接続 > ワークブック > Analytic Function Examples - Rank of Sales
接続先 Video Store - Analytics

前回の実行 2005/02/08 12:39:03 JST

操作
クエリーの再実行
保存
別名保存
保存されている内容に戻す
印刷可能ページ
エクスポート
電子メールで送信
ワークシート・オプション

ワークシート
Rank of Sales
Top N Bottom N
Sales as percentage of pr...
Sales This Yr Last Yr
Sales This Qtr Last Qtr
3 Month Mvg Avg Sales

Sales Analysis by Year, Region and City
This report uses the rank function to show the rank of cities based on sales figures

▼クロス集計
▶ツール レイアウト フォーマット ストップライト 行と列

ページ・アイテム Year 1998

Region	City	Sales SUM	Rank Sales
▶Central		¥230,418.30	1
▶Chicago		¥16,432.74	5
▶Cincinnati		¥69,637.26	1
▶Dallas		¥15,331.05	6
▶Louisville		¥61,235.80	2
▶Minneapolis		¥17,385.87	4
▶Nashville		¥14,576.83	7
▶St. Louis		¥35,818.75	3
▶East		¥368,346.57	1
▶Atlanta		¥32,399.73	5
▶Boston		¥33,475.06	4
▶Miami		¥16,116.56	7

ページが表示されました

これで、Discoverer の強力な分析ツールを使用してワークシートの分析を開始できます。

ワークシートの保存方法

データの再ソートまたはワークシート・アイテムの再配置など、ワークシートの内容を変更した場合に変更内容を保存できます。保存するワークシートを含むワークブックの所有者として Discoverer にログインしている場合は、オリジナルのワークシートを上書きできます。保存するワークシートを含むワークブックの所有者として Discoverer にログインしていない場合は、ワークシートのコピーを保存できます。

ワークシートを変更して別のワークシートに切り替えると、Discoverer により変更内容を保存するように求めるプロンプトが表示されます。

ワークシートを保存する手順は、次のとおりです。

1. 保存するワークシートを表示します。

ワークシートを所有している場合は、「保存」および「別名保存」が使用できます。ワークシートを所有していない場合は、「別名保存」のみが使用できます。

2. ワークシートは、次のように保存します。

ワークシートを所有している場合は、次のいずれかの方法で保存します。

- ワークシートの変更内容を保存するには、「**保存**」を選択します。
- 異なるワークブック名でワークシートをワークブックに保存する場合は、「**別名保存**」リンクを選択して「ワークブックに名前を付けて保存」ページを表示し、新しいワークブック名を指定します。

所有していないワークシートを異なるワークブック名で保存する場合は、「**別名保存**」リンクを選択して「ワークブックに名前を付けて保存」ページを表示し、新しいワークブック名を指定します。

ワークシートが現在のワークブックのデータベースに保存されます。「別名保存」オプションを使用すると、ワークブックは必ずルート・フォルダに保存されます。

印刷前のワークシートのプレビュー方法

印刷前にワークシートをプレビューし、「印刷オプション」ページで設定した出力を確認できます。たとえば、ワークシートを印刷する前に、マージン、間隔調整および設定オプションを確認できます。

ワークシートを PDF でプレビューします。

Discoverer では、ワークシートのサンプル版 PDF か完全版 PDF のいずれかを生成できます。サンプル版 PDF には、データの最初の 50 行分が含まれます。完全版 PDF には、データのすべての行が含まれます。

ワークシートをプレビューする手順は、次のとおりです。

1. プレビューするワークシートを表示します。
2. 「**印刷可能ページ**」リンクを選択し、「**印刷可能ページ・オプション**」ページ: 「**内容**」タブを表示します。
3. (オプション) 必要に応じて、「**印刷可能ページ・オプション**」ページ: 「**内容**」タブで印刷設定を変更します。
4. 「**プレビュー・サンプル**」をクリックしてワークシートのサンプル版 PDF を生成し、「**PDF サンプルが用意できています**」ページを表示します。
5. 「**PDF を開いてサンプルを表示**」をクリックし、ブラウザの別ウィンドウにワークシートのサンプル版 PDF を表示します。

ブラウザの別ウィンドウから PDF ファイルのコピーを表示、印刷または保存できます。

ワークシートの印刷方法

Discoverer Viewer でワークシートを印刷するには、ワークシートの PDF ファイルを生成し、Adobe Acrobat で PDF ファイルを印刷します。Discoverer では、印刷前にワークシートの PDF が確認用に表示されます（詳細は、「印刷前のワークシートのプレビュー方法」を参照してください）。

ワークシートを印刷する手順は、次のとおりです。

1. 印刷するワークシートを表示します。
2. 「**印刷可能ページ**」リンクを選択し、「**印刷可能ページ・オプション**」ページ: 「**内容**」タブを表示します。
3. (オプション) 必要に応じて、「**印刷可能ページ・オプション**」ページ: 「**内容**」タブで印刷設定を変更します。
4. (オプション) ワークシート全体を印刷する前にワークシートのサンプル版 PDF をプレビューする場合は、「**印刷前のワークシートのプレビュー方法**」の手順に従ってください。
5. 「**印刷可能 PDF**」をクリックし、「**PDF が用意できています**」ページを表示します。
6. 「**クリックして表示または保存**」を選択し、ブラウザの別ウィンドウにワークシートの完全版 PDF を表示します。

注意: これで、PDF ファイルを表示、印刷または保存できます。

7. PDF ファイルを表示しているブラウザの別ウィンドウで、「**ファイル**」→「**印刷**」を選択してオペレーティング・システムの印刷ダイアログを表示し、PDF ファイルを印刷します。

ワークシートの PDF が印刷されます。

Discoverer ワークシートのエクスポート

ここでは、別のフォーマットによるワークシートのエクスポート方法を説明します。説明するトピックは次のとおりです。

- [Discoverer ワークシートのエクスポート方法](#)
- [異なるエクスポート・フォーマットの使用について](#)
- [エクスポートした Excel ファイルを自動的に開くためのクライアント・マシンの構成方法](#)

Discoverer ワークシートのエクスポート方法

異なるアプリケーションで Discoverer ワークシートのデータを使用するには、ワークシート・データをエクスポートします。たとえば、Discoverer ワークシートを Microsoft Excel フォーマットで作成します。

Discoverer ワークシートをエクスポートする手順は、次のとおりです。

1. エクスポートするワークシートを表示します（詳細は、「[Discoverer ワークシートを開く方法](#)」を参照してください）。
2. 「操作」領域から「エクスポート」を選択し、「エクスポート・タイプの選択」ページを表示します。
3. ドロップダウン・リストからエクスポート・タイプを選択して「エクスポート」をクリックし、「エクスポートが用意できています」ページを表示します。
4. 「クリックして表示または保存」ボタンをクリックし、ファイル・タイプに関連付けられたアプリケーションでエクスポートしたファイルを表示します。

Discoverer はエクスポートしたファイルを、エクスポート・ファイルのタイプに関連付けられているアプリケーション（ブラウザ、Microsoft Excel など）で表示します。

5. （オプション）エクスポートしたファイルは、エクスポート・ファイルのタイプで使用されたアプリケーション（Microsoft Excel など）で保存します。

異なるエクスポート・フォーマットの使用について

ワークシートを指定のエクスポート・ファイル・フォーマットでエクスポートし、関連付けられたアプリケーションでそのエクスポートしたファイルを開くときに違いが生じます。次のトピックでそれらの違いを説明します。

- [XLS ファイル・フォーマットによるワークシート・データのエクスポート](#)
- [CSV ファイル・フォーマットによるワークシート・データのエクスポート](#)

XLS ファイル・フォーマットによるワークシート・データのエクスポート

リレーショナル・ワークシート・データを XLS ファイル・フォーマットにエクスポートする場合、Discoverer は次のように動作します。

- ワークシート出力の「MIME タイプ」を、application/vnd.ms-excel に設定します。
- ファイル名を <worksheet_name>.xls とするようにリクエストします。
- ワークシート出力を Microsoft Excel で読込み可能なフォーマットにします。

Microsoft Excel がインストールされているマシンの場合、XLS ファイルは通常、オペレーティング・システムによって Microsoft Excel に関連付けられます。

注意：ワークシートを XLS ファイル・フォーマットにエクスポートする場合は、XLS ファイルを保存してから、Microsoft Excel でその XLS ファイルを開くことをお勧めします。

ワークシート・データのエクスポートの詳細は、「[エクスポート・タイプの選択](#)」ページを参照してください。

CSV ファイル・フォーマットによるワークシート・データのエクスポート

ワークシート・データを CSV ファイル・フォーマットにエクスポートすると、Discoverer により次の処理が行われます。

- ワークシート出力の「MIME タイプ」を、application/csv に設定します。
- ファイル名を <worksheet_name>.csv とするようリクエストします。

注意：Discoverer サーバーでは、ワークシート出力が Microsoft Excel で読み可能なフォーマットにされません (CSV ファイルは他の目的で使用されることが多いため、Microsoft Excel 固有のフォーマット設定は適切ではありません)。

Microsoft Excel がインストールされているマシンの場合、CSV ファイルは必ずしも、オペレーティング・システムによって Microsoft Excel に関連付けられません。

注意：CSV ファイルは Microsoft Excel で開くことができますが、ワークシートを一度 XLS ファイル・フォーマットにエクスポートしてから、Microsoft Excel で XLS ファイルを開くことをお勧めします。

ワークシート・データのエクスポートの詳細は、「[エクスポート・タイプの選択](#)」ページを参照してください。

Discoverer ワークシートの Microsoft Excel Web Query フォーマットへのエクスポート

Microsoft Excel Web Query は Microsoft Excel の外部データ・フォーマットで、インターネットまたはイントラネット URL (Discoverer ワークシートなど) の動的リレーショナル・データを Microsoft Excel ワークシートに含めることができます。たとえば、Microsoft Excel で開くと指定した日付範囲の Discoverer セールス・レポートを示す、Microsoft Excel ワークシートを作成できます。Microsoft Excel ワークシートは Discoverer データの取得に使用されるクエリーを保存するため、データは自動的にリフレッシュされます。

エクスポート・タイプのリストで Web Query for Microsoft Excel 2000+ (*.iqy) を選択し、Discoverer データを Microsoft Excel Web Query フォーマットにエクスポートします。これにより、エンド・ユーザーは Microsoft Excel で動的 Discoverer ワークシートにアクセスできます。Discoverer Plus および Discoverer Viewer のどちらでも、Microsoft Excel Web Query フォーマットへデータをエクスポートできます。

注意

- Web Query for Microsoft Excel 2000+ (*.iqy) フォーマットは、シングル・サインオン環境では使用できません。詳細は、Discoverer マネージャまたは Oracle 管理者に問い合わせてください。
- Microsoft Excel のエンド・ユーザーが、Microsoft Excel Web Query フォーマットにエクスポートされた Discoverer レポートへアクセスするためには、Microsoft Excel 2000 (またはそれ以降) および Microsoft Internet Explorer 5.0 (またはそれ以降) が必要です。
- Microsoft Excel Web Query フォーマットにエクスポートできるのは、数字およびテキスト・データのみです。Discoverer のグラフは、Microsoft Excel Web Query フォーマットにエクスポートできません。
- Discoverer レポートを Microsoft Excel にインポートした場合は、最新データを表示する前に Excel でシートをリフレッシュしてください。Microsoft Excel でのデータのリフレッシュ方法の詳細は、Microsoft Excel のドキュメントを参照してください。

注意：Microsoft Excel Web Query フォーマットへのワークシート・データのエクスポートの詳細は、『Oracle Business Intelligence Discoverer Plus ユーザーズ・ガイド』を参照してください。

エクスポートした Excel ファイルを自動的に開くためのクライアント・マシンの構成方法

エクスポートした Excel ファイルをクライアント・マシンで自動的に開くようにする手順は、次のとおりです。

- エクスポート・ファイルを開くか保存を求めるダイアログを表示させる [Microsoft Windows の設定方法](#)
- [Internet Explorer](#) での「ダウンロードの完了」ダイアログ表示の設定方法
- エクスポートした [Discoverer](#) ワークシートを [Microsoft Excel](#) で開くためのマクロ・セキュリティ・レベルの設定方法

エクスポート・ファイルを開くか保存を求めるダイアログを表示させる Microsoft Windows の設定方法

エクスポート・ファイルを開くか保存を求めるダイアログを表示させるように Microsoft Windows を設定する手順は、次のとおりです。

1. Windows の「スタート」メニューから「設定」→「コントロールパネル」→「フォルダオプション」を選択します。
2. Windows の「ファイルタイプ」リストを表示します。
3. エクスポート・ファイルを開く、または保存するためのプロンプト・ダイアログを表示するファイル・タイプを選択します。
4. 「詳細設定」をクリックし、「ファイルタイプの編集」を表示します。
5. 「ダウンロード後に開く確認をする」（ファイル・タイプの MIME タイプ・プロパティ）チェック・ボックスを選択します。
6. 「OK」をクリックします。

Internet Explorer での「ダウンロードの完了」ダイアログ表示の設定方法

エクスポート完了時に、Internet Explorer で「ダウンロードの完了」ダイアログが表示されるように設定する手順は、次のとおりです。

1. Internet Explorer を開き、「ツール」→「インターネットオプション」→「詳細設定」タブを選択します。
2. 「ダウンロードの完了時に通知する」チェック・ボックスを選択します。
3. 「OK」をクリックします。

エクスポートした Discoverer ワークシートを Microsoft Excel で開くためのマクロ・セキュリティ・レベルの設定方法

Excel でマクロ・セキュリティ・レベルが「高」に設定されている場合は、XLS ファイルにエクスポートされた Discoverer ワークシートを Excel で開くことができません。警告が表示され、ワークシートは開きません。

エクスポートした Discoverer ワークシートを Microsoft Excel で開くようにマクロ・セキュリティ・レベルを設定する手順は、次のとおりです。

1. Microsoft Excel を開き、「ツール」→「マクロ」→「セキュリティ レベル」タブを選択します。
2. 「中」のラジオ・ボタンを選択します。
3. 「OK」をクリックします。

電子メールを使用した Discoverer ワークシートの送信方法

現在表示しているワークシートのコピーを、様々なフォーマットで1人以上の電子メール受信者に送信できます。

電子メールを使用して Discoverer ワークシートを送信する手順は、次のとおりです。

1. 送信するワークシートを表示します（詳細は、「[Discoverer ワークシートを開く方法](#)」を参照してください）。
2. 「操作」領域から「[電子メールで送信](#)」リンクを選択し、「[添付タイプの選択（電子メール添付ファイルで送信）](#)」を表示します。
3. ドロップダウン・リストからエクスポート・タイプを選択して「次へ」をクリックし、「[電子メールの送信](#)」ページを表示します。
4. 「[電子メールの送信](#)」ページで電子メール受信者のアドレスを入力し、電子メール・メッセージを作成します。
5. (オプション) 添付のワークシート・ファイルを表示する場合は、「添付ファイルの表示」をクリックし、Microsoft Excel などの適切なソフトウェア・パッケージでワークシートを表示します。
6. 「終了」をクリックして電子メールを送信します。

注意: Discoverer は、Discoverer マネージャで指定されている IMAP 設定で電子メールを送信します。

注意: Discoverer は、Discoverer マネージャで指定されている IMAP 設定に基づき、ZIP ファイルとして電子メールを送信します。

ワークシート・アイテムおよびセルのフォーマット方法

外観（テキストのフォント、テキストの色、背景色など）を変更するには、ワークシート・アイテムおよびセルのフォーマットを設定します。テーブル・ワークシートでは、個別のワークシート・セルではなく、ワークシート・アイテムをフォーマットします。クロス集計ワークシートでは、ワークシート・アイテムおよび個別のワークシート・セルをフォーマットできます。

ヒント: [Ctrl] キーを押しながら別のワークシート・アイテムまたはセルをクリックすると、複数のワークシート・アイテムが選択できます。

ワークシート・アイテムをフォーマットする手順は、次のとおりです。

1. 編集するワークシートを表示します（詳細は、「[Discoverer ワークシートを開く方法](#)」を参照してください）。
2. ワークシート・アイテムのグラブ・ハンドルを選択してアイテムを反転させ、1つ以上のワークシート・アイテムまたはセルを強調表示します。

ヒント: [Ctrl] キーを押しながら別のアイテムをクリックすると、複数のアイテムを選択できます。

3. 「[フォーマット](#)」リンクを選択し、フォーマット設定ツールをワークシート・データの上に表示します。
4. フォーマット設定ツールを使用し、選択されたワークシート・アイテムをフォーマットします。

次のような設定ができます。

- 「B」、「i」または「U」ボタンをクリックし、テキストを太字、斜体または下線付きにフォーマットします。
- 「背景」および「フォント」ツールの横にあるカラー・パレット・アイコンを選択し、カラー・パレットを表示します。

- 「詳細」リンクを選択して「セルのフォーマット」ページを表示し、選択されたワークシート・アイテムの「フォント」、「枠線」、「数値フォーマット」オプションを指定します。

注意: 「数値フォーマット」オプションは、OLAP ワークシートでのみ使用できます。

指定したフォーマットの変更が適用されます。

ヒント: フォーマット設定ツールを非表示にするには、「ツール」ラベルの横にあるマイナス (-) アイコンを選択します。

Discoverer を使用した条件付フォーマット設定の使用

条件付フォーマット設定では、ワークシートの値を強調表示するために条件付フォーマットおよびストップライト・フォーマットを使用します。ここでは、Discoverer Viewer で条件付フォーマット設定を使用する方法を説明します。説明するトピックは次のとおりです。

- [条件付フォーマットとは](#)
- [ストップライト・フォーマットとは](#)
- [条件付フォーマットの起動および停止方法](#)
- [条件付フォーマットの作成方法](#)
- [ストップライト・フォーマットの作成方法](#)
- [ストップライト・フォーマットの作成方法](#)
- [条件付ヘッダー・フォーマットの作成方法](#)
- [条件付フォーマットの編集方法](#)
- [条件付フォーマットの削除方法](#)

条件付フォーマットとは

条件付フォーマットを使用すると、特定の条件に一致するワークシート値を強調表示できます。たとえば、30,000 より大きい収益値を強調表示します。

注意: Discoverer Desktop では、条件付フォーマットは例外です。

次の例では、条件付フォーマットは、30,000 より大きい「Profit SUM」値を強調表示しています。Cincinnati と Louisville の「Profit SUM」値は 30,000 より大きいため、背景が青で表示されています。

図 3-1 条件付フォーマットを使用した Discoverer ワークシート

	> Region	> City	> Profit SUM
1	Central	Chicago	¥7,948
2		Cincinnati	¥31,112
3		Dallas	¥8,733
4		Louisville	¥31,883
5		Minneapolis	¥8,550
6		Nashville	¥8,639
7		St. Louis	¥19,310
8			Total for Central: ¥116,174

ストップライト・フォーマットとは

ストップライト・フォーマット（またはトラフィック・ライト・フォーマット）を使用すると、ワークシートの数値を非許容、許容、望ましい値に、異なる色を使用して分類できます。デフォルトのストップライト・フォーマットでは、一般に使用されている赤、黄色、緑の色スキームで、非許容、許容、望ましい値の各値を表示します。

たとえば、次の条件の利益値に基づいてパフォーマンスを分類するとします。

- 値が 10,000 以下の場合には非許容に分類され、赤で表示されます。
- 値が 10,001 ~ 29,999 の場合は許容に分類され、黄色で表示されます。
- 値が 30,000 以上の場合には望ましい値に分類され、緑で表示されます。

次の例では、前述の値に基づくストップライト・フォーマットを使用して、「Profit SUM」値を分類しています。非許容カテゴリの値は、赤で表示されています（Chicago および Dallas など）。許容カテゴリの値は、黄色で表示されています（St. Louis および Washington など）。望ましい値カテゴリの値は、緑で表示されています（Cincinnati および Louisville など）。

図 3-2 ストップライト・フォーマットを使用した Discoverer ワークシート

	> Region	> City	> Profit SUM
1	Central	Chicago	¥7,948
2		Cincinnati	¥31,112
3		Dallas	¥8,733
4		Louisville	¥31,883
5		Minneapolis	¥8,650
6		Nashville	¥8,639
7		St. Louis	¥19,310
8	East	Atlanta	¥6,968
9		Boston	¥16,706
10		Miami	¥6,300
11		New Orleans	¥10,953
12		New York	¥76,064
13		Philadelphia	¥22,667
14		Pittsburgh	¥16,465
15		Washington	¥23,304

条件付ヘッダー・フォーマットとは

条件付ヘッダー・フォーマットを使用すると、選択したワークシート・アイテム・ヘッダーの外観を変更できます。たとえば、「Year」と「Region」アイテムの背景を青にし、「Profit SUM」の各アイテムの背景はデフォルトの白のままにできます。

条件付フォーマットの起動および停止方法

現在表示しているワークシートに条件付フォーマットを適用する場合は、条件付フォーマットを起動します。たとえば、既存の条件付フォーマットを使用すると、75%より大きいパーセント値を青の背景で強調表示できます。

現在表示しているワークシートからフォーマットを削除する場合は、条件付フォーマットを停止します。たとえば、75%より大きいパーセント値を青の背景で強調表示する条件付フォーマットを削除できます。条件付フォーマットは、後でいつでも起動できます。

詳細は、「[条件付フォーマットとは](#)」を参照してください。

条件付フォーマットを起動および停止する手順は、次のとおりです。

1. 分析するワークシートを表示します（詳細は、「[Discoverer ワークシートを開く方法](#)」を参照してください）。
2. 「[フォーマット](#)」リンクを選択し、フォーマット設定ツールをワークシート・データの上に表示します。
3. 「[条件付フォーマット](#)」リンクを選択し、「[条件付フォーマット \(テーブル / クロス集計\) ページ](#)」を表示します。
4. 条件付フォーマットを起動する場合は、起動するフォーマットの横にある「**表示**」列のチェック・ボックスを選択します。
5. 条件付フォーマットを停止する場合は、停止するフォーマットの横にある「**表示**」列のチェック・ボックスの選択を解除します。
6. 「**適用**」をクリックして変更を保存し、ワークシートを表示します。

指定したフォーマットの変更が適用されます。

ヒント: フォーマット設定ツールを非表示にするには、「**ツール**」ラベルの横にあるマイナス (-) アイコンを選択します。

条件付フォーマットの優先順位の変更方法

同じセルに対して2つのフォーマットで異なる設定をした場合は、最も新しく作成されたフォーマットが優先されます。たとえば、列の背景を青に設定し、次に行の背景を赤に設定すると、列と行が交差する部分のセルの背景は赤になります。

「[条件付フォーマット \(「クロス集計」 | 「テーブル」\)](#)」ページのフォーマット順序で、競合した際に適用されるフォーマットが決定します。リスト内で優先順位の高いフォーマットが、優先順位の低いフォーマットより優先されます。

詳細は、「[条件付フォーマットとは](#)」を参照してください。

条件付フォーマットの優先順位を変更する手順は、次のとおりです。

1. 分析するワークシートを表示します（詳細は、「[Discoverer ワークシートを開く方法](#)」を参照してください）。
2. 「[フォーマット](#)」リンクを選択し、フォーマット設定ツールをワークシート・データの上に表示します。
3. 「[条件付フォーマット](#)」リンクを選択し、「[条件付フォーマット \(テーブル / クロス集計\) ページ](#)」を表示します。
4. 適用する条件付フォーマットの横にある「**上に移動**」アイコンをクリックします。
5. 「**適用**」をクリックして変更を保存し、ワークシートを表示します。

指定したフォーマットの変更が適用されます。

ヒント: フォーマット設定ツールを非表示にするには、「**ツール**」ラベルの横にあるマイナス (-) アイコンを選択します。

条件付フォーマットの作成方法

特定の条件にあったワークシート値を強調表示するには、条件付フォーマットを作成します。たとえば、75%より大きいパーセント値を青の背景で強調表示できます。

詳細は、「[条件付フォーマットとは](#)」を参照してください。

注意: 色およびテキストのフォーマット設定を使用してワークシート値を非許容、許容および望ましい値に分類するには、条件付フォーマットではなくストップライト・フォーマットを作成します（詳細は、「[ストップライト・フォーマットの作成方法](#)」を参照してください）。

条件付フォーマットを作成する手順は、次のとおりです。

1. 分析するワークシートを表示します（詳細は、「[Discoverer ワークシートを開く方法](#)」を参照してください）。
2. 「**フォーマット**」リンクを選択し、フォーマット設定ツールをワークシート・データの上に表示します。
3. 「**条件付フォーマットの作成**」を選択し、「**条件付セル・フォーマットの作成**」ページを表示します。
4. 「**条件付セル・フォーマットの作成**」ページでフォーマットするワークシート・アイテムを選択し、フォーマットの色およびスタイルを指定します。
5. 「適用」をクリックして変更を保存し、ワークシートを表示します。

指定したフォーマットの変更が適用されます。

ヒント: フォーマット設定ツールを非表示にするには、「**ツール**」ラベルの横にあるマイナス (-) アイコンを選択します。

ストップライト・フォーマットの作成方法

ストップライト・フォーマットは、テキストおよび色のフォーマット設定を使用し、ワークシートの数値を非許容、許容、望ましい値に分類する場合に作成します。たとえば、低コスト値を緑、中コスト値を黄色、高コスト値を赤で表示するよう設定できます。

詳細は、「[ストップライト・フォーマットとは](#)」を参照してください。

ストップライト・フォーマットを作成する手順は、次のとおりです。

1. 分析するワークシートを表示します（詳細は、「[Discoverer ワークシートを開く方法](#)」を参照してください）。
2. 「**ストップライト**」を選択し、ストップライト・フォーマット設定ツールをワークシート・データの上に表示します。
3. 「**フォーマット**」ドロップダウン・リストから、そのフォーマットの適用範囲をすべてのセル、選択したセル、またはアイテムやメジャーのセルに指定します。
4. 「非許容」および「望ましい値」フィールドにしきい値を入力します。

注意: しきい値は包括的です。たとえば、「望ましい値」フィールドに 30,000 を選択する場合は、このカテゴリを 30,000 以上に適用します。

5. (オプション) 「非許容」、「許容」および「望ましい値」フィールドの横にある色パレットを選択して表示し、カテゴリの色を変更します。
6. 「実行」をクリックし、ストップライト・フォーマットをワークシートに適用します。

指定したフォーマットの変更が適用されます。

ヒント: フォーマット設定ツールを非表示にするには、「**ツール**」ラベルの横にあるマイナス (-) アイコンを選択します。

条件付ヘッダー・フォーマットの作成方法

特別なワークシート・アイテム・ヘッダーのルック・アンド・フィールを変更するには、条件付ヘッダー・フォーマットを作成します。たとえば、「Region」アイテムのワークシート・アイテム・ヘッダーの背景の色を青に変更できます。

詳細は、「[条件付ヘッダー・フォーマットとは](#)」を参照してください。

条件付ヘッダー・フォーマットを作成する手順は、次のとおりです。

1. 分析するワークシートを表示します（詳細は、「[Discoverer ワークシートを開く方法](#)」を参照してください）。
2. 「[フォーマット](#)」リンクを選択し、ストップライト・フォーマット設定ツールをワークシート・データの上に表示します。
3. 「[条件付フォーマット](#)」リンクを選択し、「[条件付フォーマット（テーブル / クロス集計）](#)」ページを表示します。
4. 「[条件付ヘッダー・フォーマットの作成](#)」を選択し、「[条件付ヘッダー・フォーマットの作成方法](#)」を表示します。
5. 「[条件付ヘッダー・フォーマットの作成](#)」ページでフォーマットするワークシート・アイテムを選択し、フォーマットの色およびスタイルを指定します。
6. 「適用」をクリックして変更を保存し、「[条件付フォーマット（テーブル / クロス集計）](#)」ページを表示します。
7. 「適用」をクリックして「[条件付フォーマット（テーブル / クロス集計）](#)」ページを閉じ、ワークシートを表示します。

指定したフォーマットの変更が適用されます。

ヒント: フォーマット設定ツールを非表示にするには、「[ツール](#)」ラベルの横にあるマイナス (-) アイコンを選択します。

条件付フォーマットの編集方法

条件付フォーマットによる表示を変更するには、条件付フォーマットを編集します。たとえば、「許容」のストップライト・カテゴリの色を黄色からオレンジに変更できます。

条件付フォーマットを編集する手順は、次のとおりです。

1. 分析するワークシートを表示します（詳細は、「[Discoverer ワークシートを開く方法](#)」を参照してください）。
2. 「[フォーマット](#)」リンクを選択し、フォーマット設定ツールをワークシート・データの上に表示します。
3. 「[条件付フォーマット](#)」リンクを選択し、「[条件付フォーマット（テーブル / クロス集計）](#)」ページを表示します。
4. 変更するフォーマットの横にある「[編集](#)」列の鉛筆アイコンを選択し、そのタイプのフォーマットの編集ページを表示します。
5. フォーマットに必要な変更を加えます。
6. 「適用」をクリックして変更を保存し、編集ページを閉じます。
7. 「適用」をクリックして「[条件付フォーマット（テーブル / クロス集計）](#)」ページを閉じ、ワークシートを表示します。

指定したフォーマットの変更が適用されます。

ヒント: フォーマット設定ツールを非表示にするには、「[ツール](#)」ラベルの横にあるマイナス (-) アイコンを選択します。

条件付フォーマットの削除方法

現在表示しているワークシートから条件付フォーマットを削除する場合は、条件付フォーマットを削除します。たとえば、75%より大きいパーセント値を青の背景で強調表示する条件付フォーマットを削除できます。

ヒント: 条件付フォーマットを再度使用する可能性がある場合は、条件付フォーマットを削除するのではなく停止します（詳細は、「[条件付フォーマットの起動および停止方法](#)」を参照してください）。

条件付フォーマットを削除する手順は、次のとおりです。

1. 分析するワークシートを表示します（詳細は、「[Discoverer ワークシートを開く方法](#)」を参照してください）。
2. 「[フォーマット](#)」リンクを選択し、フォーマット設定ツールをワークシート・データの上に表示します。
3. 「[条件付フォーマット](#)」リンクを選択し、「[条件付フォーマット \(テーブル / クロス集計\)](#)」ページを表示します。
4. 削除する条件付フォーマットの横にある「削除」列のごみ箱アイコンを選択します。

ヒント: フォーマット設定ツールバーを使用して現在のワークシートからすべてのフォーマット設定を削除する場合は、「すべてのフォーマット設定の削除」をクリックし、確認ページで「はい」をクリックします。

5. 「適用」をクリックして変更を保存し、ワークシートを表示します。

指定したフォーマットの変更が適用されます。

ヒント: フォーマット設定ツールを非表示にするには、「[ツール](#)」ラベルの横にあるマイナス (-) アイコンを選択します。

Discoverer Viewer でのグラフの使用

ここでは、Discoverer Viewer でのグラフの使用方法を説明します。説明するトピックは次のとおりです。

- [グラフの使用](#)
- [グラフの編集方法](#)
- [グラフの表示または非表示方法](#)

グラフの使用

Discoverer Viewer では、次の方法でグラフを編集できます。

- [グラフ・タイプの変更](#)
- [グラフ・サイズの変更](#)
- [グラフ・グラデーションの有効化および無効化](#)
- [3D 効果の有効化および無効化](#)
- [グラフに描かれるデータ領域の変更](#)

グラフ編集の詳細は、「[グラフの編集方法](#)」を参照してください。

注意

- Discoverer Plus (Relational および OLAP) で作成されたグラフは Discoverer Viewer で表示されます。Discoverer Desktop で作成されたグラフは、Discoverer Viewer には表示されません。

グラフの編集方法

グラフのスタイルまたは外観を変更するには、グラフを編集します。たとえば、グラフ・タイプを円グラフから棒グラフに変更します。

グラフを編集する手順は、次のとおりです。

1. 分析するワークシートを表示します（詳細は、「[Discoverer ワークシートを開く方法](#)」を参照してください）。

ワークシートに非表示になっているグラフがある場合は、そのグラフを表示します（詳細は、「[グラフの表示または非表示方法](#)」を参照してください）。

2. 「[グラフ](#)」リンクを選択し、グラフの上にグラフ・ツールを表示します。

3. グラフ・ツールを使用し、次のようにグラフを編集します。

- グラフ・タイプを変更する場合は、「[タイプ](#)」ドロップダウン・リストからグラフ・タイプを選択します。
- グラフ・スタイルを変更する場合は、「[タイプ](#)」ドロップダウン・リストの横にあるドロップダウン・リストからグラフ・スタイルを選択します。
- グラフ・サイズを変更する場合は、「[高さ](#)」および「[幅](#)」フィールドの値を変更します。
- 3Dまたはグラデーション効果を適用するかどうかは、「[3D効果](#)」および「[グラデーション](#)」チェック・ボックスで指定します。

4. 「[適用](#)」をクリックして「[条件付フォーマット \(テーブル / クロス集計\)](#)」ページを閉じ、ワークシートを表示します。

指定したフォーマットの変更が適用されます。

ヒント: グラフ・ツールを非表示にするには、「[ツール](#)」ラベルの横にあるマイナス (-) アイコンを選択します。

グラフの表示または非表示方法

現在表示しているワークシート・データをグラフの形に描画するには、グラフを表示します。たとえば、ワークシート・データを円グラフで表示します。

ワークシートからグラフを削除するには、グラフを非表示にします。

グラフを表示または非表示にする手順は、次のとおりです。

1. 分析するワークシートを表示します（詳細は、「[Discoverer ワークシートを開く方法](#)」を参照してください）。

2. 「[ワークシート・オプション](#)」リンクを選択し、「[ワークシート・オプション](#)」ページを表示します。

3. 現在のワークシートに対してグラフを表示するには、「[グラフ](#)」チェック・ボックスを選択します。

4. 現在のワークシートに対してグラフを非表示にするには、「[グラフ](#)」チェック・ボックスの選択を解除します。

5. 「[適用](#)」をクリックして「[ワークシート・オプション](#)」ページを閉じ、ワークシートを表示します。

指定したフォーマットの変更が適用されます。

ヒント: 「[グラフ](#)」のプラス (+) およびマイナス (-) アイコンでも、グラフを開いたり閉じたりできます。

Discoverer Viewer でのパラメータの使用

ここでは、リレーショナル・データを含むワークシートのパラメータを Discoverer Viewer で使用する方法を説明します。説明するトピックは次のとおりです。

- [パラメータでの索引および値の使用](#)
- [ワークシートへの異なるパラメータの適用方法](#)

注意: OLAP データを含む Discoverer ワークシートには、パラメータは含まれません。

パラメータでの索引および値の使用

Discoverer では、エンド・ユーザーは、索引番号の付いたパラメータ値 ((1) January、(2) February など) または索引番号の付かないパラメータ値 (January、February など) を表示および選択できます。索引は、特定の End User Layer (EUL) アイテムがパラメータとして使用される際に、それらのクエリー・パフォーマンスが向上するように Discoverer マネージャで設定されます。パラメータ選択の詳細は、[「パラメータの編集」](#) ページを参照してください。

<索引および値> ドロップダウン・リストから、パラメータ値を索引番号として入力するか値として入力するか選択できます。たとえば、「月」というパラメータ・フィールドに 1 月という値を設定する場合、次のいずれかの方法で設定できます。

- <索引および値> ドロップダウン・リストから「索引」を選択し、1 月を示す索引番号 (1 など) を入力します。
- <索引および値> ドロップダウン・リストから「値」を選択し、1 月を示すテキスト値 (January など) を入力します。

前述のいずれの値を入力しても、ワークシートでは同じ結果になります。

注意: パラメータは、OLAP コネクションには適用されません。

ワークシートへの異なるパラメータの適用方法

ワークシート・データを詳細化するには、異なるパラメータ値をワークシートに適用します。たとえば、異なる月のデータを表示できます。

ワークシートへ異なるパラメータを適用する手順は、次のとおりです。

1. 分析するワークシートを表示します (詳細は、[「Discoverer ワークシートを開く方法」](#) を参照してください)。

アクティブ・パラメータを含むワークシートを表示する場合は、Discoverer により、各アクティブ・パラメータのパラメータ値を指定するように求めるプロンプトが表示されます。

2. 「操作」領域から「クエリーの再実行」(またはブラウザの「リフレッシュ」) を選択し、[「パラメータの編集」](#) ページを表示します。
3. [「パラメータの編集」](#) ページで、新しいパラメータ値を指定します。

たとえば、New York のワークシート・データを表示するには、「City」パラメータとして New York を入力します。

4. 「適用」をクリックして [「パラメータの編集」](#) ページを閉じ、ワークシートを表示します。指定した変更が適用されます。

値リスト使用時のエラーについて

Discoverer ワークシート・ポートレットに値リスト (LOV) を使用するパラメータがあると、次の場合に「404 - 見つかりません」というエラーが発生します。

- OracleBI Discoverer Viewer を起動するため、Discoverer Portlet で「分析」をクリックした場合

ワークシートでのアイテムおよびメジャーのソート方法

ソート・ツールで、アイテムおよびメジャーを表示する順序を変更できます。

注意: ソート・ツールは、リレーショナル・データに基づくクロス集計ワークシートには使用できません。リレーショナル・データに基づくクロス集計ワークシートは、Discoverer Plus または Discoverer Desktop のいずれかを使用してワークシート作成者がソートします。

ワークシートでアイテムおよびメジャーをソートする手順は、次のとおりです。

1. 分析するワークシートを表示します（詳細は、「[Discoverer ワークシートを開く方法](#)」を参照してください）。
2. 「ソート」リンクを選択し、ソート・ツールをワークシート・データの上に表示します。
3. 使用できるソート・ツールは、データソースのタイプによって次のように異なります。
 - リレーショナル・データを含むテーブル・ワークシートの場合は、「ソート」および「順序」フィールドからソート・オプションを選択するか、「詳細」を選択して「複合ソート」ページを表示し、より詳細なソートを設定します。
 - マルチディメンショナル・データを含むワークシートの場合は、「ソート」、「基準」および「順序」フィールドでソート・オプションを選択します。

ワークシート・データは、指定したソート・オプションに基づきソートされます。

Discoverer Viewer を使用したドリル

Discoverer では、強力なドリル・ツール・セットを使用し、ワークシート・データをすばやく簡単にナビゲートできます。

Discoverer でサポートされるドリルのタイプを次の表に示します。

ドリル・タイプ	説明	ワークシートで使用されるドリル・アイコン
ドリル・アップ / ドリル・ダウン	Discoverer マネージャで作成されたドリル階層をドリル・アップおよびドリル・ダウンします。 ワークシート・データおよびグラフ・データのどちらもドリル・アップおよびドリル・ダウンできます。	
関連するアイテムにドリル	関連するワークシート・アイテムへドリルします。 ワークシート・データの関連するアイテムにはドリルできますが、グラフ・データへはドリルできません。	
ドリル・アウトの使用	ワークシート、インターネット URL またはファイルにドリル・アウトします。 ワークシート・データではドリル・アウトできますが、グラフ・データではドリル・アウトできません。	

ワークシートでのドリル・ダウン方法

ワークシート・データにすばやく簡単に移動する場合にドリルします。たとえば、ワークシート・アイテムにドリル・ダウンするとデータの詳細を見ることができます。

ワークシートでドリル・ダウンする手順は、次のとおりです。

1. 分析するワークシートを表示します（詳細は、「[Discoverer ワークシートを開く方法](#)」を参照してください）。
2. 使用できるドリル・ツールは、データソースのタイプによって次のように異なります。
 - リレーショナル・データを含むワークシートの場合
 - ドリル・ダウン先のワークシート・アイテムの、アイテム・ヘッダーの横にあるドリル・アイコンを選択します。
 - ドットで示された現在の詳細レベルより下の詳細レベルを選択します。
たとえば、「Region」から「City」にドリル・ダウンする場合は、「City」オプションを選択します。
選択したドリル・レベルに基づいてワークシートが更新されます。たとえば、「Region」から「City」にドリル・ダウンすると、ワークシートに「City」のデータが追加されます。
 - マルチディメンショナル・データを含むワークシートの場合
 - ドリル・ダウン先のワークシート値の横にある「ドリルを開く」(+) アイコンを選択します。
データの次のレベルがデータ階層に表示されます。たとえば、2005 の値にドリルすると、2005 年の四半期のデータを表示できます。

ワークシートは、指定したドリル・オプションに基づいて更新されます。

注意: グラフのドリルの詳細は、Discoverer Plus のヘルプを参照してください。

ワークシートでのドリル・アップ方法

ワークシート・データにすばやく簡単に移動する場合にドリルします。たとえば、ワークシート・アイテムから、統合されたデータにドリル・アップできます。

ワークシートでドリル・アップする手順は、次のとおりです。

1. 分析するワークシートを表示します（詳細は、「[Discoverer ワークシートを開く方法](#)」を参照してください）。
2. 使用できるドリル・ツールは、データソースのタイプによって次のように異なります。
 - リレーショナル・データを含むワークシートの場合
 - ドリル・アップ先のワークシート・アイテムの、アイテム・ヘッダーの横にあるドリル・アイコンを選択します。
 - ドットで示された現在の詳細レベルより上の詳細レベルを選択します。
たとえば、「City」から「Region」にドリル・アップする場合は、「Region」オプションを選択します。
選択したドリル・レベルに基づいてワークシートが更新されます。たとえば、「City」から「Region」にドリル・アップすると、ワークシートから「City」のデータが削除されます。

- マルチディメンショナル・データを含むワークシートの場合

- ドリル・アップ元のワークシート値の横にある「ドリルを閉じる」(-) アイコンを選択します。

ワークシートの値が閉じます。たとえば、2005 の値を閉じると、2005 年の四半期のデータを削除できます。

ワークシートは、指定したドリル・オプションに基づいて更新されます。

注意: グラフのドリルの詳細は、Discoverer Plus のヘルプを参照してください。

ワークシートのレイアウトの変更方法

レイアウト・ツールを使用して、ワークシートのレイアウトを変更できます。たとえば、「Year」というワークシート・アイテムを左軸から上軸に移動し、新しい方法でワークシートを分析できます。

ワークシートのレイアウトを変更する手順は、次のとおりです。

1. 分析するワークシートを表示します（詳細は、「[Discoverer ワークシートを開く方法](#)」を参照してください）。
2. 「レイアウト」リンクを選択し、レイアウト・ツールをワークシートの上に表示します。
複雑なレイアウトの変更を行うには、「[詳細](#)」を選択して「[ワークシートの表示ページ: \(テーブル / クロス集計ツール\)](#)」を表示します。
3. 「[ワークシートの表示ページ: \(テーブル / クロス集計ツール\)](#)」のレイアウト・ツールまたはオプションを使用し、ワークシートのレイアウトを変更します。

ワークシートは、指定したレイアウト・オプションに基づいて更新されます。

保存済選択の適用方法

保存済選択は、1つのディメンションに対してメンバーが事前定義されている選択です。メンバー、またはメンバーを選択する基準（過去3か月間、靴の売上高の上位10都市など）として指定できます。保存済選択を、マルチディメンショナル（OLAP）データソースのデータを含むワークシートに適用できます。

保存済選択を適用する手順は、次のとおりです。

1. 分析するワークシートを表示します（詳細は、「[Discoverer ワークシートを開く方法](#)」を参照してください）。
2. 「保存済選択」リンクを選択し、保存済選択ツールをワークシートの上に表示します。
ワークシートは、指定したドリル・オプションに基づいて更新されます。
3. 「ディメンション」ドロップダウン・リストから、更新するメンバーのディメンションを選択します。
4. 「処理」ドロップダウン・リストで、現在のディメンション・メンバー・セットと保存済選択のディメンション・メンバー・セットとの交換、保存済選択のメンバーの現在のメンバーへの追加、保存済選択のメンバーの現在の選択からの削除、または保存済選択に含まれる現在の選択のディメンション・メンバーの保持のいずれかを指定します。
5. 「保存済選択」リストから保存済選択を指定し、適用します。
6. 「実行」をクリックし、保存済選択を適用します。

ワークシートは、指定した保存済選択に基づいて更新されます。

第 II 部

参照情報

ここでは、「Oracle Business Intelligence Discoverer Viewer」 ページすべての説明を含む、一般的な参照情報について説明します。

ダイアログ参照

この章には、Discoverer Viewer の各ページに関する広範な参照情報が記載されています。

[「Viewer」ページについて](#)

[添付タイプの選択（電子メール添付ファイルで送信）](#)

[「エクスポート・タイプの選択」ページ](#)

[「コンポーネントは無効です」ページ](#)

[「条件付フォーマット（テーブル / クロス集計）」ページ](#)

[「条件付セル・フォーマットの作成」ページ](#)

[「条件付ヘッダー・フォーマットの作成」ページ](#)

[「ストップライト・フォーマットの作成」ページ](#)

[「ドリル」ページ](#)

[「パラメータの編集」ページ](#)

[「エラー」ページ](#)

[「エクスポートが用意できています」ページ](#)

[「セルのフォーマット」ページ](#)

[ワークシート・データのフォーマット・リンク・ページ](#)

[「ログアウト」ページ](#)

[「複合ソート」ページ](#)

[「PDF が用意できています」ページ](#)

[「PDF サンプルが用意できています」ページ](#)

[「プリファレンス」ページ](#)

[「印刷可能ページ・オプション」ページ](#): 「内容」タブ

[「印刷可能ページ・オプション」ページ](#): 「ページ設定」タブ

[「クエリーは取り消されました」ページ](#)

[「クエリーの確認が必要です」ページ](#)

[「クエリーの進行状況」ページ](#)

[警告の保存ページ](#)

[「ワークブックに名前を付けて保存」ページ](#)

[「検索と選択」ページ](#)

[「電子メールの送信」ページ](#)

[「テーブル・レイアウト / クロス集計レイアウト」ページ](#)

ワークシートの表示ページ

ワークシートの表示ページ: (「操作」および「ワークシート」リンク)

ワークシートの表示ページ: (グラフ・ツール)

ワークシートの表示ページ: (ページ・レベルのツールおよびコントロール)

ワークシートの表示ページ: (テーブル / クロス集計ツール)

「ワークシート・リスト」ページ

「ワークシート・オプション」ページ

「Viewer」 ページについて

このページでは、OracleBI Discoverer Viewer について簡単に説明し、Discoverer Viewer、PDF ジェネレータおよび Discoverer Server のコンポーネントのバージョン番号を示します。リリース後にアップグレードまたはパッチが作成されている場合は、コンポーネントのバージョン番号を使用すると、使用されているバージョンを確認できます。

コンポーネントのバージョン

Viewer

このフィールドには、Discoverer Viewer のバージョン番号が表示されます。

PDF

このフィールドには、「印刷可能ページ」オプションを使用して Discoverer Viewer を介して PDF を生成する場合に使用する PDF ジェネレータのバージョン番号が表示されます。

サーバー

このフィールドには、OracleBI Discoverer Server のバージョン番号が表示されます。

添付タイプの選択（電子メール添付ファイルで送信）

このページを使用して、電子メールの添付ファイルとして送信するために指定したフォーマットでワークシートをエクスポートするとき使用するエクスポート・ファイル・フォーマットを選択します。ワークシートを電子メールの添付ファイルとして受信すると、他のアプリケーションで開くことができます。

詳細は、次を参照してください。

- [電子メールを使用した Discoverer ワークシートの送信方法](#)

エクスポート・タイプの選択

ドロップダウン・リストを使用し、ワークシートをエクスポートするエクスポート・フォーマットを選択します。

注意：ワークシートを別のフォーマットにエクスポートする方法の詳細は、「[異なるエクスポート・フォーマットの使用について](#)」を参照してください。

エクスポートされたワークシートの動作は、オペレーティング・システムにおけるヘルパー・アプリケーション（MS Word や Excel など）の指定方法により異なります。詳細は、「[エクスポート・タイプの選択](#)」ページを参照してください。

次へ

「次へ」ボタンを使用して指定したフォーマットにワークシートをエクスポートし、「[電子メールの送信](#)」ページを表示します。

「エクスポート・タイプの選択」 ページ

このページを使用し、その他のアプリケーションで開くために指定したファイル・フォーマットにワークシートをエクスポートするときに使用するエクスポート・フォーマットを選択します。

現行ワークシートは様々なフォーマットでエクスポートできます。ワークシートは、エクスポートする前に表示されていたとおりにエクスポートされます。つまり、ワークシートに定義されているすべてのドリル、ページ・アイテムおよびクエリー・パラメータがエクスポートされます。

詳細は、次を参照してください。

[「エクスポートした Excel ファイルを自動的に開くためのクライアント・マシンの構成方法」](#)

エクスポート・タイプの選択

ドロップダウン・リストを使用し、ワークシートをエクスポートするエクスポート・フォーマットを選択します。

注意：ワークシートを別のフォーマットにエクスポートする方法の詳細は、「[異なるエクスポート・フォーマットの使用について](#)」を参照してください。

注意：html エクスポート・フォーマットを選択すると、エクスポートする HTML ファイルを含む ZIP ファイルが自動的に作成されます。一部の SMTP サーバーでは、ZIP 形式の添付ファイルを含む電子メール・メッセージをユーザーが送信できないように設定されている場合があります。

エクスポート

「エクスポート」 ボタンを使用して指定したフォーマットにワークシートをエクスポートし、「[エクスポートが用意できています](#)」 ページを表示します。

「コンポーネントは無効です」 ページ

このページには、Discoverer Viewer コンポーネントが無効になっている、あるいは Discoverer Viewer が起動していない、または停止していることを示すエラー・メッセージが表示されます。

「条件付フォーマット（テーブル/クロス集計）」ページ

このページを使用し、ワークシートに適用する条件付フォーマットおよびストップライト・フォーマットを管理します。たとえば、100,000 を超えるコストを強調表示する条件付フォーマットを有効にできます。

詳細は、次を参照してください。

[ワークシート・データのフォーマット・リンク・ページ](#)

[「条件付セル・フォーマットの作成」ページ](#)

[「条件付ヘッダー・フォーマットの作成」ページ](#)

[「ストップライト・フォーマットの作成」ページ](#)

< 条件付フォーマット >

これらのリストを使用し、条件付フォーマットおよびストップライト・フォーマットを作成、管理および編集します。

ヒント: 「表示」列のチェック・ボックスを使用し、フォーマットを有効または無効にします。

注意: 同じワークシート・アイテム上で条件付フォーマットとストップライト・フォーマットを同時に有効にできます。

ストップライト・フォーマットのデータ値を非表示化

このチェック・ボックスを使用し、フォーマットするワークシート・アイテムのワークシート値を表示するかどうかを指定します。たとえば、フォーマット色は表示して値自体は表示しないワークシートを作成する場合は、このチェック・ボックスを選択します。

ストップライト・フォーマットの作成

このボタンを使用し、「[ストップライト・フォーマットの作成](#)」ページを表示します。このページでは、ワークシートの数値を許容カテゴリ、望ましい値のカテゴリおよび非許容カテゴリに分類するための新規ストップライト・フォーマットを作成できます。

条件付セル・フォーマットの作成

このボタンを使用し、「[条件付セル・フォーマットの作成](#)」ページを表示します。このページでは、ワークシートの数値を強調表示するための新規条件付フォーマットを作成できます。

条件付ヘッダー・フォーマットの作成

このボタンを使用し、「[条件付ヘッダー・フォーマットの作成](#)」ページを表示します。このページでは、ワークシートのヘッダー値を強調表示するための新規条件付フォーマットを作成できます。

表示

これらのチェック・ボックスを使用し、現行ワークシートに条件付フォーマットを表示します。

注意: 複数の「表示」チェック・ボックスが選択されている場合（複数のストップライト・フォーマットまたは条件付セル・フォーマットが存在する場合）、次のように処理されます。

- リストされている順序のうち、最初のストップライト・フォーマットが Discoverer Viewer で適用されます。
- 次に、ストップライト・フォーマットと競合しない条件付フォーマットが適用されます。
- 条件付フォーマットとストップライト・フォーマットが競合する場合は、ストップライト・フォーマットが適用されます。
- 「上に移動」または「下に移動」列のアイコンを使用すると、フォーマットが適用される順序を変更できます。

名前

この読取り専用フィールドには、条件付フォーマットの名前が表示されます。

属性

この読取り専用フィールドには、フォーマットの属性が表示されます。

上に移動

この列の「上に移動」アイコンを使用し、リスト内の条件付フォーマットの位置を上に移動します。1回クリックするたびに、条件付フォーマットが1つ上に移動します。「上に移動」列のアイコンをクリックすると、ストップライト・フォーマットまたは他の条件付フォーマットが適用される順序を変更できます。

下に移動

この列の「下に移動」アイコンを使用し、リスト内の条件付フォーマットの位置を下に移動します。1回クリックするたびに、条件付フォーマットが1つ下に移動します。「下に移動」列のアイコンをクリックすると、ストップライト・フォーマットまたは他の条件付フォーマットが適用される順序を変更できます。

編集

このアイコンを使用し、「[条件付セル・フォーマットの作成](#)」ページ、「[ストップライト・フォーマットの作成](#)」ページまたは「[条件付ヘッダー・フォーマットの作成](#)」ページを表示します。これらのページを使用し、<条件付フォーマット・リスト>で選択されているフォーマットを編集できます。

削除

このアイコンを使用し、選択されている条件付フォーマットを削除します。

すべてのフォーマット設定の削除

このボタンを使用して「表示」チェック・ボックスの選択をすべて解除し、ツールバーを使用して定義されたすべてのフォーマット・エントリを削除します（詳細は、[ワークシートの表示ページ：（テーブル/クロス集計ツール）](#)を参照してください）。

注意

- Discoverer Viewer でワークブックを保存する場合、後で使用するために条件付フォーマットまたはストップライト・フォーマット情報が保存されることはありません。

「条件付セル・フォーマットの作成」ページ

このページでは、指定したフォーマットでワークシート・データ・セルを表示する条件付セル・フォーマットを、このページで定義する条件に応じて作成します。

たとえば、アイテムの「Profit Sum」の値が \$10,000 を超えるときにワークシート・データ・セルの背景を青にフォーマットする手順は、次のとおりです。

- 「**アイテム**」フィールドから「Profit Sum」を選択します。
- 「**演算子**」ドロップダウン・リストから「次より大きい」(>)を選択します。
- 「**値**」フィールドに「10,000」と入力します。
- 「**背景**」色ピッカーから青を選択します。

このページは、次のページとしても表示されます。

[「条件付セル・フォーマットの編集」ページ](#)

その他の条件付フォーマット・オプションの詳細は、次を参照してください。

[ワークシート・データのフォーマット・リンク・ページ](#)

[「条件付フォーマット \(テーブル / クロス集計\)」ページ](#)

[「条件付ヘッダー・フォーマットの作成」ページ](#)

[「ストップライト・フォーマットの作成」ページ](#)

名前

このフィールドを使用し、条件付セル・フォーマットの名前を入力します。デフォルト名が生成されますが、これは編集できます。

アイテム

このドロップダウン・リストを使用し、条件付フォーマットを適用するアイテムまたはメジャーを選択します。数値アイテム (Profit など) を選択する必要があります。

演算子

このドロップダウン・リストを使用し、選択したアイテムまたはメジャーの「**値**」フィールドに指定した値に作用する演算子 (>、<、= など) を選択します。

値

このフィールドを使用し、選択したアイテムまたはメジャーに適用する値を入力します。このフィールドに入力する値は、選択したアイテムまたはメジャーに適用され、選択した演算子の作用を受けます。このフィールドには数値を入力する必要があります。

ディメンション

この読取り専用フィールドを使用し、条件付フォーマットを適用するディメンション (Year、Region、City など) を表示します。

注意: このフィールドが表示されるのは、クロス集計ワークシートのみです。

メンバーへのフォーマットの適用

この読取り専用フィールドを使用し、フォーマットが適用される選択済ディメンション・メンバー (2002、East、Boston など) を表示します。

注意: このフィールドが表示されるのは、クロス集計ワークシートのみです。

編集

このアイコンを使用し、「<メンバー>の選択」ページを表示します。このページでは、条件付フォーマットを適用する1つ以上のディメンション・メンバーを選択します。たとえば、メンバーがCityの場合、特定の都市（Parisなど）を選択し、条件が真になったときにこの都市に条件付フォーマットを適用できます。

注意：このフィールドが表示されるのは、クロス集計ワークシートのみです。

注意：選択肢を編集可能なディメンション・テーブルが表示されるかわりに、選択肢が変更不可であることを示すメッセージが表示される場合があります。このメッセージが表示される条件は、次のとおりです。

- 複数範囲のセルを選択した。
この場合、選択肢が複雑すぎるため、セルのディメンション・メンバーによって識別できません。
- クロス集計がアウトライン・モードであり、階層の上位レベルのメンバーに子以外の固有の行が存在するときに、これらの行の1つを選択した。
たとえば、クロス集計に国と都市の行が表示されるとします。アウトライン・モードの場合、「Japan」には固有の行があり、その下位には「Osaka」および「Tokyo」行が表示されているとします。「Japan」行にフォーマットを適用すると、各都市には値がないため、選択肢はディメンション・メンバーによって表すには複雑すぎます。
- 選択したセルがクロス集計に現在表示されていない。
たとえば、「Osaka」の行または列が選択されている場合に、クロス集計に「Japan」の各都市が表示されないようにドリル・アップすると、選択したセルはクロス集計に表示されず、このページでは選択肢を編集できません。「Japan」を再度ドリル・ダウンすると、このページで選択肢を編集できるようになります。

太字

このドロップダウン・リストを使用し、条件付セル・フォーマットの太字フォーマットを適用または削除するかどうかを選択します。

斜体

このドロップダウン・リストを使用し、条件付セル・フォーマットの斜体フォーマットを適用または削除するかどうかを選択します。

下線

このドロップダウン・リストを使用し、条件付セル・フォーマットの下線フォーマットを適用または削除するかどうかを選択します。

背景

この色ピッカーを使用し、条件付セル・フォーマットに適用する背景色を選択します。

フォント

この色ピッカーを使用し、条件付セル・フォーマットに適用するフォント色を選択します。

枠線

この領域を使用し、選択したワークシート・セルの枠線スタイルおよび枠線色のフォーマットを選択します。

注意：このフィールドが表示されるのは、OLAP 接続を使用している場合のみです。

スタイル

このドロップダウン・リストを使用し、選択したワークシート・セルの枠線スタイルを選択します。

注意: このフィールドが表示されるのは、OLAP 接続を使用している場合のみです。

線の色

このアイコンを使用し、選択したワークシート・セルに使用する枠線の色を選択する色パレットを選択します。

注意: このフィールドが表示されるのは、OLAP 接続を使用している場合のみです。

アウトライン、下、上、左、右

これらの行を使用し、選択したすべてのワークシート・セルに使用する枠線指定を設定します。

注意: このフィールドが表示されるのは、OLAP 接続を使用している場合のみです。

数値

この領域には、様々な数値カテゴリの様々な内容が表示されます。

カテゴリ

このフィールドを使用してカテゴリを選択すると、適切なコントロールが表示されます。選択したカテゴリに応じて、次のコントロールが表示されます。

注意: このフィールドが表示されるのは、OLAP 接続を使用している場合のみです。

- **負の数の表示形式**

このドロップダウン・リストを使用し、負の数のフォーマットを指定します。このドロップダウン・リストが表示されるのは、「数値」および「通貨」カテゴリです。

- **小数点以下の桁数**

このドロップダウン・リストを使用し、小数点以下の桁数を指定します。このドロップダウン・リストが表示されるのは、「数値」、「通貨」および「パーセンテージ」カテゴリです。

- **スケール**

このドロップダウン・リストを使用し、数値を省略するかどうかを指定します。たとえば、このドロップダウン・リストで「1000」を指定すると、値「10000」は「10」として表示されます。このドロップダウン・リストが表示されるのは、「数値」および「通貨」カテゴリです。

- **通貨記号**

このドロップダウン・リストを使用し、セルの通貨記号を選択します。このオプションを選択しても、通貨が別の通貨に換算されることはありません。そのため、適切な通貨記号を適用するよう注意してください。このフィールドが表示されるのは、「通貨」カテゴリのみです。

- **<スケール>で<文字>を表示**

このチェック・ボックスを選択し、ワークシート・セルで使用する数値の省略形を指定します。たとえば、「スケール」ドロップダウン・リストで「1000」を指定すると、このチェック・ボックスには「1000でKを表示」というラベルが付けられます。このチェック・ボックスを選択して設定を適用すると、Discoverer Viewer では、値「10000」は「10K」として表示されます。このチェック・ボックスは、「スケール」が「なし」以外に設定されている場合の「数値」および「通貨」カテゴリで表示されます。

- **桁区切りを使用**

このチェック・ボックスを使用し、1000 ごとにカンマを表示します。たとえば、「スケール」が「なし」に設定されているときにこのチェック・ボックスを選択すると、「10000」は「10,000」として表示されます。このチェック・ボックスは、「数値」カテゴリでのみ表示され、ローケル（または言語）に依存します。

- 挿入

このドロップダウン・リストを使用してカスタム・フォーマットを作成し、「実行」を選択してアイテムを「**カスタム・フォーマットの編集**」フィールドに追加します。このドロップダウン・リストが表示されるのは、「カスタム」カテゴリのみです。

- カスタム・フォーマットの編集

Oracle 数値フォーマットをよく理解している場合は、このフィールドに Oracle 数値フォーマットを入力できます。また、「**挿入**」ドロップダウン・リストを使用することにより、フォーマット指定を使用することもできます。このフィールドが表示されるのは、「カスタム」カテゴリです。

注意: 数値フォーマットに適用できるのは、1 回につき 1 つのカテゴリのみです。選択したカテゴリの設定のみが適用されます。

日付

この領域には、様々な日付カテゴリの様々な内容が表示されます。

カテゴリ

このフィールドを使用してカテゴリを選択すると、適切なコントロールが表示されます。選択したカテゴリに応じて、次のコントロールが表示されます。

注意: このフィールドが表示されるのは、OLAP 接続を使用している場合のみです。

- 日付オプション

このリストを使用し、日付のフォーマットを選択します。このリストが表示されるのは、「日付」カテゴリです。

- 時間オプション

このリストを使用し、時刻の値のフォーマットを指定します。このリストが表示されるのは、「時間」カテゴリです。

- 日時オプション

このリストを使用し、日付および時刻の値のフォーマットを指定します。このリストが表示されるのは、「日時」カテゴリです。

- 挿入

このリストを使用してカスタム・フォーマットを作成し、「実行」を選択してアイテムを「**カスタム・フォーマットの編集**」フィールドに追加します。このフィールドが表示されるのは、「カスタム」カテゴリです。

- カスタム・フォーマットの編集

Oracle 日付フォーマットをよく理解している場合は、このフィールドに Oracle 日付フォーマットを入力できます。また、「**挿入**」ドロップダウン・リストを使用することにより、フォーマット指定を使用することもできます。このフィールドが表示されるのは、「カスタム」カテゴリです。

注意: 日付フォーマットに適用できるのは、1 回につき 1 つのカテゴリのみです。選択したカテゴリの設定のみが適用されます。

注意

- このページでは、標準のキーボード・ナビゲーションを使用します。マウスを使用していない場合、色グリッドを使用して色を選択することはできません。かわりに、RGB 値（黒を示す #330033 など）を入力してください。

「条件付ヘッダー・フォーマットの作成」ページ

このページを使用し、指定したフォーマットでヘッダー・セルを表示する条件付ヘッダー・フォーマットを、このページで定義する条件に応じて作成します。

たとえば、「Year」が2000の場合、「Year」列のヘッダー・セル・テキストを青にフォーマットする手順は、次のとおりです。

- 「**ディメンション**」ドロップダウン・リストから「Year」を選択します。
- 「**選択済暦年**」チェック・ボックスを選択します。
- 2000を「**選択可能**」フィールドから「**選択済**」フィールドに移動します。
- 「**フォント**」色ピッカーから青を選択します。

このページは、次のページとしても表示されます。

[「ヘッダー・フォーマットの編集」ページ](#)

その他の条件付フォーマット・オプションの詳細は、次を参照してください。

[「条件付セル・フォーマットの作成」ページ](#)

[「ストップライト・フォーマットの作成」ページ](#)

名前

このフィールドを使用し、条件付ヘッダー・セル・フォーマットの名前を入力します。デフォルト名が生成されますが、これは編集できます。

ディメンション

このドロップダウン・リストを使用し、条件付フォーマットを適用するディメンション（Year、Region、Cityなど）を選択します。

注意：このフィールドが表示されるのは、クロス集計ワークシートのみです。

フォーマットの適用先

このラジオ・ボタンを使用し、次のように、条件付ヘッダー・フォーマットを適用するヘッダー値を指定します。

- 「**<テーブル/クロス集計>全体**」または「**任意の<ディメンション>**」

このラジオ・ボタンを使用し、現在のフォーマットを任意の値に適用します。たとえば、選択したディメンションがRegionの場合、現在のフォーマットは、ワークシート内の任意の地域（East、WestまたはCentral）のヘッダーに適用されます。

- 「**選択済<列>**」または「**選択済<ディメンション>**」

このラジオ・ボタンを使用し、現在のフォーマットを1つ以上の使用可能な値に適用します。たとえば、選択したディメンションが「Region」の場合、「Region」の値は「East」、「West」または「Central」になります。

このドロップダウン・リストを使用し、条件付フォーマットを適用するアイテムまたはメジャーを選択します。

選択可能 / 選択済

「**選択可能**」フィールドには、ワークシートのメンバーが表示されます。「**選択済**」フィールドには、条件付フォーマットが適用されるメンバーが表示されます。

これらのフィールドを使用し、「**選択可能**」フィールドと「**選択済**」フィールドのメンバーを移動します。

太字

このドロップダウン・リストを使用し、条件付ヘッダー・フォーマットの太字フォーマットを適用または削除するかどうかを選択します。

斜体

このドロップダウン・リストを使用し、条件付ヘッダー・フォーマットの斜体フォーマットを適用または削除するかどうかを選択します。

下線

このドロップダウン・リストを使用し、条件付ヘッダー・フォーマットの下線フォーマットを適用または削除するかどうかを選択します。

背景

この色ピッカーを使用し、条件付ヘッダー・フォーマットに適用する背景色を選択します。

フォント

この色ピッカーを使用し、条件付ヘッダー・フォーマットに適用するフォント色を選択します。

枠線

この領域を使用し、選択したヘッダー・セルの枠線スタイルおよび枠線色のフォーマットを選択します。

注意: このフィールドが表示されるのは、OLAP 接続を使用している場合のみです。

スタイル

このドロップダウン・リストを使用し、選択したワークシート・セルの枠線スタイルを選択します。

注意: このフィールドが表示されるのは、OLAP 接続を使用している場合のみです。

線の色

このアイコンを使用し、選択したワークシート・セルに使用する枠線の色を選択する色パレットを選択します。

注意: このフィールドが表示されるのは、OLAP 接続を使用している場合のみです。

アウトライン、下、上、左、右

これらの行を使用し、選択したすべてのヘッダー・セルに使用する枠線指定を設定します。

注意: このフィールドが表示されるのは、OLAP 接続を使用している場合のみです。

注意

- このページでは、標準のキーボード・ナビゲーションを使用します。マウスを使用していない場合、色グリッドを使用して色を選択することはできません。かわりに、RGB 値（黒を示す #330033 など）を入力してください。

「ストップライト・フォーマットの作成」 ページ

このページを使用し、ワークシート・アイテムの新規ストップライト・フォーマットを作成します。たとえば、売上高を非許容、許容および望ましい値として分類できます。

このダイアログは、次のページとしても表示されます。
「ストップライト・フォーマットの編集」 ページ

詳細は、次を参照してください。

[「条件付フォーマットとは」](#)

[「ストップライト・フォーマットとは」](#)

[ワークシート・データのフォーマット・リンク・ページ](#)

[「条件付フォーマット \(テーブル / クロス集計\)」 ページ](#)

[「条件付ヘッダー・フォーマットの作成」 ページ](#)

[「ストップライト・フォーマットの作成」 ページ](#)

名前

このフィールドを使用し、ストップライト・フォーマットの名前を指定します。指定した名前を使用し、その他のページの条件付フォーマットが識別されます。Discoverer Viewer によって作成された名前を使用するには、すでにフィールド内に存在する値を使用します。

しきい値

これらのフィールドを使用し、非許容および望ましい値のカテゴリの範囲を指定します。

■ 非許容

このフィールドを使用し、非許容カテゴリのしきい値を入力します。たとえば、5000 を入力し、5000 以下の値を非許容として処理します。

■ 許容

この読取り専用フィールドは、「非許容」および「望ましい値」フィールドに入力した値に基づいて自動的に入力されます。

■ 望ましい値

このフィールドを使用し、望ましい値カテゴリのしきい値を入力します。たとえば、30000 を入力し、30000 以上の値を望ましい値として処理します。

色

これらのアイコンを使用し、すべてのストップライト・フォーマットの非許容、許容および望ましい値の色を変更するための色ピッカーを表示します。

ディメンション

この読取り専用フィールドを使用し、条件付フォーマットを適用するディメンション (Year、Region、City など) を表示します。

注意: このフィールドが表示されるのは、クロス集計ワークシートのみです。

メンバーへのフォーマットの適用

この読取り専用フィールドを使用し、フォーマットが適用される選択済ディメンション値 (2002、East、Boston など) を表示します。

注意: このフィールドが表示されるのは、クロス集計ワークシートのみです。

編集

このアイコンを使用し、「<メンバー>の選択」ページを表示します。このページでは、条件付フォーマットを適用する1つ以上のディメンション・メンバーを選択します。たとえば、メンバーがCityの場合、特定の都市（Parisなど）を選択し、条件が真になったときにこの都市に条件付フォーマットを適用できます。

注意：このフィールドが表示されるのは、クロス集計ワークシートのみです。

注意：選択肢を編集可能なディメンション・テーブルが表示されるかわりに、選択肢が変更不可であることを示すメッセージが表示される場合があります。このメッセージが表示される条件は、次のとおりです。

- 複数範囲のセルを選択した。
この場合、選択肢が複雑すぎるため、セルのディメンション・メンバーによって識別できません。
- クロス集計がアウトライン・モードであり、階層の上位レベルのメンバーに子以外の固有の行が存在するときに、これらの行の1つを選択した。
たとえば、クロス集計に国と都市の行が表示されるとします。アウトライン・モードの場合、「Japan」には固有の行があり、その下位には「Osaka」および「Tokyo」行が表示されているとします。「Japan」行にフォーマットを適用すると、各都市には値がないため、選択肢はディメンション・メンバーによって表すには複雑すぎます。
- 選択したセルがクロス集計に現在表示されていない。
たとえば、「Osaka」の行または列が選択されている場合に、クロス集計に「Japan」の各都市が表示されないようにドリル・アップすると、選択したセルはクロス集計に表示されず、このページでは選択肢を編集できません。「Japan」を再度ドリル・ダウンすると、このページで選択肢を編集できるようになります。

フォーマットの適用先

このラジオ・ボタンを使用し、次のように、ストップライト・フォーマットを適用するデータ・ポイントを指定します。

- **すべてのデータ・ポイント**
このラジオ・ボタンを使用し、現在のストップライト・フォーマットをすべての「データ・ポイント」の値に適用します。
- **選択済データ・ポイント**
このラジオ・ボタンを使用し、現在のフォーマットを1つ以上の使用可能な「データ・ポイント」に適用します。たとえば、選択したデータ・ポイントが「Profit Sum」の場合、現在のフォーマットが「Profit Sum」列のすべてのセルに適用されます。

注意：このフィールドが表示されるのは、テーブル・ワークシートのみです。

選択可能 / 選択済

「選択可能」フィールドには、ワークシートのデータ・ポイントが表示されます。「選択済」フィールドには、ストップライト・フォーマットが適用されるデータ・ポイントが表示されます。

これらのフィールドを使用し、「選択可能」フィールドと「選択済」フィールドのデータ・ポイントを移動します。

注意：このフィールドが表示されるのは、テーブル・ワークシートのみです。

「ドリル」 ページ

このページには、ドリル詳細の指定や現行ワークシートへのドリルの適用によってドリルを実行するための情報が表示されます。

注意: OLAP 接続を使用している場合、このページは表示されません。

ヒント: このページを表示するには、[Tab] キーを使用して矢印アイコンのあるワークシート・セル・ヘッダー（ドリル・アイコンなど）を強調表示し、[Enter] キーを使用します。

詳細は、「[ワークシートの表示ページ: \(ページ・レベルのツールおよびコントロール\)](#)」を参照してください。

起点

この読取り専用領域には、ドリル元のアイテムの名前（「製品タイプ」など）が表示されます。

終点

この領域には、ドリルのタイプ、階層、およびドリル対象のアイテムを選択するためのフィールドが表示されます。

タイプ

このドロップダウン・リストを使用し、使用するドリルのタイプ（「上へ / 下へ」、「関連アイテム」など）を選択します。

階層

このドロップダウン・リストを使用し、ドリル対象の階層を選択します。

適用

このドロップダウン・リストを使用してこのページで指定したドリル詳細を適用し、ドリルの結果をワークシートに表示します。

「パラメータの編集」 ページ

このページを使用し、パラメータ値を指定します。通常、パラメータ値を使用して次のことを行います。

- ワークシートにフィルタをかけるために使用する条件に入力値を提供します（たとえば、月を選択するよう求められた場合、「1月」と入力して1月のデータのみを分析します）。
- 計算の入力値を提供します（たとえば、一定期間の平均値を選択するよう求められた場合、値「3」を入力して3か月の平均を計算します）。

必要なパラメータ

この領域には、パラメータ値を入力する1つ以上のフィールドがあります。各フィールドには、入力する値を示すプロンプト（通常、指示または質問）があります。たとえば、月を選択してくださいというプロンプトの場合、「January」と入力して1月の実績値を分析します。

注意：入力が必須のパラメータには、アスタリスクが表示されます。

現行ワークシートに適用するパラメータを選択する方法は、次のとおりです。

- 現在表示されているデフォルトのパラメータ値で「実行」ボタンを使用し、ワークシートを表示します。
- 懐中電灯のアイコンを使用し、値リスト（LOV）のパラメータ値を検索および選択するための「[検索と選択](#)」ページを表示します。
- テキスト・フィールドに値を入力し、「実行」ボタンをクリックします。

Discoverer Viewer には、パラメータの <索引および値> ドロップダウン・リストが表示される場合があります（詳細は、「[パラメータでの索引および値の使用](#)」を参照してください）。

注意：<索引および値> ドロップダウン・リストをここに表示するかどうかは、Discoverer Plus で指定します（詳細は、『Oracle Business Intelligence Discoverer Plus ユーザーズ・ガイド』を参照してください）。

実行

このボタンをクリックし、ワークシートを表示します。

注意

- パラメータ・フィールドには、次の予約語を入力できます。
 - SYSDATE または TODAY
予約語 SYSDATE または TODAY をパラメータ・フィールドに入力し（データ型 DATE にする必要があります）、システム日または本日と一致するワークシート・データを表示します。
 - USER
予約語 USER をパラメータ・フィールドに入力し（パラメータのデータ型と同じにする必要があります）、現在のデータベース・ユーザーと一致するワークシート・データを表示します。
 - NULL
予約語 NULL をパラメータ・フィールドに入力し（データ型 DATE、STRING または NUMERIC にする必要があります）、このパラメータの基となるアイテムが NULL 値を持つワークシート・データを表示します。
- 予約語のデータ型はパラメータのデータ型と同じである必要があります（たとえば、SYSDATE または TODAY は、データ型が DATE であるパラメータでのみ使用できます）。

注意：予約語は大 / 小文字を使用して入力できます。ただし、追加テキストまたはテキスト記号は入力しないでください。たとえば、NULL% または 'NULL' は使用できません。NULL% はテキスト文字列として処理され、予約語としては処理されません。

- Discoverer ワークシートのリスト・ポートレットに、値リスト (LOV) を使用したパラメータ (各パラメータに対してデフォルト値が指定されていない) を有するワークシートが含まれていると、次の場合に「404-見つかりません」というエラーが表示されます。
 1. ワークシートのリスト・ポートレット・リンクを選択して Discoverer Viewer でワークシートを表示する場合
 2. 懐中電灯のアイコンをクリックして「[検索と選択](#)」ページを表示し、LOV からパラメータ値を表示する場合

Discoverer Viewer の起動後にこの問題を解決するには、「実行」ボタンを押してワークシートを再実行します（「実行」ボタンを押す前にパラメータ値をいくつか入力する必要があります）。次に懐中電灯のアイコンを使用して「[検索と選択](#)」ページを表示し、LOV からパラメータ値を検索および選択します。

注意：この問題は、各パラメータに対してデフォルト値が指定されている場合は発生しません。

「エラー」ページ

このページには、発生したエラーを説明するテキストが表示されます。「接続」ボタンを使用すると、Discoverer に再接続できます。

エラーの発生

接続

このボタンを使用し、Discoverer に再接続します。

ヒント: ブラウザの「戻る」ボタンを使用すると、エラー・ページが表示される原因となった前のページを表示できることがあります。ただし、これによって問題が解決されるとはかぎりません。問題が解決されない場合は、このページの「接続」ボタンを使用して Discoverer に再接続してください。

「エクスポートが用意できています」ページ

このページを使用し、「[エクスポート・タイプの選択](#)」ページで選択したフォーマットでエクスポートした文書を表示および保存できます。

クリックして表示または保存

このボタンを使用し、エクスポートした文書を適切なヘルパー・アプリケーションで開きます。たとえば、ワークシートを PDF フォーマットでエクスポートする場合、このボタンをクリックすると、エクスポートした文書が Adobe Acrobat を使用して表示されます。これにより、Adobe Acrobat を使用し、エクスポートした文書を表示または保存できます。

「クリックして表示または保存」ボタンをクリックした後の動作は、オペレーティング・システムで様々なファイル・タイプ（MIME タイプ設定など）に指定されているヘルパー・アプリケーション（Adobe Acrobat、MS Word、Excel など）によって異なります。

「クリックして表示または保存」ボタンをクリックした後、次のいずれかの動作が行われます。

- ブラウザに組み込まれているアプリケーションでワークシートが開きます。
- アプリケーションでワークシートが開きます。
- ダイアログが表示され、エクスポートしたフォーマットでワークシートが保存されます。

注意： Discoverer Viewer でワークシートを開くには、オペレーティング・システム、ブラウザ（Internet Explorer など）およびスプレッドシート・アプリケーション（Microsoft Excel など）で推奨設定が行われている必要があります。詳細は、「[エクスポートした Excel ファイルを自動的に開くためのクライアント・マシンの構成方法](#)」を参照してください。

「セルのフォーマット」 ページ

このページを使用し、クロス集計ワークシートで選択したセルのフォント、枠線、数値フォーマット・オプションを指定します。

ワークシートのフォーマットの詳細は、次を参照してください。

[「ワークシートの表示ページ: \(テーブル / クロス集計ツール\)」](#)

[「条件付フォーマットとは」](#)

[「ストップライト・フォーマットとは」](#)

太字

このドロップダウン・リストを使用し、選択したワークシート・セルの太字フォーマットを適用または削除するかどうかを選択します。

斜体

このドロップダウン・リストを使用し、選択したワークシート・セルの斜体フォーマットを適用または削除するかどうかを選択します。

下線

このドロップダウン・リストを使用し、選択したワークシート・セルの下線フォーマットを適用または削除するかどうかを選択します。

背景

この色ピッカーを使用し、選択したワークシート・セルに適用する背景色を選択します。

フォント

この色ピッカーを使用し、選択したワークシート・セルに適用するフォント色を選択します。

枠線

この領域を使用し、選択したワークシート・セルの枠線スタイルおよび枠線色のフォーマットを選択します。

注意: このフィールドが表示されるのは、OLAP 接続を使用している場合のみです。

スタイル

このドロップダウン・リストを使用し、選択したワークシート・セルの枠線スタイルを選択します。

注意: このフィールドが表示されるのは、OLAP 接続を使用している場合のみです。

線の色

このアイコンを使用し、選択したワークシート・セルに使用する枠線の色を選択する色パレットを選択します。

注意: このフィールドが表示されるのは、OLAP 接続を使用している場合のみです。

アウトライン、下、上、左、右

これらの行を使用し、選択したすべてのワークシート・セルに使用する枠線指定を設定します。

注意: このフィールドが表示されるのは、OLAP 接続を使用している場合のみです。

数値

この領域には、様々な数値カテゴリの様々な内容が表示されます。

注意: このフィールドが表示されるのは、OLAP 接続を使用している場合のみです。

カテゴリ

このフィールドを使用してカテゴリを選択すると、適切なコントロールが表示されます。選択したカテゴリに応じて、次のコントロールが表示されます。

注意: このフィールドが表示されるのは、OLAP 接続を使用している場合のみです。

- **負の数の表示形式**

このドロップダウン・リストを使用し、負の数のフォーマットを指定します。このフィールドが表示されるのは、「数値」および「通貨」カテゴリです。

- **小数点以下の桁数**

このドロップダウン・リストを使用し、小数点以下の桁数を持つ例を指定します。このフィールドが表示されるのは、「数値」、「通貨」および「パーセンテージ」カテゴリです。

- **スケール**

このドロップダウン・リストを使用し、数値を省略するかどうかを指定します。たとえば、このドロップダウン・リストで「1000」を指定すると、値「10000」は「10」として表示されます。このフィールドが表示されるのは、「数値」および「通貨」カテゴリです。

- **通貨記号**

このドロップダウン・リストを使用し、セルの通貨記号を選択します。このオプションを選択しても、通貨が別の通貨に換算されることはありません。そのため、適切な通貨記号を適用するよう注意してください。このフィールドが表示されるのは、「通貨」カテゴリのみです。

- **<スケール> で <文字> を表示**

このチェック・ボックスを選択し、ワークシート・セルで使用する数値の省略形を指定します。たとえば、「スケール」ドロップダウン・リストで「1000」を指定すると、このチェック・ボックスには「1000 で K を表示」というラベルが付けられます。このチェック・ボックスを選択して設定を適用すると、Discoverer Viewer では、値「10000」は「10K」として表示されます。このフィールドは、「スケール」が「なし」以外に設定されている場合の「数値」および「通貨」カテゴリで表示されます。

- **桁区切りを使用**

このチェック・ボックスを使用し、1000 ごとにカンマを表示します。たとえば、「スケール」が「なし」に設定されているときにこのチェック・ボックスを選択すると、「10000」は「10,000」として表示されます。このフィールドは、「数値」カテゴリでのみ表示され、ローケル（または言語）に依存します。

- **挿入**

このドロップダウン・リストを使用してカスタム・フォーマットを作成し、「実行」を選択してアイテムを「カスタム・フォーマットの編集」フィールドに追加します。このフィールドが表示されるのは、「カスタム」カテゴリのみです。

- **カスタム・フォーマットの編集**

Oracle 数値フォーマットをよく理解している場合は、このフィールドに Oracle 数値フォーマットを入力できます。また、「挿入」ドロップダウン・リストを使用することにより、挿入フォーマット指定を使用することもできます。このフィールドが表示されるのは、「カスタム」カテゴリです。

注意: 数値フォーマットに適用できるのは、1 回につき 1 つのカテゴリのみです。選択したカテゴリの設定のみが適用されます。

日付

この領域には、様々な日付カテゴリの様々な内容が表示されます。

カテゴリ

このフィールドを使用してカテゴリを選択すると、適切なコントロールが表示されます。選択したカテゴリに応じて、次のコントロールが表示されます。

注意: このフィールドが表示されるのは、OLAP 接続を使用している場合のみです。

■ 日付オプション

このリストを使用し、日付のフォーマットを選択します。このフィールドが表示されるのは、「日付」カテゴリです。

■ 時間オプション

このリストを使用し、時刻の値のフォーマットを指定します。このフィールドが表示されるのは、「時間」カテゴリです。

■ 日時オプション

このリストを使用し、日付および時刻の値のフォーマットを指定します。このフィールドが表示されるのは、「日時」カテゴリです。

■ 挿入

このリストを使用してカスタム・フォーマットを作成し、「実行」を選択してアイテムを「カスタム・フォーマットの編集」フィールドに追加します。このフィールドが表示されるのは、「カスタム」カテゴリです。

■ カスタム・フォーマットの編集

Oracle 日付フォーマットをよく理解している場合は、このフィールドに Oracle 日付フォーマットを入力できます。また、「挿入」ドロップダウン・リストを使用することにより、挿入フォーマット指定を使用することもできます。このフィールドが表示されるのは、「カスタム」カテゴリです。

注意: 日付フォーマットに適用できるのは、1 回につき 1 つのカテゴリのみです。選択したカテゴリの設定のみが適用されます。

注意

- このページでは、標準のキーボード・ナビゲーションを使用します。マウスを使用していない場合、色グリッドを使用して色を選択することはできません。かわりに、RGB 値（黒を示す #330033 など）を入力してください。

ワークシート・データのフォーマット・リンク・ページ

次のリンクを使用し、次の Discoverer Viewer のフォーマット・ページに関する情報が含まれるヘルプ・ページを表示します。

- [「条件付フォーマット \(テーブル / クロス集計\)」ページ](#)
- [「条件付セル・フォーマットの作成」ページ](#)
- [「ストップライト・フォーマットの作成」ページ](#)
- [「セルのフォーマット」ページ](#)

「ログアウト」ページ

ワークシートで「終了」をクリックしてログアウトし、セッションが閉じられると、このページが表示されます。

再度ログインするには、ここをクリックしてください。

このリンクを使用し、Discoverer に再接続するための「OracleBI Discoverer に接続」ページを表示します。

「複合ソート」ページ

このページを使用し、ワークシート列に表示されるデータのソート方法を指定できます。

第1ソート、第2ソート、第3ソート

これらの行により、表示データにソートが適用される優先順位が決定します。

列ヘッダー

このドロップダウン・リストを使用し、ソート基準の列を選択します。

ソート順序

このドロップダウン・リストを使用し、列値が表示される順序を決定する値を選択します。

選択した「列ヘッダー」のデータ型が数値または英数字のどちらであるかにより、このドロップダウン・リストに表示される値は次のように異なります。

- 昇順または降順
列のデータ型が数値（Profit Sum、Year など）の場合、これら2つのソート・オプション値が表示されます。
- ソート順序なし
このソート・オプションは、すべての列のデータ型（数値データと英数字データの両方）に対して表示されます。
- A-ZまたはZ-A
列のデータ型が英数字（Region、City など）の場合、これら2つのソート・オプション値が表示されます。

ソート・タイプ

このドロップダウン・リストを使用し、グループ単位でソートされた「列ヘッダー」データを表示するかどうかを決定する値を選択します。たとえば、このドロップダウン・リストから「グループ」を選択したときに、「列ヘッダー」ドロップダウン・リストで「部門名」が選択されていた場合、部門名別にグループ化されたデータが表示されます。

注意：「グループ」値を適用できるのは、「第1ソート」行のドロップダウン・リストで「グループ」を選択した場合のみです。

ドロップダウン・リストには、次の値が表示されます。

- 標準
選択した「列ヘッダー」別にソートされたデータが表示されます。
- グループ
「列ヘッダー」で選択した値に基づいて、データがグループ単位で表示されます。

列の非表示

このチェック・ボックスを使用すると選択した値に基づいてテーブルがソートされますが、この列のデータは表示しません。

「PDF が用意できています」 ページ

このページは、ワークシートの Portable Document Format (PDF) の生成が完了したことを示します。

このページのリンクを使用し、ワークシート全体の PDF を表示します。PDF は、「[印刷可能ページ・オプション](#)」 ページ: 「[内容](#)」 タブおよび「[印刷可能ページ・オプション](#)」 ページ: 「[ページ設定](#)」 タブで指定したオプションを使用して生成されます。ワークシートの印刷可能な PDF を使用し、PDF ファイルとして表示、印刷または保存できます。

詳細は、次を参照してください。

- [印刷前のワークシートのプレビュー方法](#)
- [ワークシートの印刷方法](#)

クリックして表示または保存

このリンクを使用し、ワークシートの印刷可能な PDF を表示します。

ワークシートの印刷可能な PDF を表示する場合、PDF ファイルとして印刷したりコピーを保存できます。

ワークシートに戻る

このボタンを使用して「PDF が用意できています」 ページを閉じ、現行ワークシートを表示します。

「PDF サンプルが用意できています」 ページ

このページは、ワークシートの最初の 50 行について Portable Document Format (PDF) の生成が完了したことを示します。このプレビュー PDF 出力を使用し、指定した設定に従って予想どおりに出力が生成されたことを確認できます。

このページのリンクを使用し、(ワークシートの最初の 50 行のデータに基づいて) ワークシートのプレビュー版 PDF を表示します。プレビュー版 PDF は、「印刷可能ページ・オプション」ページ: 「内容」タブおよび「印刷可能ページ・オプション」ページ: 「ページ設定」タブで指定したオプションを使用して生成されます。ワークシートのプレビュー版 PDF を使用し、PDF ファイルとして表示、印刷または保存できます。

詳細は、次を参照してください。

- [印刷前のワークシートのプレビュー方法](#)
- [ワークシートの印刷方法](#)

PDF を開いてサンプルを表示

このリンクを使用し、ワークシートのプレビュー版 PDF を表示します。

ワークシートのプレビュー版 PDF を表示する場合、PDF ファイルとして印刷したりコピーを保存できます。

印刷可能 PDF

このボタンを使用し、ワークシート全体の印刷可能な PDF を生成および表示します。

「プリファレンス」 ページ

このページを使用し、Discoverer Viewer に次の設定を指定します。

- [クエリー管理](#)
- [メジャー単位](#)
- [サマリー・データ](#)
- [ファントラップ検出](#)

クエリー管理

「クエリー管理」プリファレンスを使用すると、クエリーが完了するまでに要する時間に制限を設定できます。これらのプリファレンスを使用し、クエリーが実行されるまで待機する時間を制限します。これらのプリファレンスにより、データベースから取り出されるデータに時間およびサイズの制限を設定します。

設定時間を超えると予測されるクエリーを警告

このオプションを選択し、予測されるクエリーの完了時間がここで指定する秒数を超える場合はメッセージを表示します。

設定時間でクエリーを中断

このオプションを選択し、クエリーの実行時間がここで指定した時間を超える場合はクエリーを取り消します。クエリーの実行時間がここで指定した時間を超えたことを示すメッセージが表示され、クエリーが取り消されます。クエリーの実行時間が長いとサーバーのパフォーマンスに影響する可能性がある場合は、このオプションを選択します。

取り出し可能件数の上限を設定

このオプションにより、クエリーで取り出される最大行数を設定します。クエリーに必要な行数以上の行がデータベースに含まれる場合、一部のデータが取り出されないため、表示されたデータは完全ではないことを示すメッセージが表示されます。

データを取り出すときの単位

多くの行があって取出しに時間のかかるほどの大きなテーブルがデータベースに含まれる場合は、このオプションを選択します。すべてのデータが一度に取り出されるのではなく、ここで設定したエントリに基づく単位でデータ行が取り出されます。1 グループとして取り出す行数が少ないほど、初回の取出し処理が速くなります。デフォルトのデータ・グループのサイズは 100 行です。これは、1 ページ 10 行のデータが 10 ページ分です。1 ページ当たりの行数は、[ワークシートの表示ページ](#)で設定できます。

設定時間で値リストの検索を中止する

このフィールドを使用し、値リストの値の取出しを待機する最大時間を定義します。

メジャー単位

PDF メジャー単位

このドロップダウン・リストを使用し、PDF ファイルの表示単位（インチ、cm など）を選択します。

軸ラベル

軸ラベルの表示

ドロップダウン・リストを使用し、軸ラベル（「常時」、「使用しない」、「ワークシート」）を表示するかどうかを選択します。

- 常時

軸ラベルは常に、開かれた後はクロス集計ワークシートに表示されます。保存されているワークシート値は上書きされます。

- 使用しない

軸ラベルは、開かれた後はクロス集計ワークシートで非表示になります。保存されているワークシート値は上書きされます。

- ワークシート

軸ラベルは、最後の保存された方法に応じて表示または非表示になります。

サマリー・データ

サマリー・データを使用し、最も頻繁に行う作業のデータをより速くロードします。ワークシートのデータをリクエストすると、Discoverer マネージャによって設定されたサマリー・テーブルが最初にチェックされ、保存されているデータがリクエストを満たすかどうかを確認され、満たす場合は適切なデータが即時にロードされます。サマリー・テーブルのデータがリクエストを満たさない場合は、リクエストはデータベースの残りの部分にリダイレクトされ、データベースのデータを使用してクエリーが実行されます。

ここで使用可能なプリファレンスは、データベースがマテリアライズド・ビューをサポートしているかどうかによって異なります。

マテリアライズド・ビューをサポートしているデータベースの場合は、次のオプションを使用できます。

可能な場合、常に使用する

データ分析上、時間に依存するデータが重要ではない場合、このオプションを選択します。データが現行のものであるかどうかにかかわらず、マテリアライズド・ビューに保存されているデータが取り出され、表示されます。

サマリー・データが有効期限内の場合に使用する

時間に依存するデータがワークシートに必要な場合、このオプションを選択します。マテリアライズド・ビューのデータの有効期限が切れている場合、クエリー・リクエストを満たすためにマテリアライズド・ビューが使用されることはありません。かわりに、クエリー・リクエストは全データベースにリダイレクトされ、ワークシートには最新のデータが使用されます。

使用しない

常にサマリー・テーブルを無視して最新データを使用するように指定する場合、このオプションを選択します。

警告: 通常データベース内の最新のデータを使用して作業している場合は、サマリー・テーブルを使用しないでください。サマリー・テーブルに保存したデータは、新しいデータを使用して更新されるまで変更されません。サマリー・テーブルは定期的に更新して新しいデータを取り込む必要があります。データベース管理者は、最も頻繁に使用されるデータのタイプおよびクエリーのタイプに基づいてサマリー・テーブルを作成します。通常、サマリー・テーブルは、データの集計および表示に時間がかかるクエリーに使用されます。データの集計および結合に時間がかからないその他のクエリーの場合、サマリー・テーブルは必要ない可能性があります。サマリー・テーブルを使用する場合は、データベース管理者に連絡してください。

ファントラップ検出

2つのフォルダ内のデータ・アイテムが（たとえば顧客 ID など）直接は関係ないが、第3のフォルダ内のデータ・アイテムに基づいて関係している場合、ファントラップが発生します。

潜在的なファントラップ・クエリーが検出されると複数の SQL 文に解決され、通常予想される結果が取得されます。ファントラップを解決できない場合、ワークシートの実行が阻止され、警告メッセージ・ダイアログが表示されます。

ファントラップ検出を無効にしても、潜在的なファントラップ構成は検出され、正しい SQL を生成して正しいワークシート・データを表示することにより、これらは解決されます。ファントラップを解決できない場合、ワークシート・データが表示され、警告メッセージ・ダイアログは表示されません。ファントラップ検出を無効にした結果、解決不可能なファントラップ構成に基づいてクエリーが行われ、潜在的に誤った結果が生成される可能性があります。

ファントラップの詳細は、『Oracle Business Intelligence Discoverer Plus ユーザーズ・ガイド』を参照してください。

ファントラップ検出を有効にする。

このチェック・ボックスを使用し、ファントラップ検出を有効にします。

「印刷可能ページ・オプション」 ページ: 「内容」 タブ

このページを使用し、現行ワークシートの Portable Document Format (PDF) を生成するためのコンテンツ・オプションを選択します。

また、このページを使用してプレビュー版 PDF (最初の 50 行のデータ) を確認したり、ワークシート全体の印刷可能な PDF を生成できます。PDF が作成されると、「PDF が用意できています」 ページまたは「PDF サンプルが用意できています」 ページが表示され、PDF ファイルを表示、保存または印刷できるようになります。

詳細は、次を参照してください。

- [印刷前のワークシートのプレビュー方法](#)
- [ワークシートの印刷方法](#)

一般オプション

これらのオプションを使用し、ワークシート全体に適用される一般設定を指定します。

ページ・アイテム

これらのラジオ・ボタンを使用し、複数のデータ・ページが表示されたときにページ・アイテムを選択する方法を指定します。

- **現在選択しているページ・アイテムを印刷**
このラジオ・ボタンを使用し、現在表示されているページ・アイテムの PDF を生成します。
- **ページ・アイテムのすべての組合せを印刷**
このラジオ・ボタンを使用し、ページ・アイテムのすべての組合せの PDF を生成します。
注意: このラジオ・ボタンと「[グラフの印刷](#)」チェック・ボックスの両方を選択した場合、ページ・アイテムの組合せごとに異なるグラフが表示されます。

ページ・アイテムの表示

これらのラジオ・ボタンを使用し、複数のデータ・ページが表示されたときにページ・アイテムを印刷する方法を指定します。

- **先頭ページ**
このラジオ・ボタンを使用し、先頭ページのページ・アイテムのみを印刷します。
- **使用しない**
このラジオ・ボタンを使用すると、どのページのページ・アイテムも印刷されません。

タイトルの表示

これらのラジオ・ボタンを使用し、ワークシート・タイトルを印刷する方法を指定します。

- **先頭ページ**
このラジオ・ボタンを使用し、先頭ページのワークシート・タイトルのみを印刷します。
- **使用しない**
このラジオ・ボタンを使用すると、どのページのワークシート・タイトルも印刷されません。

データ

これらのラジオ・ボタンを使用し、ワークシート・データを印刷する方法を指定します。

■ すべての行と列を印刷

このラジオ・ボタンを使用し、すべてのデータ（現在表示されていないデータも含みます）を印刷します。

■ クロス集計やテーブルに表示される行と列のみを印刷します。

このラジオ・ボタンを使用し、現在ウィンドウに表示されているデータのみを印刷します（現在、行 50～75 と列 10～15 が表示されている場合、これらの行と列のみが印刷されます）。

次の設定を使用し、ワークシート全体に適用される一般オプションを指定します。

■ ヘッダーの印刷

このチェック・ボックスを使用し、ヘッダーを印刷するかどうかを指定します。

■ フッターの印刷

このチェック・ボックスを使用し、フッターを印刷するかどうかを指定します。

テーブル・オプション/クロス集計オプション

これらのオプションを使用し、ワークシート全体に適用されるテーブル設定またはクロス集計設定を指定します。

■ テーブルの印刷/クロス集計の印刷

このチェック・ボックスを使用し、テーブルまたはクロス集計を印刷するかどうかを指定します。

■ 各ページでヘッダー・セルを繰り返す

このチェック・ボックスを使用し、各ページ・ブレイクでヘッダー・セルを繰り返して印刷するかどうかを指定します。

グラフ・オプション

これらのオプションを使用し、ワークシートに適用されるグラフ設定を指定します。グラフが存在する場合、これらのオプションのみが表示されます。

■ グラフの印刷

このチェック・ボックスを使用し、グラフを印刷するかどうかを指定します。

■ グラデーションを印刷

このチェック・ボックスを選択し、グラデーションを使用してグラフを印刷するかどうかを指定します。グラデーションとは、ワークシート内の任意の領域に発生する色調の変化です。

ヒント: この設定を使用するのは、高画質プリンタの場合のみにしてください。高画質プリンタの場合は、グラデーションが用紙に、より鮮明に印刷されます。

グラデーションを使用しないでグラフを印刷する場合は、このチェック・ボックスの選択を解除します。

グラフのサイズ

グラフの印刷を指定する場合、次のいずれかのコントロールを選択してグラフのサイズを指定します。

- **実サイズ**

このラジオ・ボタンを使用し、現在 Discoverer Viewer に指定されている高さで幅でグラフを印刷します。

- **指定サイズ**

このラジオ・ボタンを使用し、指定する高さで幅でグラフを印刷します。

- **幅**

このフィールドを使用し、グラフの幅を変更します。

- **高さ**

このフィールドを使用し、グラフの高さを変更します。

注意: グラフの印刷に使用されるデフォルトの単位 (cm、インチなど) は、Discoverer マネージャによって設定されています (詳細は、『Oracle Business Intelligence Discoverer 構成ガイド』を参照してください)。

プレビュー・サンプル

このボタンを使用し、(ワークシートの最初の 50 行のデータに基づいて) プレビュー版 PDF ファイルを生成します。プレビュー版 PDF ファイルを表示し、このページで指定した設定に従って予想どおりに出力が生成されたことを確認できます。プレビュー版 PDF ファイルが作成されると、「PDF サンプルが用意できています」ページが表示され、ファイルを表示、保存または印刷できるようになります。

印刷可能 PDF

このボタンを使用し、PDF ファイルを生成します。PDF ファイルが作成されると、「PDF が用意できています」ページが表示され、ファイルを表示、保存または印刷できるようになります。

注意: まれに、特定の状況下では、行数が少ない場合でも列数が多いと、ワークシートの印刷時にメモリーがさらに必要になる場合があります。この問題を回避するには、列軸と行軸の値を入れ替えて印刷を再試行するか、『Oracle Business Intelligence Discoverer 構成ガイド』で説明しているように、OC4J_BI_Forms JVM プロセス用にメモリーを増設します。ワークシート・レイアウトの変更方法の詳細は、「ワークシートのレイアウトの変更方法」を参照してください。

「印刷可能ページ・オプション」 ページ: 「ページ設定」 タブ

このページを使用し、現行ワークシートの Portable Document Format (PDF) を生成するためのサイズ指定オプションを選択します。

また、このページを使用し、プレビュー版 PDF (最初の 50 行のデータ) をプレビューしたり、ワークシート全体の印刷可能な PDF を生成できます。PDF が生成されると、「PDF が用意できています」 ページまたは「PDF サンプルが用意できています」 ページが表示され、PDF ファイルを表示、保存または印刷できるようになります。

詳細は、次を参照してください。

- [印刷前のワークシートのプレビュー方法](#)
- [ワークシートの印刷方法](#)

用紙設定

これらの設定を使用し、印刷に使用する PDF の用紙サイズおよびページの向きを指定します。

■ サイズ

このドロップダウン・リストを使用し、選択可能な用紙サイズのリストから用紙サイズを選択します。

ここで指定する用紙サイズは、生成されるワークシートのプレビューまたは印刷可能な PDF に反映されます。後でワークシートの PDF を表示する場合、PDF で表示したときと同じように表示されます。

注意: ここに表示される選択可能な用紙サイズのリストは、Discoverer マネージャによって設定されています。

向き

これらのラジオ・ボタンを使用し、印刷に使用する PDF の向きを指定します。

■ 縦

このラジオ・ボタンを使用し、印刷の向きを縦に指定します。

■ 横

このラジオ・ボタンを使用し、印刷の向きを横に指定します。

マージン

これらのフィールドを使用し、印刷に使用する PDF の用紙マージンのサイズを指定します。用紙マージンにより、ワークシート・データにデータが印刷される領域を囲む枠線の幅を定義します。ページのマージンを狭くすると、データが印刷される領域が広くなり、各ページにより多くのデータを表示できるようになります。

■ 上

このフィールドを使用し、上マージンのサイズを指定します。

■ 下

このフィールドを使用し、下マージンのサイズを指定します。

■ 左

このフィールドを使用し、左マージンのサイズを指定します。

■ 右

このフィールドを使用し、右マージンのサイズを指定します。

注意: ワークシートの印刷に使用されるデフォルトの単位 (cm、インチなど) は、Discoverer マネージャによって設定されています。

スケール

このドロップダウン・リストを使用し、印刷に使用する PDF について、元のサイズに対するワークシートのサイズの変更率を選択します。たとえば、サイズの大きいワークシートを 1 ページに収める場合、このコントロールを使用してこのワークシートを小さくします。

グラフと列のサイズを指定（「印刷可能ページ・オプション」ページ:「内容」タブおよびこのページ上）すると、スケールが有効になります。たとえば、元のグラフのサイズが 4cm × 6cm と指定されているときにグラフのサイズを 2cm × 3cm にするには、リストから「50%」を選択し、グラフのサイズを元のサイズの 50% に縮小します。

列の幅

これらの設定を使用し、印刷に使用する PDF について、ワークシートの列の幅を変更したり、テキストが指定されている幅を超えたときにワードラップするかどうかを指定します。

■ 列の幅（ピクセルなど）

各フィールドを使用して数値を入力し、該当する列の幅を変更します。

列の幅のデフォルト値は、次のように表示されます。

列の幅が Discoverer Plus で指定されている場合、その幅がここに表示されます。

Discoverer Plus で列の幅が指定されていない場合、最初の数百行のデータに基づいてデフォルトの幅が計算されます。

■ サイズが列の幅を超えた場合は常にワードラップする

このチェック・ボックスを選択すると、テキストが列の幅を超えたときにワードラップします。このチェック・ボックスのデフォルト値が選択されます。

テキストが列の幅を超えたときにワードラップしない場合は、このチェック・ボックスの選択を解除します。

注意: このチェック・ボックスの選択を解除した場合、テキストが列の幅を超えると、テキストは切り捨てられます。

プレビュー

このボタンを使用し、(ワークシートの最初の 50 行のデータに基づいて) プレビュー版 PDF ファイルを生成します。プレビュー版 PDF ファイルを表示し、このページで指定した設定に従って予想どおりに出力が生成されたことを確認できます。プレビュー版 PDF ファイルが作成されると、「PDF サンプルが用意できています」ページが表示され、プレビュー版 PDF ファイルを表示、保存または印刷できるようになります。

印刷可能 PDF

このボタンを使用し、PDF ファイルを生成します。PDF ファイルが作成されると、「PDF が用意できています」ページが表示され、PDF ファイルを表示、保存または印刷できるようになります。

注意: まれに、特定の状況下では、行数が少ない場合でも列数が多いと、ワークシートの印刷時にメモリーがさらに必要になる場合があります。この問題を回避するには、列軸と行軸の値を入れ替えて印刷を再試行するか、『Oracle Business Intelligence Discoverer 構成ガイド』で説明しているように、OC4J_BI_Forms JVM プロセス用にメモリーを増設します。ワークシート・レイアウトの変更方法の詳細は、「ワークシートのレイアウトの変更方法」を参照してください。

「クエリーは取り消されました」 ページ

「クエリーの進行状況」 ページでクエリーを取り消すと、このページが表示されます。このページには、このクエリーが取り消されたことを示すテキスト・メッセージが表示されます。クエリーはこのページで再実行できます。

再実行

このボタンを使用し、クエリーを再実行します。

「クエリーの確認が必要です」ページ

クエリー予測が「[プリファレンス](#)」ページの「設定時間を超えると予測されるクエリーを警告」フィールドに設定されている時間を超えると、このページが表示されます。

今すぐ実行

このボタンを使用し、クエリーをすぐ実行することを確認します。

「クエリーの進行状況」 ページ

クエリーの実行中、「クエリーの進行状況」 ページが表示されます。この間、クエリーの進行状況の表示、クエリーのリフレッシュ、またはクエリーの取消しなどを行うことができます。

注意: OLAP 接続時に作成されたワークシートの場合、このページは表示されません。

クエリーの進行状況インジケータ

クエリーが実行されると、クエリーが進行中でも取り消されてもクエリーの進行状況が表示されます。

- 予測時間: この時間は HH:MM:SS のフォーマットで表示されます。
- 経過時間: この時間は HH:MM:SS のフォーマットで表示されます。

取消

このボタンにより、現在実行中のクエリーを取り消します。

リフレッシュ

このボタンを使用し、クエリーをリフレッシュします。ブラウザが自動的に更新されない場合や、ブラウザが自動的に更新されないよう設定されている場合に、このボタンが必要です。

クエリーの進行状況が表示される場合

クエリーの進行状況は、次の場合に表示されます。

- クエリーが 2 秒間以上実行されている場合
- 新しいクエリーの実行
- クエリーの再実行
- ドリル
- ページ・アイテムの変更
- レイアウトの変更

警告の保存ページ

オープン・ワークシートを変更し（ドリル、ワークシート・オプションの変更、表示可能行および列の変更など）、「終了」、「接続」、「ワークブック」リンクをクリックすると、このページが表示されます。

取消

このボタンを使用してワークシートに戻ります。

いいえ

このボタンを使用してクリックしたリンク（「終了」、「接続」、「ワークブック」など）の処理を完了し、行った変更は保存しません。

はい

このボタンを使用してクリックしたリンク（「終了」、「接続」、「ワークブック」など）の処理を完了し、行った変更を保存します。

「ワークブックに名前を付けて保存」 ページ

ワークシートの表示ページで「別名保存」リンクを使用すると、このページが表示されます。このページを使用し、入力した名前を使用して現在のワークブックおよびそのすべてのワークシートをデータベースに保存できます。

ワークブック名

このフィールドを使用し、現在のワークブックを保存するための名前を入力します。

「検索と選択」 ページ

このページを使用して値リストを検索し、必要な値を選択します。たとえば、値リストが長いパラメータを選択する場合、文字 C から始まる値を選択してから、CPM、CPN および CPO などの値を選択できます。

パラメータの詳細は、次を参照してください。

[「パラメータの編集」 ページ](#)

検索範囲

このドロップダウン・リストを使用して（選択可能な場合）、索引番号付きまたはなしのパラメータ値を表示および選択するかどうかを指定します（詳細は、「[パラメータでの索引および値の使用](#)」を参照してください）。

注意：< 索引および値 > ドロップダウン・リストをここに表示するかどうかは、Discoverer Plus で決定します（詳細は、『Oracle Business Intelligence Discoverer Plus ユーザーズ・ガイド』を参照してください）。

検索条件

このドロップダウン・リストを使用し、値の一致条件を指定します。たとえば、「次で始まる」を選択して「検索文字列」値に「T」を入力し、文字「T」から始まるアイテムのみを表示します。

検索文字列

このフィールドを使用し、一致条件のテキストを入力します。たとえば、「検索文字列」ドロップダウン・リストで「T」を入力して「次で始まる」を選択し、文字「T」から始まるアイテムのみを表示します。

実行

このボタンを使用して指定した検索基準に応じて検索を開始し、一致する値を下部の「使用可能な値」リストに表示します。「検索文字列」フィールドが空であるときに「検索」をクリックすると、リスト内の最初の値グループが表示されます。

大 / 小文字区別

このチェック・ボックスを使用し、検索時に大文字と小文字を正確に区別するかどうかを指定します（たとえば、このチェック・ボックスを選択した場合、New York という検索用語は New York に一致しますが、NEW YORK、new york または new York には一致しません）。

使用可能な値

このリストには、指定した検索基準と一致する値や、ダイアログが最初に表示されたときのデフォルト値が表示されます。このリストを使用し、選択対象の値を選択します。値を選択するには、値を「使用可能な値」リストから「選択した値」リストに移動します。

注意：[Ctrl] キーを押しながら別の値をクリックすると、複数の値を選択できます。

選択した値

このリストを使用し、現在選択されている値を確認します。値の選択を解除するには、値を「選択した値」リストから「使用可能な値」リストに移動します。

前へ

値リストがウィンドウより長い場合、このボタンを使用して前の値セットを表示します。

次へ

値リストがウィンドウより長い場合、このボタンを使用して次の値セットを表示します。

「電子メールの送信」 ページ

このページを使用し、エクスポートしたワークシートを電子メール・メッセージの添付ファイルとして送信します。ワークシートは、「[エクスポート・タイプの選択](#)」 ページで選択したファイル・フォーマットで送信されます。

詳細は、次を参照してください。

[「エクスポートした Excel ファイルを自動的に開くためのクライアント・マシンの構成方法](#)

[「異なるエクスポート・フォーマットの使用について](#)

[「エクスポート・タイプの選択」 ページ](#)

送信者

このフィールドを使用し、送信者の電子メール・アドレスの詳細を入力します。

受信者

このフィールドを使用し、受信者の電子メール・アドレスの詳細を入力します。

CC

このフィールドを使用し、c.c. リストに入れる受信者の電子メール・アドレスの詳細を入力します。

BCC

このフィールドを使用し、b.c.c. リストに入れる非表示受信者の電子メール・アドレスの詳細を入力します。

件名

このフィールドを使用し、電子メール・メッセージの件名行に表示するテキストを入力します。

本文

このフィールドを使用し、電子メール・メッセージのテキストを入力します。

添付ファイルの表示

このフィールドを使用し、「[エクスポート・タイプの選択](#)」 ページで指定したエクスポート・フォーマットでワークシートの詳細を表示します。

終了

このボタンを使用し、指定した受信者に電子メール・メッセージを送信します。

「テーブル・レイアウト/クロス集計レイアウト」ページ

ワークシートの上にある「レイアウト」および「詳細」リンクをクリックすると、このページが表示されます。

このページでは、レイアウト・ツールまたは矢印アイコンを使用して、テーブルまたはクロス集計上のアイテムを並べ替えることができます。また、このページを使用して、ページ・アイテムの表示または非表示を指定することもできます。

レイアウト

レイアウト・ツールでは、ドロップダウン・リストを使用してテーブルまたはクロス集計のアイテムを並べ替えることができます。

ドロップダウン・リストを使用して、選択したテーブルまたはクロス集計のアイテムを移動するかどうか、アイテムを入れ替えるかどうか、また移動や入替えを行うアイテムとその場所を決定する値を選択します。満足できるテーブルまたはクロス集計のレイアウトになるまで、ドロップダウン・リストを使用してテーブルまたはクロス集計のアイテムの移動または入替えを続けることができます。

このページでドロップダウン・リストを使用する方法の詳細は、[ワークシートの表示ページ：\(テーブル/クロス集計ツール\)](#)の「レイアウト」の説明を参照してください。

ページ・アイテムの表示

このチェック・ボックスを使用し、ワークシートのページ・アイテムの表示または非表示を選択します。

< 矢印アイコン >

矢印アイコンは、ワークシート・アイテムを並べ替える追加方法として使用します。

矢印アイコンは、テーブルまたはクロス集計のレイアウトを変更したときのワークシートのページ・アイテム、列ヘッダーおよび行の相対的な位置を示すサンプル・レイアウトに表示されます。

矢印アイコンを使用し、次の処理を行います（テーブルとクロス集計の両方）。

- ページ・アイテムを列に移動
- 列をページ・アイテムに移動
- 列を右または左の列に移動

矢印アイコンを使用し、次の処理を行います（クロス集計のみ）。

- ページ・アイテムを行に移動
- ページ・アイテムを列に移動
- メジャー（Profit Sum、Cost など）をページ・アイテムに移動
- メジャー（Profit Sum など）を行に移動
- メジャー（Profit Sum など）を下の列に移動
- 列を行に移動
- 列を上の列に移動
- 列を下の列に移動

テーブルまたはクロス集計のレイアウトに満足したら「適用」をクリックし、指定した設定を使用してテーブルまたはクロス集計を表示します。

ワークシートの表示ページ

このページには、ワークシート・データが表示されます。

このページを使用し、ワークシート・データおよびグラフを処理します（ワークシートおよびグラフの保存、印刷、エクスポートおよび電子メール送付、レイアウトの変更、フォーマットの適用など）。また、このページを使用して、現在のワークブックから表示するその他のワークシートを選択することもできます。

詳細は、次を参照してください。

- [ワークシートのレイアウトの変更方法](#)
- [ワークシートでのアイテムおよびメジャーのソート方法](#)
- [「テーブル・レイアウト / クロス集計レイアウト」ページ](#)

このページに表示されるリンク、ツールおよびコントロールの詳細は、次のリンクを参照してください。

ワークシートの表示ページ：（「操作」および「ワークシート」リンク）

- [操作](#)
- [ワークシート](#)

ワークシートの表示ページ：（ページ・レベルのツールおよびコントロール）

- [<表示 / 非表示矢印アイコン>](#)
- [<パラメータ・ツール>](#)
- [ページ・アイテム](#)
- [<ドリル矢印アイコン>](#)

ワークシートの表示ページ：（テーブル / クロス集計ツール）

- [テーブル / クロス集計](#)
- [ツール](#)
- [レイアウト](#)
- [フォーマット](#)
- [ストップライト](#)
- [ソート](#)
- [保存済選択](#)
- [行と列](#)

ワークシートの表示ページ：（グラフ・ツール）

- [グラフ](#)
- [ツール](#)
- [レイアウト](#)
- [ソート](#)
- [グラフ](#)
- [保存済選択](#)
- [データ](#)

ワークシートの表示ページ：（「操作」および「ワークシート」リンク）

各ワークシート・ページには、次のリンクが表示されます。

- [操作](#)
- [ワークシート](#)

操作

次のリンクを使用し、現行ワークシートで操作を実行します。

- **クエリーの再実行**

このリンクを使用してデータベースに対してクエリーを実行し、現行ワークシートのデータを表示します。この操作を実行しても、まだ保存されていないワークシートに対して行った変更は元に戻されません。

注意：OLAP 接続を使用して作成されたワークシートの場合、このリンクは表示されません。OLAP 接続を使用して作成されたワークシートのデータベースに対してクエリーを実行する場合は、ワークシートを再度開く必要があります。

- **保存**

このリンクを使用し、現行ワークシートをデータベースに保存します。このリンクが表示されるのは、ワークシートを所有している場合のみです。

- **別名保存**

このリンクを使用し、現行ワークシートを別の名前でデータベースに保存します。

- **保存されている内容に戻す**

このリンクを使用してデータベースにクエリーを実行し、ワークシートが最後にデータベースに保存された後で行われたワークシートに対するすべての変更を元に戻します。たとえば、ワークシートをドリルしてからセル・フォーマットを適用した場合は、「保存されている内容に戻す」リンクを使用すると、これら両方の変更が元に戻されます。

- **印刷可能ページ**

このリンクを使用し、「[印刷可能ページ・オプション](#)」ページ：「[内容](#)」タブを表示します。このタブでは、適切な印刷オプションを設定し、印刷する現行ワークシートの PDF 版を生成およびプレビューできます。

- **エクスポート**

このリンクを使用し、その他のアプリケーションを使用して開くユーザーに現行ワークシートをエクスポートします。様々なフォーマットを使用できます。

詳細は、「[エクスポート・タイプの選択](#)」ページを参照してください。

- **電子メールで送信**

このリンクを使用し、指定したフォーマットで現行ワークシートをエクスポートし、指定した受信者に添付ファイルとして送信することによって、現行ワークシートを電子メールとして送信します。

詳細は、「[添付タイプの選択（電子メール添付ファイルで送信）](#)」を参照してください。

- **レイアウトのリンク**

このリンクを使用し、グラフのレイアウトをクロス集計にリンクします。たとえば、このリンクを選択すると、その後にクロス集計に対して行ったレイアウト変更をグラフに表示できます。

注意：このリンクが表示されるのは、OLAP 接続を使用して作成されたワークシートの場合のみです。

- **レイアウトのリンク解除**

このリンクを使用し、グラフのレイアウトとクロス集計のリンクを解除します。たとえば、このリンクを選択すると、その後にクロス集計に対して行ったレイアウト変更はグラフに表示されません。

注意：このリンクが表示されるのは、OLAP 接続を使用して作成されたワークシートの場合のみです。

- **ワークシート・オプション**

このリンクを使用し、「[ワークシート・オプション](#)」ページを表示します。このページでは、ワークシートで使用するオプションを表示できます。たとえば、ワークシート・タイトルの表示または非表示のオプションがあります。

ワークシート

これらのリンクを使用し、現在のワークブックから別のワークシートを表示します。

ワークシートの表示ページ：（グラフ・ツール）

ワークシートでは、次のグラフ・ツールを使用できます。

- グラフ
- ツール
- レイアウト
- ソート
- グラフ
- 保存済選択
- データ

グラフ

この矢印アイコンを使用し、ワークシートのグラフ・データの表示または非表示を選択します。

ツール

この矢印アイコンを使用し、ワークシートのグラフ・ツールの表示または非表示を選択します。

レイアウト

このツールを使用し、ワークシートのグラフ・データのレイアウトを並べ替えます。

注意：このオプションが表示されるのは、OLAP 接続を使用して作成されたワークシートのみです。

ドロップダウン・リストを使用し、次の操作を行います。

- ワークシート上で指定した位置にワークシート・アイテムを移動
最初のドロップダウン・リストで「**移動**」オプションを使用し、2つ目のドロップダウン・リストから移動するアイテムを選択し、3つ目のドロップダウン・リストを使用してアイテムの移動先の位置を選択します。
- ワークシートのアイテム、行、列またはページ・アイテムを互いに入替え
最初のドロップダウン・リストで「**入替え**」オプションを使用し、2つ目のドロップダウン・リストからワークシートのアイテム、行、列またはページ・アイテムを選択し、3つ目のドロップダウン・リストから入れ替えるオプションを選択します。

ソート

このツールを使用し、ワークシートで選択した基準に基づいてグラフ・データをソートします。ここで行った変更は、「テーブル / クロス集計」ソート・ツールによって行われた変更には影響しません。

注意：このオプションが表示されるのは、OLAP 接続を使用して作成されたワークシートのみです。

- ソート
このドロップダウン・リストを使用し、ワークシート・データのソートに使用する値を選択します。
- 基準
このドロップダウン・リストを使用し、「**ソート**」ドロップダウン・リストで選択した値のソート順序の基準となるアイテムまたはメジャーを選択します。

- **対象**

このドロップダウン・リストを使用し、メジャー値に基づいてソートを行うときに使用するディメンション・メンバーを指定します。

注意：このオプションが表示されるのは、OLAP 接続を使用して作成されたワークシートのみです。

- **順序**

このドロップダウン・リストを使用し、「ソート」ドロップダウン・リストで選択した値のソート順序を選択します。

- **実行**

このボタンを使用し、現行ワークシートのソート設定を適用します。

- **詳細**

このリンクを使用し、「[複合ソート](#)」ページを表示します。このページでは、複数のワークシート列に表示されるデータのソート方法を指定できます。

注意：OLAP 接続を使用して作成されたワークシートの場合、このリンクは表示されません。

グラフ

このツールを使用して次のように、グラフ・タイプを選択してグラフの表示方法を指定します。

- **タイプ**

最初のドロップダウン・リストを使用し、グラフのタイプ（「円」など）を選択します。

2つ目のドロップダウン・リストを使用し、グラフのサブタイプ（「複数円」など）を選択します。

- **幅**

このフィールドを使用し、グラフの表示幅を変更します。幅を変更すると、高さとの縦横比が維持されるようにグラフの高さが調整されます。

- **3D 効果**

このチェック・ボックスを使用し、グラフの奥行きを表します。

- **グラデーション**

このチェック・ボックスを使用し、グラデーションのかかった陰影効果を使用してグラフを表示します。

保存済選択

このツールを使用し、前に保存した選択をワークシートのグラフに表示されているディメンションに適用します。

注意：このツールが表示されるのは、OLAP 接続を使用して作成されたワークシートのみです。

- **ディメンション**

このドロップダウン・リストを使用し、保存済選択を適用するディメンションを選択します。

- **操作**

このドロップダウン・リストを使用し、次のように、指定した保存済選択のメンバーを追加、保持、削除または置換するかどうかを指定します。

- **追加**

指定した保存済選択のメンバーを現在の選択に追加します。

- 保持
現在の選択内にすでに存在している保存済選択のメンバーを指定して保持し、その他すべてのメンバーを破棄します。
- 削除
保存済選択に指定したメンバーを現在の選択から削除します。
- 置換 (デフォルト値)
現在の選択を指定した保存済選択の新しいメンバーと置換します。

- **保存済選択**

このドロップダウン・リストを使用し、使用する保存済選択を選択します。

- **実行**

このボタンを使用し、保存済選択をワークシートのディメンションに適用します。

データ

このツールを使用し、ワークシートのすべてのデータか、現在表示されている行および列のみをグラフに含めます。

注意：このオプションが表示されるのは、OLAP 接続を使用して作成されたワークシートのみです。

- **すべてのデータ**

このラジオ・ボタンを使用し、すべてのワークシート・データをグラフに含めます。

- **表示データ**

このラジオ・ボタンを使用し、現在ワークシートに表示されている行および列のワークシート・データのみをグラフに含めます。たとえば、行 50 ~ 75 および列 10 ~ 15 が現在表示されている場合、これらの現在表示されている行および列のデータのみが表示されます。

- **実行**

このボタンを使用し、現行ワークシートのグラフに設定を適用します。

ワークシートの表示ページ：（ページ・レベルのツールおよびコントロール）

ワークシート・ページでは、次のコントロールおよびツールを使用できます。

- [<表示 / 非表示矢印アイコン>](#)
- [<パラメータ・ツール>](#)
- [ページ・アイテム](#)
- [<ドリル矢印アイコン>](#)

<表示 / 非表示矢印アイコン>

表示 / 非表示矢印アイコンを使用し、現行ワークシートの情報の表示または非表示を選択します。たとえば、「クロス集計」の横にある矢印をクリックし、クロス集計の表示または非表示を選択します。詳細は、「[ワークシートの表示ページ：（テーブル / クロス集計ツール）](#)」を参照してください。

<パラメータ・ツール>

ワークシートにパラメータが使用されている場合、次のコントロールを使用できます。

- **パラメータ**
この矢印アイコンを使用し、現在のパラメータ値の表示または非表示を選択します。
- **<懐中電灯のアイコン>**
懐中電灯のアイコンを使用し、「[検索と選択](#)」ページを表示します。このページでは、ワークシートに適用するパラメータ値を検索および選択できます。詳細は、「[パラメータの編集](#)」ページを参照してください。「**実行**」をクリックし、変更を適用します。

ページ・アイテム

ワークシート・データの各ビュー（クロス集計、グラフなど）の上部には、ページ・アイテム・セレクタが表示されます。ページ・アイテム・セレクタを使用し、ワークシート全体に適用するアイテムを選択できます（たとえば、「ページ・アイテム」リストに部門が表示されている場合は、リストから部門を選択し、選択した部門のデータを表示します）。

ドロップダウン・リストを使用し、ワークシートに適用するページ・アイテム値を選択します。

「上へ/下へ」リンク

1 ページに表示可能なデータ以上の行が戻された場合、これらのリンクを使用して複数のワークシート・ページを表示します。

ドロップダウン・リストを使用し、後続のワークシート行の表示方法を決定する値を選択します。たとえば、「**3 行**」を選択した場合、次の 3 行のデータが表示されます。

「左/右」リンク

1 ページに表示可能なデータ以上の列が戻された場合、これらのリンクを使用し、複数のワークシート・ページを表示します。

ドロップダウン・リストを使用し、後続のワークシート列を表示する方法を決定する値を選択します。たとえば、「**3 列**」を選択した場合、次の 3 列のデータが表示されます。

< ドリル矢印アイコン >

Discoverer Viewer では、アイテムをドリルし、追加データを表示できます。

ドリル矢印アイコンを使用し、次のように関連および OLAP 接続を使用するときに下位または上位レベルの詳細を表示します。

- リレーショナル・データソースへの接続を使用する場合、ドリル矢印アイコンを使用してポップアップ・ドリル・メニューを表示し、次のドリル・オプションの 1 つを選択できます。
 - 閉じる

このオプションを使用し、ドリル階層のこのレベルで表示されているドリル・アイテムをドリル・アップして非表示にします。また、「閉じる」を使用すると、ドリル階層のこの下位レベルのドリル・アイテムもすべて非表示になります。
 - すべての階層

このポップアップ・メニューを使用し、現在のビジネスエリア（日付階層など）で作成されたすべての階層の他のポップアップ・メニューを表示します。階層を選択してから、ワークシートに表示する階層アイテムを選択します。
 - 関連にドリル

このポップアップ・メニューを使用し、まだワークシートに含まれていない現在のビジネスエリアのフォルダの関連アイテムにドリルします。

マウスを使用していない場合、[Tab] キーを使用してドリル矢印アイコンに移動できます。[Enter] を押すと「ドリル」ページが表示されます。「ドリル」ページを使用してドリル・オプションをレビューし、新しいドリルを適用します。
- OLAP データソースへの接続を使用する場合、次のように、ドリル矢印アイコンを使用してドリル階層をドリル・アップまたはドリル・ダウンし、様々な詳細レベルを表示します。
 - 開く

このオプションを使用してドリル・ダウンし、ドリル階層の次のレベルのデータを表示します。
 - 閉じる

このオプションを使用し、ドリル階層の現行レベルのデータ、およびドリル階層の下位レベルのデータをすべてドリル・アップして非表示にします。

マウスを使用していない場合、[Tab] キーを使用してドリル矢印アイコンに移動できます。[Enter] を押すと、次の条件に応じてデータがドリル・アップまたはドリル・ダウンされます。

 - 現在強調表示されているドリル矢印アイコンが詳細の下位レベルまで開かれていない場合、ドリル階層の次のレベルまでドリル・ダウンしてデータが表示されます。
 - 現在強調表示されているドリル矢印アイコンがドリル階層の下位レベルまですでに開かれている場合、このレベルとその下位レベルのデータがすべて非表示になります。

その他のアプリケーションで作成されたファイルを表示するためのドリル・アウトについて
 データ・セルでドリル・アウトを使用し、その他のアプリケーションで作成されたファイルを表示します。たとえば、MS Word ファイルの記号をクリックすると、ブラウザ内で MS Word が起動し、ファイルが表示されます。

ワークシートの表示ページ：(テーブル/クロス集計ツール)

クエリーを実行すると、ワークシートの作成方法に応じてワークシート・データがテーブルまたはクロス集計として表示されます。

- テーブルでは、アイテムが列に配置されます。アイテムは、上軸に沿って列ヘッダーとして表示されます。通常、テーブルを使用し、クエリー基準を満たすすべての情報（先月の販売取引など）を表示します。

注意：テーブルが表示されるのは、リレーショナル・データが使用されるワークシートのみです。

- クロス集計では、アイテムまたはメジャーが行および列に配置されます。通常、クロス集計を使用してサマリー情報を表示し、アイテムまたはメジャーの相互関連方法（毎月の地域別の売上など）を示します。

注意：クロス集計は、OLAP データとリレーショナル・データの両方が使用されるワークシートに表示できます。

テーブル/クロス集計

この矢印アイコンを使用し、テーブルまたはクロス集計データの表示または非表示を選択します。

ツール

この矢印アイコンを使用し、テーブルまたはクロス集計ツールの表示または非表示を選択します。

Discoverer には、次のテーブル / クロス集計ツールが用意されています。

- レイアウト
- フォーマット
- ストップライト
- ソート
- 保存済選択
- 行と列

レイアウト

このツールを使用し、ワークシート・データのレイアウトを並べ替えます。

ドロップダウン・リストを使用し、次の操作を行います。

- ワークシート上で指定した位置にワークシート・アイテムを移動
最初のドロップダウン・リストで「**移動**」オプションを使用し、2つ目のドロップダウン・リストから移動するアイテムを選択し、3つ目のドロップダウン・リストを使用してアイテムの移動先の位置を選択します。
- ワークシートのアイテム、行、列またはページ・アイテムを互いに入替え
最初のドロップダウン・リストで「**入替え**」オプションを使用し、2つ目のドロップダウン・リストからワークシートのアイテム、行、列またはページ・アイテムを選択し、3つ目のドロップダウン・リストから入れ替えるオプションを選択します。

「**詳細**」リンクを使用し、「**テーブル・レイアウト / クロス集計レイアウト**」ページを表示します。このページでは、ワークシート・データのレイアウトを並べ替えることができます。

フォーマット

このツールを使用し、選択したワークシート・データ・セルのフォーマットを設定します。

- **<太字>、<斜体>および<下線> ボタン**

これらのボタンを使用し、選択したワークシート・セルに太字、斜体および下線フォーマットを適用します。

- **数値**

このフィールドを使用してドロップダウン・リストから数値フォーマットを選択し、ワークシートのデータ（通貨、パーセンテージなど）をフォーマット設定します。

「実行」ボタンを使用し、選択したセルに数値フォーマットを適用します。

- **背景**

このアイコンを使用し、色ピッカーを表示して背景色を選択します。

「実行」ボタンを使用し、選択したセルに背景色を適用します。

- **フォント**

このアイコンを使用し、色ピッカーを表示してフォント色を選択します。

「実行」ボタンを使用し、選択したワークシート・テキストにフォント色を適用します。

- **詳細**

このリンクを使用し、「[セルのフォーマット](#)」ページを表示します。このページでは、選択したクロス集計ワークシート・セルのフォーマット・オプションを指定します。

- **条件付フォーマットの作成**

このリンクを使用し、「[条件付セル・フォーマットの作成](#)」ページを表示します。このページでは、ワークシート値を強調表示するための新規条件付フォーマットを作成できます。

- **条件付フォーマット**

このリンクを使用し、「[条件付フォーマット \(テーブル/クロス集計\)](#)」ページを表示します。このページでは、ワークシートのデータの条件付フォーマットを作成、編集および削除できます。

ストップライト

このツールを使用し、現行ワークシートのデータを分類するためのストップライト・フォーマットを定義します。Discovererでは、データの値に応じてストップライトの3つの色の1つをワークシート・データに適用できます。ストップライトの色は、非許容、許容および望ましい値のデータ範囲を示します。

- **フォーマット**

このフィールドを使用し、ストップライト・フォーマットの適用対象（選択したセル、すべてのワークシート・セルなど）を指定します。

- **非許容**

このフィールドを使用し、ストップライト範囲の非許容を指定する値を入力します。ワークシート・データの値がこの値以下の場合、色ピッカー・アイコンに表示されている色でデータが表示されます。色ピッカー・アイコンに表示されている色を変更するには、色ピッカー・アイコンをクリックし、色パレットから新しい色を選択します。

- **許容**

この範囲は、非許容と望ましい値の間の値として定義されます。ワークシート・データの値がこの範囲内の場合、色ピッカー・アイコンに表示されている色でデータが表示されます。色ピッカー・アイコンに表示されている色を変更するには、色ピッカー・アイコンをクリックし、色パレットから新しい色を選択します。

- **望ましい値**

このフィールドを使用し、ストップライト・フォーマットの望ましい値を指定する値を入力します。ワークシート・データの値がこの値以上の場合、色ピッカー・アイコンに表示されている色でデータが表示されます。色ピッカー・アイコンに表示されている色を変更するには、色ピッカー・アイコンをクリックし、色パレットから新しい色を選択します。

- **実行**

このボタンを使用し、現行ワークシートで指定したデータ値にストップライト設定を適用します。

- **条件付フォーマット**

このリンクを使用し、「[条件付フォーマット \(テーブル/クロス集計\)](#)」ページを表示します。このページでは、ワークシートのデータの条件付フォーマットを作成、編集および削除できます。

ソート

このツールを使用し、ワークシートで選択した基準に基づいてワークシート・データをソートします。

注意：このツールが表示されるのは、テーブル・ワークシートと OLAP 接続を使用して作成されたワークシートです。

- **ソート**

このドロップダウン・リストを使用し、ワークシート・データのソートに使用する値を選択します。

- **基準**

このドロップダウン・リストを使用し、「ソート」ドロップダウン・リストで選択した値のソート順序の基準となるアイテムまたはメジャーを選択します。

注意：このオプションが表示されるのは、OLAP 接続を使用して作成されたワークシートのみです。

- **対象**

このドロップダウン・リストを使用し、メジャー値に基づいてソートを行うときに使用するディメンション・メンバーを指定します。

注意：このオプションが表示されるのは、OLAP 接続を使用して作成されたワークシートのみです。

- **順序**

このドロップダウン・リストを使用し、「ソート」ドロップダウン・リストで選択した値のソート順序を選択します。

- **実行**

このボタンを使用し、現行ワークシートのソート設定を適用します。

- **詳細**

このリンクを使用し、「[複合ソート](#)」ページを表示します。このページでは、複数のワークシート列に表示されるデータのソート方法を指定できます。

注意：OLAP 接続を使用して作成されたワークシートの場合、このリンクは表示されません。

保存済選択

このツールを使用し、前に保存した選択を、ワークシートに表示されているディメンションに適用します。

注意: このツールが表示されるのは、OLAP 接続を使用して作成されたワークシートのみです。

■ ディメンション

このドロップダウン・リストを使用し、保存済選択を適用するディメンションを選択します。

■ 操作

このドロップダウン・リストを使用し、次のように、指定した保存済選択のメンバーを追加、保持、削除または置換するかどうかを指定します。

- 追加

指定した保存済選択のメンバーを現在の選択に追加します。

- 保持

現在の選択内にすでに存在している保存済選択のメンバーを指定して保持し、その他すべてのメンバーを破棄します。

- 削除

保存済選択に指定したメンバーを現在の選択から削除します。

- 置換 (デフォルト値)

現在の選択を指定した保存済選択の新しいメンバーと置換します。

■ 保存済選択

このドロップダウン・リストを使用し、使用する保存済選択を選択します。

■ 実行

このボタンを使用し、保存済選択をワークシートのディメンションに適用します。

行と列

このツールを使用し、各ページに表示する行と列の数を設定します。ここに表示される行と列のデフォルト数を変更できます (詳細は、「[プリファレンス](#)」ページを参照してください)。

■ 行

このフィールドを使用し、1 ページに表示するデータの最大行数を設定します。

■ 列

このフィールドを使用し、1 ページに表示するデータの最大列数を設定します。

■ 実行

このボタンを使用し、現行ワークシートの各ページに表示する行と列の数を適用します。

「ワークシート・リスト」 ページ

このページを使用し、使用可能なワークブックのリストから表示するワークシートを検索および選択できます。ワークブックには、関連データが様々なパースペクティブを使用して結合されている複数のワークシートが含まれます。たとえば、ワークブックに製品 A の販売履歴が表示されるとします。しかし、1つのワークシートは先月の売上を示し、別のワークシートは5年前の同月と比較した売上を示し、また別のワークシートは地域別の売上を示します。これら3つすべてのワークシートには、製品 A に関連する売上が記載されていますが、各ワークシートは異なるパースペクティブを示すように編成されています。

詳細は、次を参照してください。

- [Discoverer ワークシートを開く方法](#)

検索

ワークブックは、使用可能なデータベース・ワークブックか、すでに実行されているスケジュール・ワークブックのリストから選択できます（OLAP 接続の場合、スケジュール・ワークブックは使用できません）。

「**検索**」 ドロップダウン・リストを使用し、使用可能なデータベース・ワークブックまたはスケジュール・ワークブックを表示します。

- データベース・ワークブック

データベースをクエリーして最新のデータが表示され、結果は格納されません。

- スケジュール・ワークブック（OLAP 接続の場合は使用不可）

事前に指定された時間にクエリーが実行され、結果はデータベースに格納されています。

「**検索**」 フィールドを使用し、「結果リスト」に表示するワークブックのリストを変更します。表示するワークブック名と一致する詳細の一部または全体を入力し、「実行」 ボタンをクリックします。「**検索**」 フィールドでは大 / 小文字が区別されます。

注意： *、?、% などのワイルドカードは不要のため、検索では使用しないでください。

結果リスト

この領域に表示されるワークブックのリストには、「**検索**」 フィールドに入力した詳細と一致するワークブック名が含まれます。

すべて開く / すべて閉じる

これらのリンクを使用し、すべてのワークブックおよびワークシート詳細の表示または非表示を選択します。

「開く」 リンクを使用し、ワークブックおよびすべてのワークブックのワークシート詳細を表示します。

「すべて閉じる」 リンクを使用し、ワークブックおよびすべてのワークブックのワークシート詳細を非表示にします。

Discoverer ワークブック

このリンクを使用し、すべての Discoverer ワークブックを表示します。

注意： 特定のワークブックの詳細を表示するために「フォーカス」列のターゲット・アイコンを使用した後にのみ、このリンクが表示されます（詳細は、「フォーカス」の説明を参照してください）。

フォーカス

ターゲット・アイコンを使用し、選択したものを除くすべてのフォルダ / ワークブックの詳細を非表示にします。

名前

この矢印アイコンを使用し、ワークブックおよびワークシート詳細の表示または非表示を選択します。

「名前」列のリンクを使用し、ワークシートを表示します。

説明

この列には、ワークブックの説明が表示されます。

所有者

この列には、ワークブックの所有者の名前が表示されます。

最終変更

この列には、ワークブックが最後に変更された日付が表示されます。

「ワークシート・オプション」ページ

このページを使用し、現行ワークシートに関する設定を変更できます。

表示オプション

タイトル

このチェック・ボックスを使用し、ワークシートのタイトルを表示します。

テーブル/クロス集計

このチェック・ボックスを使用し、ワークシートのテーブルまたはクロス集計データを表示します (Oracle Applications またはリレーショナル・データベース接続の場合に表示)。

このラジオ・ボタンを使用し、クロス集計データを表示します (OLAP 接続を使用して作成されたワークシートの場合に表示)。

グラフ

このチェック・ボックスを使用し、ワークシートのグラフを表示します (Oracle Applications またはリレーショナル・データベース接続の場合に表示)。

このラジオ・ボタンを使用し、ワークシートのグラフを表示します (OLAP 接続を使用して作成されたワークシートの場合に表示)。

両方

このラジオ・ボタンを使用し、ワークシートのグラフおよびクロス集計データを表示します (OLAP 接続の場合にのみ表示)。

テキスト・エリア

このチェック・ボックスを使用し、ワークシートのテキスト・エリアを表示します。

シート・オプション

軸ラベルの表示

このチェック・ボックスを使用し、ワークシートのクロス集計ヘッダー・ラベルを表示します。

NULL 値の表示方法

ワークシートのフィールドにデータが戻されない場合、ここでデータの表示方法を定義できます。たとえば、このフィールドに「Zero」と入力すると、「Zero」という単語が表示されます。この場合、データは戻されません。

集計できない値の表示方法

ワークシートで集計不可能なアイテム (「ランク」など) を集計しようとした場合のデータの表示方法を、ここで定義できます。たとえば、このフィールドに「N/A」と入力しておくと、データが集計できない場合に「N/A」というテキストが表示されます。

索引

D

Discoverer

- 概要, 1-2
- 起動方法, 2-2, 2-3, 2-4
- コンポーネント, 1-2
- パスワードの変更, 2-14
- パスワードの変更方法, 2-14
- 終了方法, 2-9

Discoverer Viewer

- 概要, 1-1
- 使用する理由, 1-3
- 新機能, 1-5

Discoverer Viewer の起動

- 直接接続, 2-7

Discoverer Viewer を使用する理由, 1-3

Discoverer 接続

- EUL の変更, 2-15
- 概要, 2-2
- 削除, 2-13
- 作成, 2-11
- パブリックについて, 2-14
- 編集, 2-13

Discoverer の起動

- 起動方法, 2-2, 2-3, 2-4

Discoverer の終了

- 終了方法, 2-9

Discoverer ポートレット

- パラメータ LOV を使用した Viewer でのワークシート起動時のエラー回避方法, 4-18

E

End User Layer

- 概要, 2-10

EUL

- 概要, 2-10

H

html ワークシート

- エクスポートと電子メールに関する注意, 4-5

あ

アイテム

- フォーマット設定, 3-8

い

印刷

- 多数の列の印刷にさらにメモリーが必要な場合のワークシートに関する回避方法, 4-37

え

エクスポート

- エクスポートした Excel ファイルを自動的に開くためのクライアント・マシンの構成, 3-7

エクスポート・フォーマット

- 異なるエクスポート・フォーマットの使用について, 3-5

き

キューブ

- コンポーネントについて, 1-7

く

グラフ

- Discoverer Viewer で使用, 3-14
- 表示および非表示, 3-15
- 編集, 3-15

- クロス集計ワークシート, 1-7

さ

索引および値

- パラメータでの使用, 3-16

サンプルの PDF

- プレビュー, 3-4

し

条件付フォーマット

- 起動および停止, 3-11
- 削除, 3-14
- 作成, 3-12
- 使用, 3-9
- 編集, 3-13
- 優先順位の変更, 3-11
- 条件付フォーマットの優先順位変更, 3-11
- 条件付ヘッダー・フォーマット
- 作成, 3-13
- 説明, 3-10

新機能

- 概要, 1-5
- シングル・サインオン
 - 概要, 2-15
 - パスワードと Discoverer パスワード, 2-15

す

- ストップライト・フォーマット
 - 作成, 3-12
 - 説明, 3-10

せ

- 接続
 - 概要 (Discoverer 接続を参照), 2-2
- セル
 - フォーマット設定, 3-8

そ

- ソート
 - ワークシートのアイテムおよびメジャー, 3-17

ち

- 直接接続
 - Discoverer Viewer の起動について, 2-7

て

- ディメンション
 - 階層について, 1-8
 - ディメンション属性について, 1-8
- データベース・アカウント
 - 概要, 2-10
- テーブル・ワークシート, 1-6
- 電子メール
 - 電子メールを使用したワークシートの送信, 3-8
- 電子メール・ワークシート
 - html フォーマット, 4-5

と

- ドリル
 - Discoverer Viewer の使用, 3-17
 - 関連接続と OLAP 接続の違い, 4-53
 - ワークシートでのドリル・アップ, 3-18
 - ワークシートでのドリル・ダウン, 3-18
- ドリルページ
 - ダイアログ情報, 4-17
 - 表示方法, 4-53

は

- パラメータ
 - Discoverer Viewer で使用, 3-16
 - Viewer での Discoverer ポートレット・ワークシート起動時の LOV エラー回避方法, 4-18
 - 索引および値の使用, 3-16
- パラメータ値
 - ワークシートへの異なるパラメータの適用, 3-16

ひ

- 開く
 - ワークシート, 3-2

ふ

- フォーマット
 - ワークシート・アイテムおよびセルのフォーマット設定, 3-8
- 複数のブラウザ・ウィンドウ
 - 開く, 2-2

ほ

- 保存済選択
 - 適用, 3-19

め

- メモリー
 - 列が多数あるワークシートの印刷にメモリーがさらに必要な場合の回避方法, 4-37

よ

- よくある質問, 2-10

れ

- レイアウトの変更
 - ワークシート, 3-19

わ

- ワークシート
 - アイテムおよびメジャーのソート, 3-17
 - 印刷, 3-4
 - エクスポート, 3-5
 - 概要, 1-6
 - クロス集計について, 1-7
 - 異なるパラメータの適用, 3-16
 - タイプ, 1-6
 - テーブルについて, 1-6
 - ドリル・アップ, 3-18
 - ドリル・ダウン, 3-18
 - 開く, 3-2
 - 保存方法, 3-3
 - レイアウトの変更, 3-19
 - ワークシートのエクスポート
 - html フォーマット, 4-5
 - ワークシートのプレビュー
 - 印刷前, 3-4
 - ワークシートの保存, 3-3
- ワークブック
 - 概要, 1-6